# 文京区男女平等センター30年記念誌

## きのう きょう あしたへ

〔平成28年10月〕

文　　京　　区

文京区女性団体連絡会

# 目 次

「男女平等センター 30周年にあたって」文京区長　成澤廣修…… 2
「30年誌発行のご挨拶」文京区女性団体連絡会会長　岡田伴子 …… 3
「文京区男女平等センター開設30年に寄せて」
UN Women日本事務所長　福嶌香代子 …… 4
男女平等センター 30周年記念事業　トーク＆コンサート…… 6
男女平等センター 30周年記念事業　男女共同参画週間記念シンポジウム …… 8
シンポジウムを終えて …… 13
30年のあゆみ …… 14
男女平等センターの歴史 …… 16
センターまつり　ポスターで綴る30年 …… 18
センターまつり　講演会 …… 21
センターまつり　コンサート …… 21
男女共同参画週間記念事業 …… 22
プラスワンセミナー …… 23
講演会・トーク＆シネマ（コンサート）…… 25
DVD鑑賞＆懇談会 …… 25
利用者懇談会 …… 26
区政を知る懇談会 …… 26
こどもまつり・子どもフェスティバル・
ファミリーフェスティバル・ワクワクこどもフェスタ …… 27
国際関係 …… 28
父と子の料理教室　お父さんと一緒にチャレンジクッキング …… 29
未来の女性科学者育成事業（女子中学生のための科学への招待席）…… 29
裁判ウォッチング …… 29
配偶者暴力の防止等啓発事業 …… 30
登録団体活動報告会 …… 30
文京区男女平等センターだより …… 31
資料コーナー …… 32
文京区の男女平等施策と男女平等センター …… 34
男女平等参画区民意識調査からみる区の変化 …… 35
文京区男女平等参画推進条例 …… 40
文京区男女平等センター施設概要 …… 44
資料編 …… 45

# 男女平等センター30周年にあたって

文京区長　成　澤　廣　修

男女平等センター開設30周年を心よりお祝いいたします。これまでに当施設の運営や、本区の男女平等施策に携わってこられたすべての皆様の取り組みに思いを致すとともに、改めて感謝申し上げます。

当施設は、1975年(昭和50年)の国際婦人年を契機に、女性の学習人口や女性問題解決の機運が高まる中、昭和61年に「文京区婦人センター」という名称で開設されました。昭和63年に100を超える区内の女性団体からなる文京区婦人団体連絡会が発足、平成3年からは、文京区女性団体連絡会に名称が変わり、婦人センターから名称を変更した女性センターの自主運営に踏み出されたことは、全国的にも先駆的な取り組みでした。

本区は、日本初の女子高等教育機関の開設や、女性による文芸誌「青鞜」の発祥など、日本の女性活躍の黎明期を育んだ地です。この地で女性施策の先頭にあった文京区女性団体連絡会は、当センターと共に、本区の女性活躍の歴史を刻んできたと言えましょう。

また、平成25年に制定した文京区男女平等参画推進条例では、性別に起因する差別的な取扱いや人権侵害への禁止事項について、性的指向又は性自認に起因するものを含めることを明記するなど、自治体における先進的な条例として注目を集めています。

昨年4月には、こうした歴史的な背景や女性施策、また教育機関が集積する地域特性から、本区に国連機関UN Womenのアジア唯一のリエゾンオフィスが開設され、この連携協力のもと、He For She や女性への暴力防止オレンジキャンペーン、女性のエンパワーメント原則の周知など、区の取り組みも国際的な視点を踏まえたものとなってきました。

この30年の間に、男女雇用機会均等法、男女共同参画社会基本法、次世代育成支援対策推進法、そして女性活躍推進法と、ジェンダー（社会的性差）平等と女性の社会参画の法制度が成立し、女性が社会の中で選択できる範囲は大きく広がりました。

しかしながら、女性活躍の法制度が整い、昨年の区民意識調査でも、男女平等に関する理解は進んでいるものの、家事、育児や介護の負担の中心が女性であることは、今も変わっていません。

2015年に国連が採択した「持続可能な開発のための2030アジェンダ（SDGs)」では、ジェンダー平等の実現は2030年までに達成すべき目標の1つとされています。

グローバル化や時代の流れの中で、男女平等もその課題も変化していきます。人口のほぼ半分を構成する女性が、あらゆる分野で平等参画していると宣言できるまで、皆様とともにこれからもたゆまず取り組んでまいりたいと存じます。今後とも男女平等センターに期待しています。引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

# 30年誌発行のご挨拶

文京区女性団体連絡会会長　岡　田　伴　子

文京区男女平等センターは開設30周年を迎えました。

女性の地位向上のための学習、交流そして活動の場として昭和61年（1986年）、婦人センターが開設されました。女性が主体となって多くの人が集い、一緒に医療、健康、環境問題、高齢者のことなどの学習、そして諸活動を活発に行ってきました。2年後にできました文京区婦人団体連絡会は平成3年（1991年）に文京区からセンターの管理委託を受け自主運営を開始いたしました。この自主運営方式は、全国的にも類を見ないめずらしいケースでした。

センターは社会の変化にともない平成3年（1991年）「女性センター」、そして平成14年（2002年）「男女平等センター」と名称を変えて現在に至っています。平成18年（2006年）4月からは文京区女性団体連絡会が男女平等センターの指定管理者として管理運営を行っています。

この様に30周年を迎えることができましたこと、また指定管理者として管理運営ができますことは、運営方法、組織、事業の在り方などについて強固な土台作りをしてくださった諸先輩の方々の賜物であることに感謝申し上げます。

文京区女性団体連絡会の常任委員が区の男女平等参画推進計画のもとに事業を行うことは、用語の理解、講演会の企画、セミナーの講師探しなど様々な困難を乗り越えなければなりません。しかし、皆さんは置かれた立場でしっかり力を出してくださり、素晴らしい講師をたくさんお呼びすることができました。なかにはどうしてもお呼びしたい講師に、電話と手紙を出し続け、講師も「その熱心さに負けてしまった」といって来てくださった方もいました。

これまで男女平等社会の実現に向けて、様々な事業を行ってまいりました。しかし、男女の労働賃金格差の是正、固定的役割分担意識の改革、意思決定の場への女性関与など今後の課題が山積しています。

文京区では平成25年（2013年）、文京区男女平等参画推進条例が施行されました。早速、事業の1つであるプラスワンセミナーで取り上げ、皆様に条例の基本理念を理解していただきました。男女平等参画推進にとって大きな前進です。

そして昨年平成27年（2015年）には文京区シビックセンター内にUN Women日本事務所が開設されました。「ジェンダー平等と女性のエンパワーメントのための国連機関」が文京区内にできましたことを大変心強く思います。

これらを契機に文京区女性団体連絡会は、男女平等社会の実現に向けて、この男女平等センターを拠点とした活動の充実と、各団体相互の交流をさらに深めてまいりたいと思います。どうぞ皆様方のご支援、ご協力をこれからもよろしくお願い申し上げます。

# 文京区男女平等センター開設30年に寄せて

UN Women日本事務所長　福　嶌　香代子

文京区男女平等センター開設30年おめでとうございます。

文京区が女性の地位向上と男女平等参画社会の実現に向けて先進的な取り組みを行われる中で、文京区男女平等センターが、長い年月にわたりその活動拠点として様々な取り組みを推進されていることに深い敬意を表します。

UN Womenは、2010年の国連総会決議に基づきニューヨークに設立された「ジェンダー平等と女性のエンパワーメントのための国連機関」（下記（注）参照）です。UN Womenは、国連加盟国がジェンダー平等に向けて世界共通の基準を設定するにあたって支援を行い、こうした基準を実施するための各国の取り組みを支援しています。女性のリーダーシップと参画、女性に対する暴力の廃絶、女性と平和・安全保障、女性の経済的エンパワーメント、国家の開発計画と予算へのジェンダー平等の反映をその優先活動領域として取り組み、国連システム全体におけるジェンダー平等の取り組みを主導・調整する任務も担っています。

UN Women日本事務所は昨年4月に文京区の協力を得て文京シビックセンターに開設され、日本の政府、議員、企業、学術界、市民団体・女性関連団体、メディア等とパートナーシップを築き、UN Womenの役割と活動について広報するとともに、政策対話を行っていく役割を担っています。当事務所が文京区の関係者の方々との連携を進めていく中で、男女平等センターからは、昨年8月の当事務所開所式における岡田会長様のご祝辞、10月の「男女平等センターまつり」におけるUN Women関連の展示、11月の女性への暴力撤廃のためのキャンペーンへのご協力など、大きなご支援を賜っていることに感謝申し上げます。また、本年7月に文京区、男女平等センター、スウェーデン大使館、UN Women日本事務所の共催により、男女平等センターにおいて男性を対象としたスウェーデン料理教室を開催するなど、共催行事や相互のイベントへの参加を通じて連携が深まっております。

昨年は、北京宣言及び行動綱領採択20周年にあたり、また、国連において「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、目標５の「ジェンダー平等を達成しよう」をはじめとして17の目標全てにジェンダーの視点が盛り込まれています。UN Womenは2030年までにジェンダー平等の実現をめざす「Planet 50-50」を掲げており、日本においても取り組みを加速化させることが重要です。今後も相互の緊密な協力を通じて、男女平等センターが国連の視点や経験を活用しながら、地域に密着した活動を推進され、ジェンダー平等社会の実現に向けて貢献されることを期待しております。

（注）ジェンダー…ある時代のある社会が、そこに所属する男性・女性にとって「ふさわしい」とする役割、行動、性質など、生物学的な性差に付加された社会的・文化的な性差のこと。
エンパワーメント…女性が自らの生活への制御感と権利を獲得すること。

# 文京区男女平等センター
# ３０年のあゆみ

トーク＆コンサート

## 「クラシック音楽にも男女平等を!!」

～女性の作曲家たちのかくれた名曲を聴く～

平成28年6月4日（土）14：00～16：00　文京シビックホール小ホール

出演：吉川真澄（ソプラノ）
上野由恵（フルート）
山本直輝（チェロ）
鷲宮美幸（ピアノ）
企画・監修・お話：小林　緑（国立音楽大学名誉教授）

男女平等センター開設30周年を記念して、文京シビックホールにて表記のとおりのトーク＆コンサートが開かれた。

当日は小ホールを埋め尽くす多くの方が参加し、小林緑さんによる解説とチェロ、ピアノ、フルートの演奏、並びに声楽の演奏を楽しんだ。

この企画の目指すものについては、小林さんご自身が当日参加者全員に配布されたプログラムの中で次のように述べている。

「いまだにクラシック音楽界では、女性の作曲家はほとんど無視されたままですが、実は歴史上無数の女性たちが、さまざまな作品を残していました。しかも現在なお、広く愛され、親しまれている作品が、実は女性の手によるもの、という例も少なからずあるのです。今回はそこに焦点を当てて、『え？これ、女性が作ったものだったの!?』と驚きと楽しみをともに満たしたいものとしてプログラミングしてみました。

これをきっかけに音楽でも男女の創造力に差はない、違いは個性のみ･･･という事実をしっかり確認していただきたいと思います。」

『女性作曲家列伝』（平凡社選書、小林緑著、1999年）を執筆した小林さんは、ご自身の編著になる冊子『女性作曲家ガイドブック2016』の中で、女性の作曲家を研究対象にされた当初のお気持ちについて、このように述べている。「実を言えば『女性と音楽』という領域に研究者としての関心を傾けるようになった当初から、私にとってこの『女性』は単に生物として男性に対する人類の半分を指すものではなかった。

楽器や地域、ジャンルや演奏法など、西洋近代化が進むにつれ周縁に追いやられ、無視されるようになった音楽上の諸相までを含め考えていたのである。

各国の忘れられた作曲家の数多さにも驚くばかりだが、なんといっても女性の作曲家という存在に初めて気付いたことは、私にとってまさに別次元の衝撃だった。」と。このように西洋近代化の中で置き去られたものの中に女性作曲家も含まれていたこと、又そのことに気付かずに過ごしてきた現実に衝撃を受けたことについて記されている。

続けて、フロランス・ロネイの言葉を引用し、「音楽史はどれほど嘘と省略から成り立っているのか」という言葉こそ世界中の音楽研究者に共有されるべきと強く思う、と述べている。19世紀、特にフランスには傑出した女性作曲家が数多く現れていたにも関わらず、その作品の発表の場が大きなコンサートホールや教会など公の場ではなく、自らの居間やサロンのような個人的な場であることが多かった為に、人々の耳目を集めることもなく忘れ去られてしまうことになったのであろうことについても言及している。まさに、その時代、時代に女性が社会的に置かれた状況そのものこそが、女性作曲家の多くが音楽史の中からこぼれ落ちてしまった源ともいえるのではないだろうか。

当日のコンサートプログラム

第1部

- テクラ・ボンダジェフスカ＝バラノフスカ（1834-1861）『乙女の祈り』（ピアノ独奏）
- クララ・ヴィーク＝シューマン（1819-1896）
  『ピアノ協奏曲イ短調作品7：第2楽章　ロマンツェ』（チェロとピアノ）
- マリー・ヴィーク（1832-1916）『スカンジナヴィア民謡による幻想曲』（チェロとピアノ）
- セシル・シャミナード（1857-1944）『ピエレット』『森の精』（ピアノ独奏）
  『星のセレナード』『コンチェルティーノ』（フルートとピアノ）

第2部

- 吉田隆子（1910-1956）
  『君死に給うことなかれ』（歌とピアノ）『お百度詣で』（歌、朗読、チェロとピアノ）
- ポリーヌ・ガルシア＝ヴィアルド（1821-1910）
  『星』（歌とチェロとピアノ）『可愛い鶯』（歌とフルートとピアノ）
- ルイーズ・ファランク（1804-1875）『フルート三重奏曲』（フルート、チェロ、ピアノ）

アンコール

- 『ベサメムーチョ』（出演者全員）

心地よい音楽に触れ、演奏者としてばかりではなく、作曲者として活躍をした多くの女性音楽家の実在したことにも目を開かされたコンサートであった。

男女共同参画週間記念シンポジウム

# 「いきいきと！　くらしも仕事も地域でも」

平成28年6月25日（土）14：00～16：00　男女平等センター研修室A

## 基調講演

**堀内光子さん（文京区男女平等参画推進会議会長）**

文京区男女平等センター開設30周年ということですので、この30年間、何が変わって、何が変わらなかったのかを中心にお話しさせていただきます。このセンターが開設されたのは、ちょうど男女雇用機会均等法が実施された年です。したがいまして、男女雇用機会均等法ができて30年経ったわけです。30年経ったにもかかわらず、女性が意思決定に参画する割合はわずかしか増えておらず、日本はまだまだ課題の多い国だと感じています。

みなさまはすでにご存じのことと思いますが、毎年、世界経済フォーラムが発表する男女格差指数の日本の順位は、2015年、145か国中101位でした。この指標は2006年から発表されていますが、日本の改善は遅々として進んでいません。他のアジアの国々を見ましても、その多くが日本より上位です。ちなみにフィリピンは常に10位以内をキープし、昨年は7位でした。

何故日本がこのような状況になっているかといいますと、原因は雇用と政治の分野です。経済活動と政治の分野で、日本の女性の状況は男性に比してかなり低くなっています。これが、日本が残念な結果になっている原因です。日本の企業では、女性の管理職が非常に少なく、また、男女間の賃金格差も大きいです。政治エンパワーメントもかなり遅れています。日本の男女間格差を是正するためには是が非でも、この2分野を改善する必要があると思います。

次に、センターが開設してからの30年間、世界や日本の動きはどうだったでしょうか。前年の1985年に第3回世界女性会議がナイロビで開催されました。その年に日本は、国連女子差別撤廃条約を批准しました。批准するために作ったのが、男女雇用機会均等法です。

その後、1995年に第4回世界女性会議が北京で開催、今から17年前の1999年に男女共同参画社会基本法が施行されました。そして昨年2015年には女性活躍推進法が施行され、事業主の行動計画策定（301人以上の事業主は義務）が4月から施行されているという状況です。

一方、文京区では1986年に当センターが開設されて以来、2001年には男女平等参画推進計画が策定され、現在は2017年改定のための作業を行っています。また、2013年には、文京区男女平等参画推進条例が施行されました。条例は法的枠組みの一部であり、文京区民や事業主も条例に基づいて行動するのが責務ですので、条例の制定は文京区にとって大きな成果だと思います。

今後の文京区の課題を考える場合、まず留意しなければいけないのは文京区が都市型社会であり、雇用問題が重要な課題であるということです。長時間労働などを改善する働き方の改革が是非とも必要だと思っています。その他の課題としては、地域社会のリーダー的存在への女性の参画、増加している若い既婚女性が抱えている子育て問題の解消、安心・安全な生活環境の整備などです。

最後になりましたが、現在、国内の100歳以上人口が5万人を超えるほど、日本は超高齢化社会となっています。若年層の抱える子育て問題と同様に重要なのは、高齢者が地域でいきいきと活躍できる社会の確立です。本日ご出席のパネリストの発言に期待させていただき、私の話を終わらせていただきます。ありがとうございました。

## パネリスト

**小林千恵さん（日産自動車㈱ダイバーシティディベロップメントオフィス室長）**

新卒で入社し、25年以上になります。3年前から現職におります。2005年にブラジルへ出向しましたが、その時は夫とは別居、子どもだけ連れて赴任いたしました。この10年間、弊社では10人の女性が海外出向をしていますが、近頃では夫が仕事を休職または退職して妻の赴任先へついて行くという例も多くなり、時代も変わったと驚いています。

私が所属している部署では、女性の活躍を経営戦力の一部として位置づけています。各部門の役員や生産部門の副社長などと協議し、仕事とライフの両立という視点から生産ラインや販売など、さまざまな部署にダイバーシティの視点を入れることを意識的に行っています。

ダイバーシティディベロップメントオフィス設立当初、女性の管理職は1.6％ほどでしたが、今年の4月には約9％となり250人ほどになりました。そのうち部長職は60人以上います。このように進められた要因のひとつとして、キャリアサポートの制度があります。産休に入る前に60歳になるまでのキャリアを考えさせるプレママセミナーや育児休暇、時短勤務、そしてそのような部下を抱えるマネージャーの意識改革にも積極的に取り組んでいます。

近頃の課題としましては、男性も含め社員の中で責任のあるポストを積極的に望まないという声が無視できない数値で上がっていることです。仕事重視の人生よりも、仕事と同様にライフも楽しみたいという考えがその根底にはあります。ライフを犠牲にしない、みんなが望む働き方を役員も管理職もできるような改革の必要性を感じています。

**光畑由佳さん（有限会社モーハウス代表）**

会社名のモーハウスは、マザーのMoから命名しました。お母さんのお母さんによるお母さんのための会社という意味です。肌を露出せず自然に授乳ができる服を広め子育て中家庭にこもらないようにすることで、社会と子育てをもっと混ぜる、社会の中での子育てを推進しようという取り組みをしています。

以前、私がこの服を着たときに、「子育ては大変だけど、どうにか頑張ろう」から「子どもがいるからこそ、楽しい」に自分の考えが180度変化しました。その気持ちを若い女性に説明するときには、例えばパスポートを手に入れたときのような、初めて一人暮らしをしたときのような気持ちと伝えています。文化大学の先生と調査した数値でも、普通の服で授乳した時のストレス数値は上がるのに、授乳服の場合はストレス数値が下がるという結果が出ています。

かつての日本の農村などでは、労働の場に子どもがいて当たり前の環境がありました。現在の都市部ではなかなか難しいことですが、弊社では赤ちゃんを抱っこしながら働いています。赤ちゃんのいるオフィスで仕事ができるのか疑問に感じる方もいると思いますが、会社を訪れた人はその静かさに驚きます。このように社会の中で子育てする、みんなで子育てすることが大切だと思っています。

現在、弊社で作った授乳服や下着は、母親ばかりでなく年齢層を限らず乳がん患者の方々にも注目され始めています。また、女性にやさしい社会は男性にもやさしい社会だと思っています。私たちの活動は本当に小さな活動ですが、それらを通してすべての人間がいきいきと生きられる、そんな活動に広げていきたいと考えております。

**和田　悠さん（立教大学文学部准教授）**

私自身は専業主婦家庭で育った一人っ子です。母は地縁、血縁のない場所で孤独な子育てをしていたと今にして思います。中学受験で私立中学校へ進学したこともあり、地域における人間関係はまったくといっていいほどありませんでした。親戚づきあいもなかったこともあり、自分の子どもが事実上はじめて抱く赤ちゃんでした。典型的な現代っ子です。

リーマンショック以前で、連れ合いが正規雇用だったことから待機児童問題は回避でき、認可保育園に入園することができました。私は非常勤講師で時間的余裕もあり、保育園の行事や保護者会などに積極的に参加しました。特に印象的なのはバザーの後の飲み会。地域の多様な人との出会いの場でした。地域は面白い！地域にこだわって何かをやりたい！という思いがふつふつとわいてきました。

それからは居住地でさまざまな活動をしてきました。大学で教えているキャリアを活かし

て地域で市民の自由な学びの場をつくることもしてきました。また、子育てを通じて地方自治体が身近なものにかわり、私たちの暮らしにとっていかに重要であるかにも気づきました。子育て仲間と一緒に、保育園の0歳児の布おむつの継続をもとめる陳情を出して議会を通したこともありました。

こういう話をすると「イクメン」と言われます。ですが、全国的にみれば男性の育児休業取得率はまだ5%に届かない現状があります。2000年代半ば以降から男性の育児参加ということが政策的にも本格的に追求され始めましたが、性別役割分業の壁は厚いです。男性の育児参加を促そうと「イクメン」ブームを仕掛ける側は「子育てを楽しもう」というメッセージを積極的に発信しています。ですが、これでは、「父親は許す範囲内で、育児をすればいい」という社会的通念を超えられないのではないか。「父親を楽しむ」ことと同時に、社会のなかで「男であること」の特権性を自己批判する作業を経ることで、気負うことなく、自然体でのびやかに生きていくことも可能になると思います。

## パネルディスカッション

**堀内**：日本の労働者の9割近くの方が企業で働いていますが、そこでは家庭、企業、地域の生活の分離が起こっています。男性の育児休業取得率を上げるためには、急進的ではありますが、男性の育児休業取得を法律で義務付ける必要性も感じています。男性の育児というものについて、企業社会と地域社会それぞれでの課題について補足をお願いします。

**和田**：自分は企業で働いたことがないので何ともいえませんが、小林さんの話にあった管理職になりたがらない男性社員という現状から、男性側のジレンマが感じられます。企業社会だからという理由で、妻が夫の自立を免罪してはいけません。いい意味での生活共同を夫婦間で確立すること、家庭の中での人間関係を動的に考えることが必要だと思います。

**堀内**：企業の中でもいろいろな配慮をしてきていると思いますが、仕事も生活も楽しみたいから管理職は望まないという社員がいる状況です。今後すべきことは、どのようなことでしょうか。

**小林**：情報化社会が進んだことによって常に新しい情報に対応するなど、管理職も以前より忙しくなっているのが現状です。弊社では長時間労働を減らす取り組みとして、1日8時間勤

務を推奨しています。業務内容を見極めて無駄を排除する、毎週進捗管理をするなど、一人ひとりの職場での取り組みが不可欠だと思います。

**堀内**：働き方が課題だとおっしゃいましたが、先進国では日本が極めて長い労働時間になっています。その理由は何だと思いますか。

**小林**：国民性なのでしょうか、メンタリティの問題だと思います。欧米では休暇中の1か月間は、メールボックスさえ開かない人が多いです。ですが、日本人は休暇中に起こったことまで把握しようとします。欧米では、休暇中に起こったことを責任者が知らなくても非難されませんが、日本では休暇中であっても把握しておくのが当然という空気もありますから。

**堀内**：働き方もしくは職場という点からいうと、光畑さんの会社は子どもを職場につれていくという環境ですね。その環境は、日本または海外でどのような捉え方をされているのでしょうか。

**光畑**：日本では、まだまだ珍しいと反応されます。以前、テレビ番組で弊社の取り組みを在日外国人に紹介して感想を聞くという場面がありました。欧米の方々は今の時代だったらあり、という反応だったのですが、アジア・アフリカの方々の反応は自分の国では無理、でした。また、国際会議で日本の現状を紹介する機会をいただいたとき、他の国でも都市部では同様の問題が起こっている、という反応でした。そこでさらに言われたことは、日本には他の国よりも育児休業制度など充実しているにもかかわらず、何故それを利用しないのかということです。そこで、私は「ガラスの天井」という言葉を思い出しました。女性自身が、自分の行動を自ら制限してしまっているのです。その殻を破るためには、是非とも大きな外からの力が必要だと思います。堀内先生のおっしゃった男性育児休暇取得の法律など、大きなパワーが必要だと思っています。

**堀内**：大きな力でガラスの天井を破るとともに、トップの行動のあり方も見直さなくてはいけませんね。みなさま、本日は貴重なご意見をありがとうございました。

## シンポジウムを終えて

先日開催した当センター開設30周年記念シンポジウムにおいて指摘されたように、この30年間残念なことに女性の地位向上はそれほど進んでいない。男女格差指数①も145か国中101位と、最下位から数えた方が近いという状況である。

だが、社会の有り様の移り変わりとともに社会や家庭での女性の立場も少しずつではあるが刻々と変化を続けてきている。

にもかかわらず、妊娠や出産、介護等を理由に、就業を中断せざるを得ない女性も未だ数多くいる。その理由として勤務時間の問題や両立支援の雰囲気不足、マタニティハラスメント②等が主に挙げられている。何らかの理由によって一度職場を離れた女性は、再就職する際、税制や社会保障制度による就業調整の影響等により、安定した正規雇用ではなく、不安定・低収入の非正規雇用にならざるを得ない。そのことが女性の低年金の主原因となり、高齢になるほどその格差は拡大しているという現実がある。近年対応が急がれている若年層のデートDV③も含め、女性に対する肉体的、精神的等さまざまな暴力被害も拡大している。

このように、未だ女性が社会的に不利な立場に置かれていることに変わりなく女性は多くの課題を抱えている。

また、男女共に考えなければいけない課題も多い。ネット環境の広がりによって、年代や地位を問わず仕事量が増加し、公私のバランスがとりにくくなっている。これはワーク・ライフ・バランス④を考える上で重要な課題である。来るべき超高齢化社会での男女の生き方やジェンダー⑤にとらわれない社会への変革も考えるべき課題である。

当センターが開設20年誌を発行してからの10年間、社会情勢は大きく変化してきた。男性が子育てに積極的に関わる「イクメン」、パートナーに対する暴力を表す「ＤＶ」などの言葉の認知度も上がった。育休制度等を取り入れる企業も徐々にだが増える傾向にある。平成25年には、文京区男女平等参画推進条例も施行された。にもかかわらず、それらの制度が期待以上に効果を上げていないのは、個々人の価値観がそれらの新しい制度を受け入れるまでに至っていないという本質的な部分に起因するのではないだろうか。

今後もさまざまな課題と向き合いながら、個を大切にすることが男女平等につながることを自覚し、新しい感覚を取り入れながら真の意味の男女平等社会の実現に向けて発信し続け、女性に優しい社会はすべての人に優しい社会であると信じ、今後も活動を続けていきたい。

（注）

①男女格差指数…世界経済フォーラム（World Economic Forum）が発表する各国における男女格差を測るジェンダー・ギャップ指数（Gender Gap Index：GGI）。本指数は、経済、教育、政治、保健の4つの分野のデータから作成される。

②マタニティハラスメント（通称マタハラ）…職場において妊娠・出産した人に対して、妊娠や出産をしたことが業務上支障をきたすという理由で、精神的・肉体的な嫌がらせを行う（ひどい場合には退職にまで至る）行為を指す言葉。

③デートＤＶ…交際中の若いカップルの間で起こる暴力行為。殴る、蹴るといった身体的な暴力のほか、罵倒（ばとう）する、金銭を要求する、性行為を強要するなどの行為も含まれる。

④ワーク・ライフ・バランス…「仕事と生活の調和」と訳される。もともとは1970年代以降の欧米で用いられた言葉。近年の日本では、個人のライフスタイルやライフステージに応じた多様な働き方の実現を目指す考え方として用いられている。

⑤ジェンダー（gender）…生物学的な性別（sex）に対して、社会的・文化的につくられる「男性とは」「女性とは」という考え方に基づいた性別のこと。

# 30年のあゆみ

文京区婦人会議設置　1979(昭54)

センター建設中

1982(昭57)　文京区婦人行動計画策定

宮田愛子
元文京区女性団体連絡会会長

文京区婦人センター建設準備　1985(昭60)

婦人センター運営協議会

1986(昭61)

文京区婦人青少年課設置

**文京区婦人センター開設**

オープニングセレモニー　テープカット

文京区婦人団体連絡会発足　1988(昭63)

文京区女性センター開設10周年 センターまつり
遠藤正則 元文京区長（左）
大野登美子 元文京区女性団体連絡会会長（右）

1991(平3)

婦人青少年課を女性青少年課に
婦人センターを女性センターに
文京区婦人団体連絡会を文京区女性団体連絡会に改称

文京区女性団体連絡会による
女性センターの自主管理運営開始

**文京区女性センター開設10周年**　1995(平7)

文京区女性団体連絡会第一回総会

文京区基本構想策定
文京区男女平等参画推進計画策定　2001(平13)

女性青少年課を
男女平等青少年課に改称

女性センターを
男女平等センターに改称　2002(平14)

文京区男女共同参画推進会議を
文京区男女平等参画推進会議に改称

2004（平16）　文京区男女平等参画に関する区民意識・生活実態調査実施

文京区男女平等参画白書発行

**文京区男女平等センター開設20周年**

2005（平17）

大川米子
前文京区女性団体連絡会会長

開設20年記念講演
「男女平等を目指して20年」坂東眞理子

2006（平18）　男女平等青少年課を男女協働・特命担当課に改称
文京区女性団体連絡会が指定管理者として管理運営を受託

成澤廣修文京区長が育休宣言　2010（平22）

2011（平23）　文京区男女平等参画推進計画改定
文京区ワーク・ライフ・バランス推進企業の認定開始

ギャラリーシビックにおけるワーク･ライフ・バランス推進認定企業展示会の様子

文京区男女平等参画推進条例施行　2013（平25）

2015（平27）　UN Women日本事務所 文京区に開設

UN Women日本事務所開所式
福嶌香代子 UN Women日本事務所長（左）
ブムズィレ・ムランボ＝ヌクカ UN Women事務局長（中）
成澤廣修文京区長（右）

**文京区男女平等センター開設30周年**　2016（平28）

# 男女平等センターの歴史

## ＊設立までの背景

昭和50年、女性の地位向上、社会進出を願う機運の高まるなか、第1回世界女性会議がメキシコで開催された。世界行動計画の採択、国連婦人の10年宣言がなされ、世界の女性たちのますますの覚醒、行動が活発になっていった。

それを受けて昭和52年、我が国でも婦人問題企画推進本部が国内行動計画を発表、翌53年には東京都が婦人問題解決のための東京都行動計画を発表した。文京区にあっては昭和54年、文京区基本計画（第一次）を策定、同10月、文京区婦人会議を設置することとなった。

その後、昭和55年には国連婦人の10年が継続され、第2回世界女性会議がコペンハーゲンで開催された。昭和57年には文京区婦人行動計画を策定。文京区として独立した婦人会館の建設のため土地取得から始まる各準備が具体的に進められることになった。

昭和60年には女性のための画期的法律、男女雇用機会均等法が制定され、同6月、女子差別撤廃条約を批准、同7月、国連婦人の10年の最終年、第3回世界女性会議においてナイロビ将来戦略が採択されている。

昭和61年、文京区に婦人青少年課が設置され、同9月、待望の文京区婦人センター開設、昭和63年12月には文京区婦人団体連絡会が発足した。

## ＊自主管理運営はじまる

平成3年4月、センターの自主管理運営委託を文京区女性団体連絡会総会において受け入れると決定。婦人センターは女性センターに、婦人青少年課は女性青少年課に改称された。

区民による区施設の自主管理運営は当時としては画期的な事例として、多くの関心と注目を浴びたものであった。事業の取組も、新たに女性の自立、社会進出を目指しプラスワンセミナー、講演会、区政を知る懇談会、センターシネマ、センターコンサートを開始し、センターの所在をアピールしつつ、啓発活動を進めてきた。

この間、国では育児休業法成立。国連では女性に対する暴力の撤廃に関する宣言を採択している。

平成7年、第4回世界女性会議では北京宣言と行動綱領が採択された。当センターでは、開設10周年の記念事業として記念講演会、記念シンポジウムを開催、10年記念誌を発行した。

## ＊文京区男女平等センターとなる

平成11年、国では男女共同参画社会基本法施行。翌12年、東京都男女平等参画基本条例制定。

文京区では平成13年、文京区男女平等参画推進計画を策定し、翌14年、女性青少年課は男女平等青少年課に、文京区女性センターは文京区男女平等センターに改称された。またセンターへの登録要綱を変更し、原則使用料は有料、ただし、男女平等参画社会の実現を目指す旨の活動に資することには使用料の5割を減額とした。

平成16年から国際女性の地位協会との共催事業を実施。翌17年、文京区として初めての男女平等参画白書を作成。この年、文京区男女平等センター開設20周年を迎え、シビックセンターで男女平等センター 20年のあゆみ展、記念講演会、20年記念誌を発行した。

## ＊指定管理者を受託

平成15年の地方自治法の改正による指定管理者制度の導入により、公の施設の管理について区が直接運営するか、または区が指定した管理者が運営にあたるかいずれかを選択することになった。

第18回文京区女性団体連絡会総会において文京区男女平等センターの管理運営の指定管理者を受けることを決定した。12月の区議会で正式に指定管理者として承認され、平成18年4月よりスタート、3年間を1期として継続、平成27年からは5年間の指定を受け今日に至っている。

主要事業としてのプラスワンセミナーに世界の女性、男女平等、ワーク・ライフ・バランス、人権を課題として取り上げた。また女性の人権と国連支援、女性に向かう暴力の実態、ジェンダーという概念を通して知る女性力の啓発など、広く知識の学習と啓発に努めてきた。

長期に継続されてきた区政を知る懇談会、裁判ウォッチングの他、新たに女子中学生を対象とした未来の女性科学者育成事業、固定的な役割分担意識を克服する父と子の料理教室、登録団体企画事業助成が開始されている。平成27年度からは配偶者暴力の防止等啓発事業、登録団体活動報告会が新たな事業として取り入れられている。

また、平成25年には、待望の文京区男女平等参画推進条例が制定され、当センターが文京区における男女平等参画推進の拠点と明記されるなど、その役割は益々大きくなった。

本年は、文京区男女平等センター開設30周年を迎え、記念トーク＆コンサート、シンポジウムを開催し、記念誌を発行する。

## ＊これからの展望

仕事と生活の調和（ワーク･ライフ･バランス）憲章、文京区男女平等参画推進条例制定、UN Women日本事務所開設による共催事業の開催、また国では女性活躍推進法も施行されている。

こうして法の制定や整備が行われているが、見えにくい新たな女性問題が山積している。女性への性暴力、社会進出をさまたげていると思われる配偶者控除制度の見直し、児童虐待の現状と取組、深刻な職場でのパワーハラスメント、女性のワーキングプア・貧困層の実態、男女の雇用格差・非正規雇用の女性たち、女性の活躍の障壁、マタニティハラスメント、遅れている女性の政治参画、介護離職と再就職の不安、女性の健康管理、女子学生の理工系進出への支援など、時代や社会の変動にともなう女性問題に敏感な視点をもつとともに、性に対する多様な考え方にも対応していきたい。

# センターまつり

センターまつりは、男女平等センター登録団体に呼びかけ、企画運営委員を募集して毎年開催されている。まつり企画運営委員会ではその年の社会背景や関心のあるテーマをまつりのタイトルにかかげ、センターオープン以来30年間続けている。

団体相互の交流と地域の皆さんとの交流を深めることも目的としている。

## ポスターで綴る30年

第1回1986年

第2回1987年

第3回1988年

第4回1989年

第5回1990年

**婦人センターまつり**
**（第１回～第５回）**

「仲間づくり」「消費者問題」「環境」「交流」「家族」などがテーマになった。

**女性センターまつり**
**（第６回～第１６回）**

「環境問題」「老後問題」「女性の自立」「家族」「男と女」「２１世紀」などがテーマになった。

第6回1991年

第7回1992年

第8回1993年

第9回1994年

第10回1995年

第11回1996年

第12回1997年

第13回1998年

第14回1999年

第15回2000年

第16回2001年

**男女平等センターまつり**
**（第17回～第30回）**
センター名称の「男女」「平等」、また「平和」「輝」などがテーマになった。

第17回2002年

第18回2003年

第19回2004年

第20回2005年

第21回2006年

第22回2007年

第23回2008年

第24回2009年

第25回2010年

第26回2011年

第27回2012年

第28回2013年

第29回2014年

第30回2015年

## センターまつり講演会

センターまつりでは素晴らしい講師やアーティストの皆様にご協力頂き、男女平等に関する講演や生演奏を聴く機会を設け、30年間続けている。

2007年
「三代の文京区長が語る
昔･今･これから」
元区長（遠藤正則）
前区長（煙山　力）
現区長（成澤廣修）
元センター長（大野登美子）
前センター長（大川米子）
によるシンポジウム

司会：前副センター長（伊藤明子）

2008年
「篤姫 わたくしこと一命にかけ」
原口　泉（鹿児島大学教授）

2011年
「男女平等今こそ「絆」&ミニライブ」
田嶋陽子（元法政大学教授）

2013年
「575年の伝統･男女手を携えて未来へ」
和泉元彌（狂言師）

2014年
「女性が輝く社会をつくるために
～フランスの男女平等から学ぶ～」
ドラ・トーザン（国際ジャーナリスト）

## センターまつりコンサート

2010年
中西桐子（二胡）

2011年
川嶋信子（薩摩琵琶）

2013年
Shu-San（ウクレレ）

2014年　長尾春花（ヴァイオリン）
實川　風（ピアノ）

2015年
海野幹雄（チェロ）
海野春絵（ピアノ）
白井　篤（ヴァイオリン）

# 男女平等センター事業

男女平等センターではこの30年、男女平等社会の実現という目的に沿った活動を展開しているが、主なものについて紹介する。

## 男女共同参画週間記念事業

女性も男性も互いの人権を尊重し、喜びも責任も分かち合い、性別にかかわりなく、その個性と能力を十分発揮することができる男女共同参画社会の実現をめざし、平成11年6月23日に男女共同参画社会基本法が施行された。これを記念して毎年6月23日～ 29日を「男女共同参画週間」とし、当センターでも、この男女共同参画週間に合わせて毎年記念講演会を開催している。

平成19年度（2007）

平成20年度（2008）

平成21年度（2009）

平成22年度（2010）

平成23年度（2011）

平成24年度（2012）

平成25年度（2013）

平成26年度（2014）

平成27年度（2015）

# プラスワンセミナー

センター開設以来、婦人講座、女性セミナーを企画開催し、平成8年度に、セミナーに参加した方々が、1つでもプラスになることを感じてほしいという意味で、「プラスワンセミナー」の名称が誕生した。

内容は当初、それぞれの時代にあったテーマ（医療、健康、環境、政治、経済、家族、子育て、女性の自立支援、男女平等など）を中心に企画し、現在は男女平等、ワーク･ライフ･バランス、人権の3つの分野を中心に年6回開催している。

また、平成9年度～平成20年度までは、プラスワンセミナー「世界の女性シリーズ」を企画し、世界32カ国の女性をテーマに開催した。

「世界の女性シリーズ」

「ニュージーランドの女性たちは今」

## 男女平等

センターの名称になっている男女平等をテーマに、法律、社会、雇用、経済などの切り口から「男女平等ですか？～文京区における男女平等参画とは～」「女性の権利」「江戸時代に見るジェンダー」「一人ひとりがいきいきとくらせる社会「文京区」をめざして」「家庭の男女共同参画～スウェーデン、フランス、日本、アメリカの比較から～」「日本の男女平等法制を学ぶ～文京区男女平等参画推進条例との関係から～」など多くの講座を行った。また、「男女双方の視点から「災害時の助け合い～つらい思いをしたくない、させたくない～」」などは、東日本大震災後、新たな視点を持つきっかけとなる講座でもあった。

「日本の男女平等法制を学ぶ～文京区男女平等参画推進条例との関係から～」

「男女双方の視点から「災害時の助け合い～つらい思いをしたくない、させたくない～」」

## ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

ワーク･ライフ･バランスの実現に不可欠な､夫婦で助け合いながらの子育て､老後に向けての生活、女性の自立、就業支援など多岐に渡るテーマをとり上げ、幅広い年齢層にワーク・ライフ・バランスという概念を知ってもらえるように企画した。

「これからの妻の生き方、夫の生き方」、若い女性向けの「あなたが輝く女性講座Ⅰ､Ⅱ」､「なりたい自分のゴールを目指して」、また、男性の育児や介護に関する「中高年男性のワーク・ライフ・バランス～幸せの老い支度に向けて～」などの講座が好評であった。

「あなたが輝く女性講座Ⅰ」

## 人権

性差を体験する「からだと心で感じる差別　性別による差別を疑似体験しましょう！」や「DVのない社会を目指して」「女性の人権としてのリプロダクティブ・ヘルス/ライツ」「職場の女性差別　セクハラ、パワハラ、マタハラの実態」「家庭生活と社会活動の調和～マタハラの現状と課題～」など学校や職場や家庭で多方面にわたる人権問題があることを取り上げ、その実態と対応を考える講座を行った。

「家庭生活と社会活動の調和
～マタハラの現状と課題～」

「学校における性の平等教育　現状と課題」

## 講演会・トーク＆シネマ（コンサート）

当初は不定期に講演会などを年１回行っていたが、平成19年度からは男女平等の推進を啓発するための講演会、映画、演奏会などを国際女性の日（3月8日）に近い年度の後半、2月～3月に行っている。

## DVD鑑賞＆懇談会

区民の相互交流の場として、DVD鑑賞後、映画の内容などについて懇談を行った。平成23年度～平成26年度まで開催した。

「森の中の淑女たち」

DVD鑑賞後の懇談の様子

## 利用者懇談会

開設以来、利用者とセンターをつなぐ重要な懇談会として位置づけられてきた。時間帯も利用者が出席しやすいように、年3回（午前・午後・夜間）開催していたが、現在は年2回春と秋に開催している。

これまでに、各研修室への網戸の設置、トイレの洋式化、インターネットによる会場申込みなど多数の要望が実現している。

初代　宮田会長

懇談会の様子

## 区政を知る懇談会

区政を少しでも身近に感じることが出来るよう、平成5年12月の第1回以来、毎年開催している。文京区長による「区長と語る～男女平等について～」、「新人区議は語る」、文京区女性管理職職員による「女性管理職は語る」、東日本大震災後は防災課長による「いざというときに！　みんなで学ぶ防災対策～災害時の対応について～」、保育課長に聞く「今知りたい…待機児童の実態と対策」など私たちの生活に直接関係が深い身近な問題をテーマにして、年1～2回開催している。

「新人区議は語る」
新人区議の皆さんに来館頂き、懇談会参加者と質疑応答を行った。

「今　知りたい…待機児童の実態と対策」
会場に乳幼児を抱っこした母親たちが多く参加、保育園への切実な質問が出た。

## こどもまつり・子どもフェスティバル・ファミリーフェスティバル・ワクワクこどもフェスタ

子どもとのふれあいの少ないお父さんや、多忙でなかなか子どもと遊べないお母さんが、子どもと一緒に楽しめる企画を開催した。

### こどもまつり（5月5日こどもの日・平成5年～平成8年）

アニメ鑑賞・ゲーム・体操・民謡・ヴァイオリン・クラリネットの音楽会など

「クラリネットの不思議な音楽会」
平成８年

### 子どもフェスティバル（平成9年～平成14年）

音楽会・ペンシルバルーン・お茶会・パネルシアター・折り紙・ジェンダーチェックなど

「エイサー踊り」平成１１年

「リズムで遊ぼう」平成１４年

### ファミリーフェスティバル（開催時期を毎夏・平成15年～平成18年）

毎夏行い、家族で楽しむ夏休みの企画とした。
アニメ鑑賞・手品・地域の小学生の出演するダンスと踊りなど

### ワクワクこどもフェスタ（平成19年～平成23年）

地域の小学生によるコーラス・キャンプネポスキャラバン・子どもフラダンス・コンサートなど

ファミリーフェスティバル

「キャンプネポスキャラバンがやってくる」
平成２１年

「ピーポくんがきます」
平成２２年

# 国際関係

## ドイツ・カイザースラウテルン市公式訪問

平成21年10月17日～ 23日まで文京区長と共に文京区女性団体連絡会が文京区姉妹都市ドイツ・カイザースラウテルン市を公式訪問し、「女性の視点から見たヨーロッパのワーク・ライフ・バランス」をテーマに意見交換を行った。

平成21年10月　カイザースラウテルン市公式訪問

## 国際女性デー

3月8日は「国際女性デー」である。

それを受け、センターでは毎年ロビーに「国際女性デーについて」と「国連事務総長のメッセージ」のパネル展示を行ってきた。

平成14年度～平成21年度までは、文京区女性団体連絡会常任委員が国連大学の国際フォーラムに参加し、その報告なども展示した。

また平成28年3月は、イタリアでの習慣（女性にミモザの花を贈る）にならい、数日前からミモザの花を飾り、利用者より国際女性の日に寄せて、多くのコメントを頂くことが出来た。

平成28年3月　ミモザの花と共にコメントの展示

## UN Women日本事務所開設

平成27年4月、シビックセンター 1階にUN Women日本事務所が開設され、11月25日の「女性に対する暴力撤廃の国際デー」、平成28年7月のスウェーデン大使館との共催事業「スウェーデン文化から学ぶ男女平等～スウェーデン料理をつくってみませんか～」などに結びついている。

平成27年8月　UN Women開所式（文京シビックセンター）
プムズィレ・ムランボ＝ヌクカUN Women事務局長（中央）
成澤文京区長（右から2人目）
岡田文京区女性団体連絡会会長（左端）

平成28年7月　スベン･オストベリ参事官（スウェーデン大使館）（右上）の話を熱心に聴く男性の参加者

## 父と子の料理教室　お父さんと一緒にチャレンジクッキング

固定的な役割分担意識を克服し、父親と子どもが料理作りを通して親子の交流を深め、家庭における男女共同参画を考える契機とすることを目的に、毎年夏休みに2日間、1日12組の親子を対象に行っている。

この事業は平成24年度から実施している。

＜メニュー＞
・ひまわりのオープンオムレツ
・タラモサラダ・蜂蜜マリナード

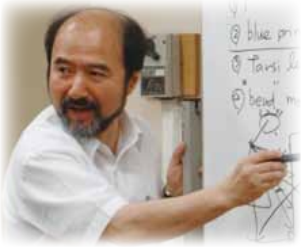
作った料理をみんなで試食する

## 未来の女性科学者育成事業（女子中学生のための科学への招待席）

平成22年12月に国が定めた第3次男女共同参画基本計画に「科学技術・学術分野における男女共同参画」の項目が追加された。

その成果目標として女子学生の理工系分野への進学促進などが掲げられた。

このことを受け、女子中学生を対象に、お茶の水女子大学 森義仁教授の指導とお茶の水女子大学環境科学倶楽部の女子大生の協力を受け、平成24年度から年2回実施している。



## 裁判ウォッチング

文京区女性団体連絡会文化部活動の１つとして平成6年度に企画された。その後、好評により平成8年度から年1回定期的に企画され、弁護士からの丁寧な説明や終了後の質疑応答などを通して、裁判を実体験できる内容で進められている。

傍聴する裁判の説明を受ける

## 配偶者暴力の防止等啓発事業

DV防止推進月間である11月に人権に関する啓発として平成27年度から実施。

「女性に対する暴力をなくす運動週間」
センターロビーで、利用者よりご協力頂き作成したパープルリボンの展示

「ＤＶ加害者の実像について－その対策を考える－」

### 文京区オレンジデーキャンペーン

国連が定める「女性に対する暴力撤廃の国際デー」に因んで、文京区では平成27年11月25日夜、シビックセンター 25階三角屋根にオレンジ色の照明を点灯した。文京区女性団体連絡会はUNWomen日本事務所と文京区のコラボキャンペーンバッグの配布に協力した。

シビックセンターのオレンジ照明点灯

オレンジデーキャンペーンバッグ

## 登録団体活動報告会

登録団体が相互に活動状況を報告し交流を深めることで、文京区の男女平等参画の拠点であるセンターの役割を認識することを目的に平成27年度から実施。

登録団体活動報告会の様子

# 文京区男女平等センターだより

「文京区男女平等センターだよりPARTNER」は、昭和62年3月に「婦人センターだより」として創刊し、今年3月で82号を迎えた。創刊当初は年2回の発行だったが、平成5年度から年3回の発行となり、また、平成26年9月発行77号から文京区男女協働子育て支援部男女協働・子ども家庭支援センター担当課発行の「PARTNER」と合併し、名称を変更して現在に至っている。

男女共に一人ひとりが性別に関わりなくお互いの人権を尊重し、個性と能力を発揮していきいきと暮らせる男女平等参画社会の実現に向けて、性別役割分担意識の解消・女性の経済的および精神的自立等の啓発活動を目指して、発行してきた。

婦人センターだより
No.1

男女平等センターだより　No.54

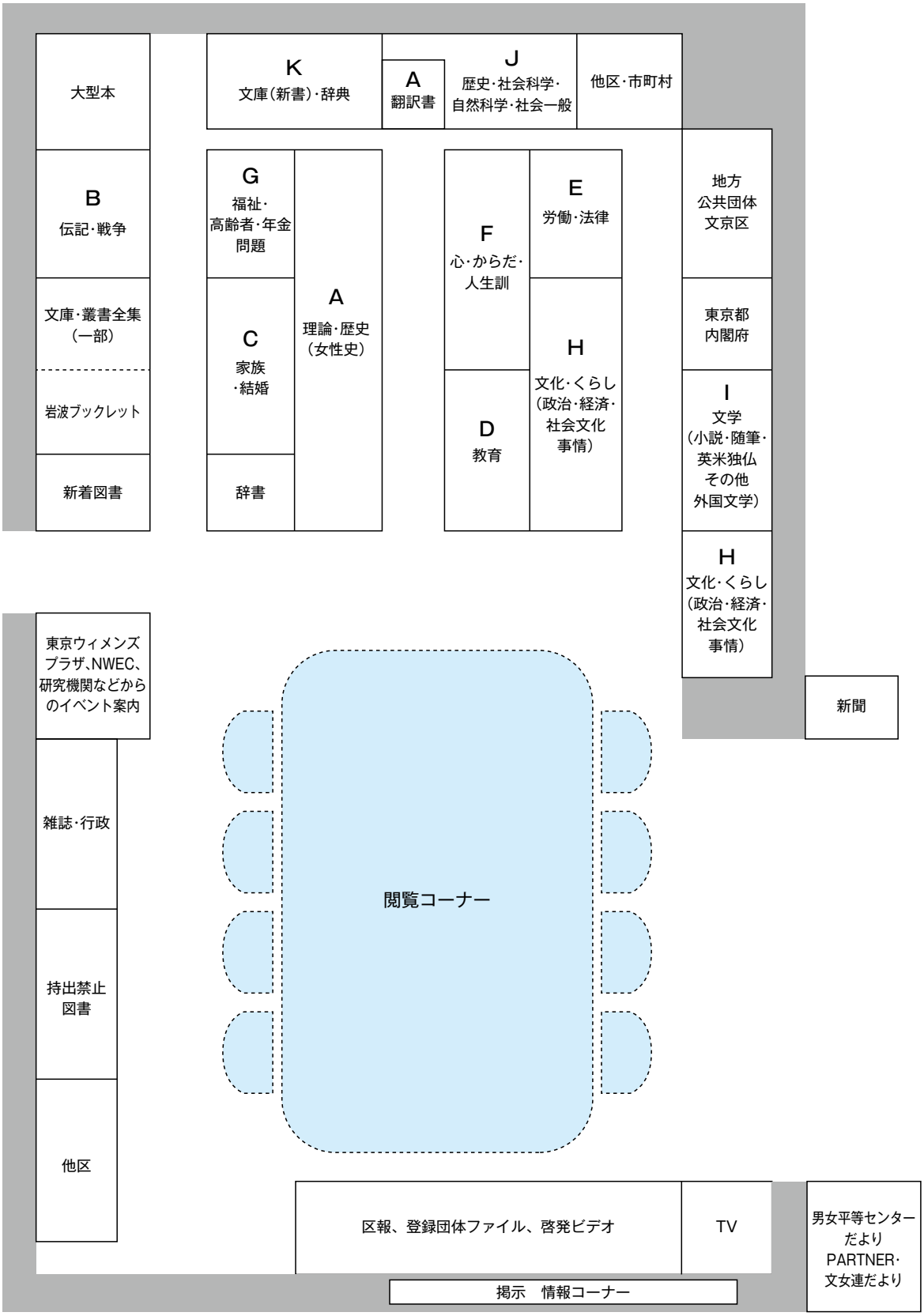
女性センターだより
No.36

男女平等センターだより
PARTNER No.83

これまでの発行を振り返ると、ジェンダー・男女平等参画推進・人権問題など、それぞれの時代に即した講演会やセミナー、センターまつりを開催し、区民への意識改革と女性のエンパワーメントへの啓発を送り続けてきたことがうかがえる。今後とも、文京区女性団体連絡会のメンバーが一丸となり、時代の変化に適応した催しを企画し、啓発活動に努力していきたいと思っている。

# 資料コーナー

## 書架配置図



# 資料コーナーの特色

## 成り立ち

昭和61年、婦人センター開設と共に設置された資料コーナーは、主に女性および家族などの分野の調査・研究のための資料や情報を収集し、学習、情報の拠点としてきた。

## 行政資料等

国、都道府県、政令指定都市、市町村などより発行された事業報告、調査報告、統計などを揃えている。各地の女性センターや男女共同参画センターに関するものをはじめ、日本全国から届けられたジェンダー関連資料を抜粋し、閲覧用として保管している。

## 特色ある蔵書

女性問題、ジェンダーに関する図書や情報を多数集めており、女性学を学ぶ方々の研究にも役立ち、多く利用されている。

資料コーナー内にある掲示板「情報コーナー」では、男女平等に関する話題や社会への問題提起など、各新聞紙面から注目記事をピックアップして掲示している。

また、文京の地を発祥とする女性文学者、研究者に関する蔵書もあり、「青鞜」など希少価値のある資料も館内で閲覧可能としている。

## 啓発資料

ジェンダーの課題、問題について学ぶための啓発教材としてビデオフィルムも収蔵している。これらは、センターの研修室利用時に視聴が可能で、ビデオデッキの貸出も有料で行っている。

# 文京区の男女平等施策と男女平等センター

平成28年（2016年）9月、開設より30年を迎える文京区男女平等センターの歴史は、地域協働の歴史である。昭和53年（1978年）に文京区基本構想を策定して以来、平成13年（2001年）、平成22年（2010年）の基本構想策定時には「文の京」と「区民との協働」をかかげ、区は基本構想の計画実現へ取り組んできた。

男女平等センターの指定管理者である文京区女性団体連絡会は、男女平等センター開設当初から現在に至るまで、地域の女性団体（発足当時は文京区婦人団体連絡会）として事業運営に携わり、男女平等の推進に尽力をいただいている。区民によるこのような運営は、国内においても類をみない。

東京都内にある男女平等（共同）センターとして3番目に開設された当初、施設名は「文京区婦人センター」であり、地域の女性と地域の後押しによる強い要望により開設された施設であった。その後名称を「婦人」から「女性」、「男女平等」と改称し、現在は年代や性差に囚われない多くの方々を対象に、講演会やセミナー、相談事業を行っている。

男女平等センターとともに歩んだ区の男女平等施策において、平成25年（2013年）9月に文京区議会にて全会一致で可決された「文京区男女平等参画推進条例」（平成25年11月1日施行）は、法的根拠を築いたという点で非常に大きな成果であった。前文には区の特徴として、「文の京」と「青鞜発祥の地」を謳い、推進拠点として「男女平等センター」も明確に位置づけた。東日本大震災後に策定された条例として「災害時における男女双方の視点」を明記し、区の防災計画との連携を図り、現在は男女平等センターを「女性・子どものための二次的な避難所」として指定している。

本条例は平成12年（2000年）の「東京都男女平等参画基本条例」が制定されてから13年後に策定され、東京都23区においては12番目となる条例制定であった。政府による「女性が輝く社会」への課題や東日本大震災後の教訓、国際的な潮流のなかでのジェンダー課題について、「性的指向や性自認」も明文化し、長年にわたる条例策定への期間を経てのまさに結実の時期であった。

本条例策定を機に、更なる男女平等参画の推進が重要であり、節目を迎えた男女平等センターの役割はより大きなものになると考えている。男女平等参画推進の事業提供だけでなく、区内の男女平等推進団体活動の場として、団体間交流なども今後更に期待したい。

交流や連携という面においては、昨年（2015年）に文京区内に開設されたアジア唯一のUN Womenリエゾンオフィス①である日本事務所との連携も大変重要である。国連機関のホスト自治体として、文京区と共にジェンダー平等の推進を目指す拠点施設として、男女平等センターをより多くの区民の方々に認知していただき、世界におけるジェンダー施策にも目を向けていただけるよう、今後も男女平等センターを軸として、条例の周知、推進とともに努めていく。

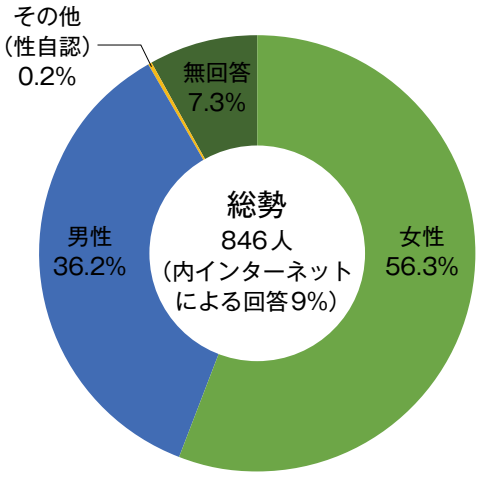
（注）
①リエゾンオフィス（liaison office）…
別々に活動しているグループの連携を図るための組織

UN Women日本事務所の開所式の様子
（文京シビックセンター内）

# 男女平等参画区民意識調査からみる区の変化

区では講演会やセミナーなどの事業提供のほか、男女平等参画推進施策の推進や計画改定における基礎資料として、定期的に区民意識調査を行っている。男女平等センターの30年の経過とともに、現在に至るまで区で行われた調査結果や近隣区、国などの調査と比較し、文京区におけるジェンダー平等の調査結果についての変化を追ってみる。

図表１　調査結果（性別）




※「文京区男女平等参画に関する区民調査」（平成27年）より

## 男女平等に関する調査対象

平成27年度に行った「文京区男女平等参画に関する区民調査」では、以前とは異なる調査方法が2つ導入されている。1つは、携帯やパソコンからの回答ができるよう、インターネットによる回答方法を導入したこと。もう一つはフェイスシート（調査対象者の基礎情報）において、性別欄に男性と女性以外を選択肢として加えたことである。

但し、「性自認」欄についての説明が不足していたためか、「その他」の回答は0.2%、無回答が7.3%という結果であった。

## 性差や性自認に配慮した性別欄への対応について

国が行う国勢調査や自治体が行う区民意識調査や実態調査では、基本調査項目において「性別」が記載されていることが多い。特に男女平等施策に関わる調査では、性差による不利益や、推進状況への影響がないかを確認し、政策に反映するため導入されている。育児・介護への関わりや、地域事業への参加など、性差に配慮した改善が求められる事業展開が必要なためである。

しかし、現在の男女平等施策の推進において「多様な性」として、「性自認」について配慮した施策の展開を行うことは必要不可欠である。今後も区では各計画調査や催事などにおけるアンケートへの性別欄の項目記載について、不要な場合は削除するなど周知徹底を行っていく。

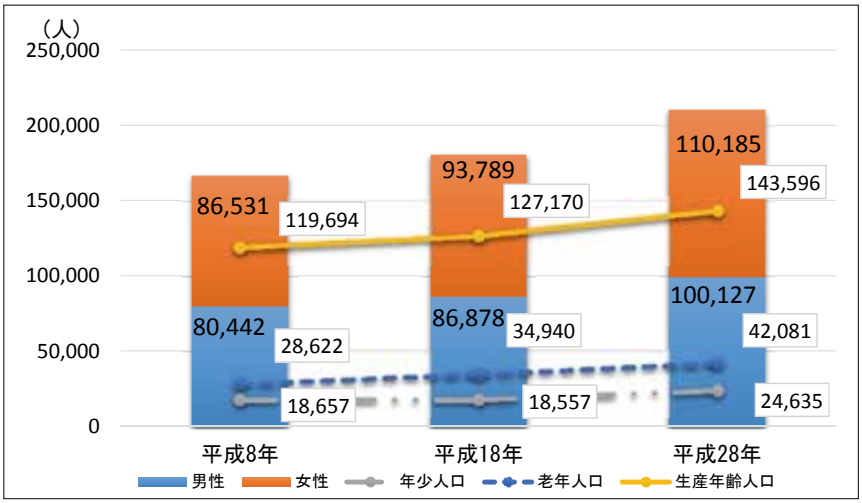
なお、文京区では、条例において「性的指向」「性自認」（SOGI②）に基づく差別禁止を明記している。

（注）
②SOGI … Sexual Orientation and Gender Identity

## 人口増加と階層変化

文京区の人口は、一時16万人台にまで減少したが平成10年を境に増加し、昨年、平成27年10月には21万人を超えた。平成9年以降は転入が転出を上回る社会増に加え、出生数が死亡数を上回る自然増に転換し増加数も徐々に拡大傾向にある。年齢構造においても生産年齢人口が増加しており、子育てに関わる施策の需要は急増している。

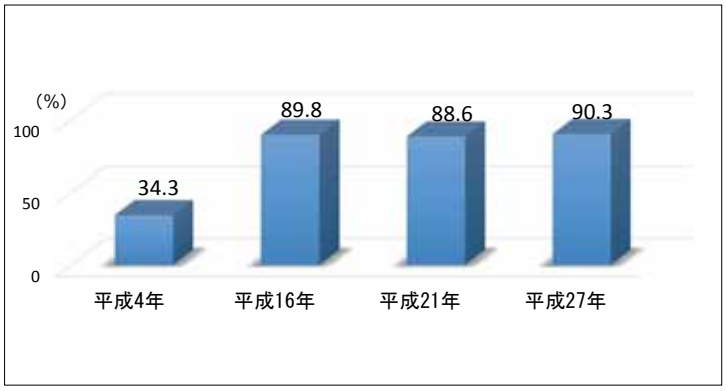
図表２　文京区の人口推移




※文京区「第48回文京の統計」より作成。

## 結婚観について「結婚するしないは個人の自由」

図表３　結婚観「結婚するしないは個人の自由」という支持



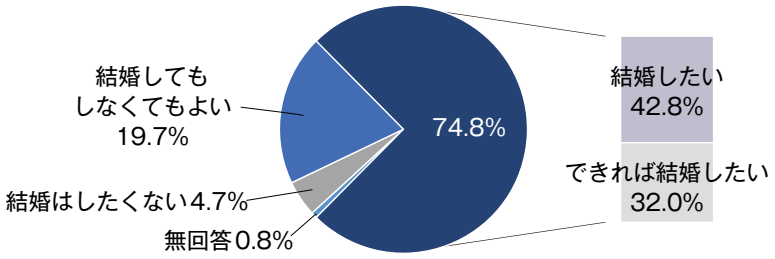

※文京区男女平等参画に関する区民調査（平成4年、平成16年、平成21年、平成27年）より作成。

平成4年度に実施した男女共生社会に向けての区民の意識調査では、「結婚はしてもしなくてもよい」との回答は34.3％であったが、平成27年度に行った区民意識調査では「結婚する、しないは個人の自由である」「どちらかといえばそう思う」との回答が90.3％と結婚に対する意識が男女双方ともに大きく変化している。

但し、設問についても「個人の自由」という表現に平成17年から変更されていることも留意したい。

平成26年度に保健衛生部が満20歳から45歳の区民の方々を対象に行った結婚に対する意識調査では、調査時点で婚姻状況にない方の74.8％が結婚を希望しているとの調査結果が出ている。

図表４　結婚観「結婚したい」という考え

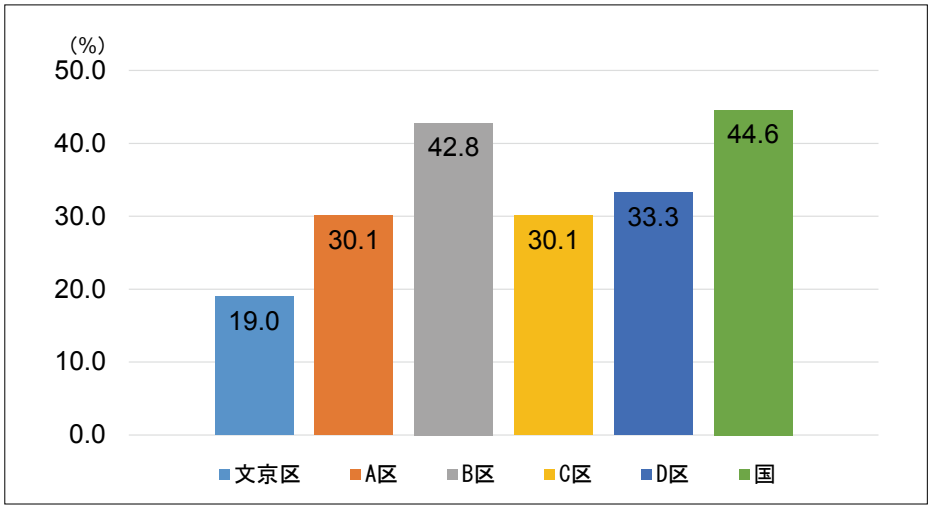



※文京区「結婚・妊娠・出産・育児に関する意識調査」（平成26年）より作成。

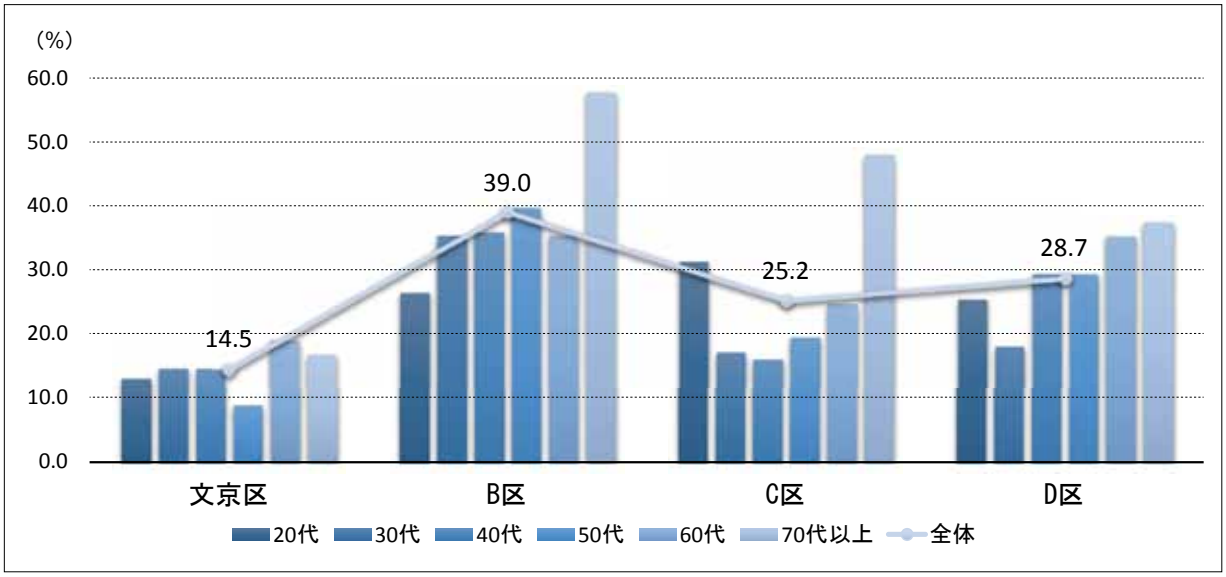
## 男女の役割に対する考え

文京区では性差による役割について「男は仕事、女は家庭」という考え方に「共感する」が19％と、内閣府が行った全国調査で44.6％あった結果を25ポイント下回り、性差による仕事や家庭への固定的な考え方に対し男女ともに否定的な回答が多く表れている。東京都は他の都道府県に比べ、就業をする男女が多いこともあり、年代を問わず全国平均を10ポイント以上下回る特別区が多い中、更に10ポイント以上も低い数値は大変特徴的である。

図表５　「男は仕事、女は家庭」という考え方に共感する




図表６　「男は仕事、女は家庭」という考えに共感する（年代別女性の回答比較）



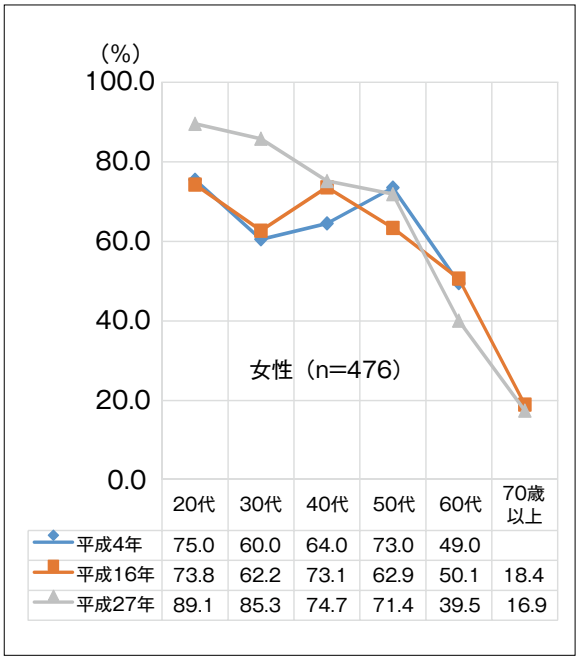

※図表５の国の値は内閣府「女性の活躍推進に関する世論調査」（平成26年８月～９月実施）
※図表５、６は各区男女平等に関する区民意識調査（平成25年～平成28年実施）より作成。
※なお、各区調査においては調査方法や設問選択肢が一部異なっている場合があること、調査手法が異なっていることを踏まえた比較となる。

年代別にみる各区の女性回答を比較すると、文京区はどの世代も固定的な性別役割分担意識に対する共感は低い値を示しており、世代を超えて地域として女性の男女平等参画における意識の変革が伺える結果となった。

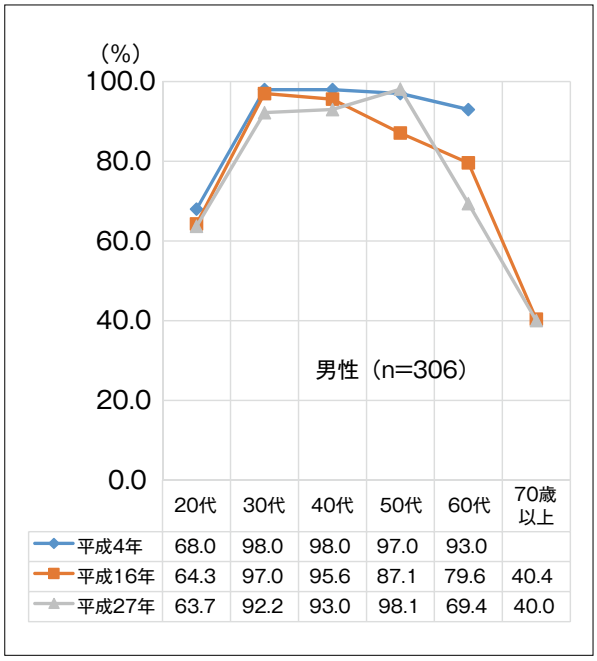
# 男女の有業率

女性の有業率が平成4年、平成16年度と異なり30代で大きく下がることがなく、就業し、かつ家庭や地域に参加している女性が多いことも伺える。対照的に男性の有業率は30代から50代までの継続的な就業状況を表すグラフとなっている。

図表7-1　女性の有業率（文京区）




図表7-２　男性の有業率（文京区）




※文京区男女平等参画に関する区民調査（平成27年）より作成。
有業率：調査回答者を母集団とした男女別の有職状況

図表８　就業状態別人口

（万人，％，ポイント）

| 2016年 7月（平成28年） | | 実数 | | | 対前年同月増減 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 男女計 | 男 | 女 | 男女計 | 男 | 女 |
| 15歳以上人口 | 総数 | 11081 | 5347 | 5734 | 5 | 3 | 2 |
| | 15～64歳 | 7633 | 3854 | 3779 | −70 | −33 | −37 |
| | 65歳以上 | 3448 | 1493 | 1955 | 75 | 36 | 39 |
| 労働力人口 | 総数 | 6682 | 3768 | 2914 | 79 | 16 | 63 |
| | 15～64歳 | 5875 | 3289 | 2586 | 22 | −5 | 27 |
| | 65歳以上 | 807 | 479 | 328 | 57 | 21 | 36 |
| 就業者 | 総数 | 6479 | 3646 | 2833 | 98 | 26 | 72 |
| | 15～64歳 | 5685 | 3178 | 2507 | 42 | 6 | 36 |
| | 65歳以上 | 794 | 468 | 326 | 55 | 20 | 36 |
| 完全失業者 | 総数 | 203 | 122 | 81 | −19 | −10 | −9 |
| | 15～64歳 | 189 | 111 | 78 | −21 | −11 | −10 |
| | 65歳以上 | 13 | 11 | 3 | 1 | 1 | 1 |
| 非労働力人口 | 総数 | 4391 | 1575 | 2816 | −75 | −13 | −61 |
| | 15～64歳 | 1752 | 562 | 1190 | −92 | −28 | −65 |
| | 65歳以上 | 2639 | 1013 | 1626 | 18 | 14 | 4 |
| 労働力人口比率 | 総数 | 60.3 | 70.5 | 50.8 | 0.7 | 0.3 | 1.1 |
| | 15～64歳 | 77.0 | 85.3 | 68.4 | 1.0 | 0.6 | 1.3 |
| | 65歳以上 | 23.4 | 32.1 | 16.8 | 1.2 | 0.7 | 1.6 |
| 就業率 | 総数 | 58.5 | 68.2 | 49.4 | 0.9 | 0.5 | 1.2 |
| | 15～64歳 | 74.5 | 82.5 | 66.3 | 1.2 | 0.9 | 1.5 |
| | 65歳以上 | 23.0 | 31.3 | 16.7 | 1.1 | 0.6 | 1.6 |

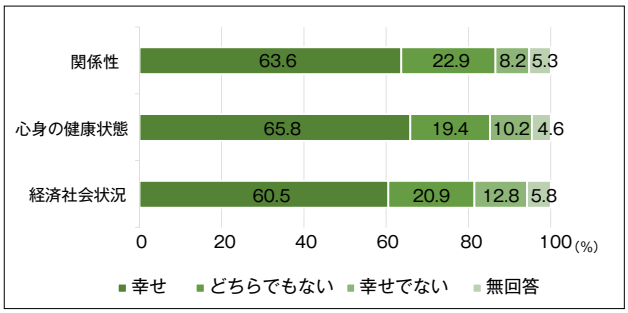
※総務省「労働力調査（基本集計）」速報平成28年8月30日

総務省による平成28年度の労働力調査における結果概要では、男女ともに就業率が上昇した結果が出ている。特に女性（15～64歳）の就業率が66.3％と高い数値が出ており、近年の女性の就業意欲が伺える結果となっている。

## 男女平等の観点での幸福度について

男女平等の観点での幸福度について、関係性（ライフスタイル、家族や友人とのつながり、地域や自然とのつながり）、心身の健康状態、経済社会状況について、全ての分野において60％を超えている方が「幸せ」と回答している。しかしながら、幸せでないと感じる方が1割前後を占めており、今後も男女平等における推進の必要性を感じる結果となった。

図表９　男女平等の観点での幸福度

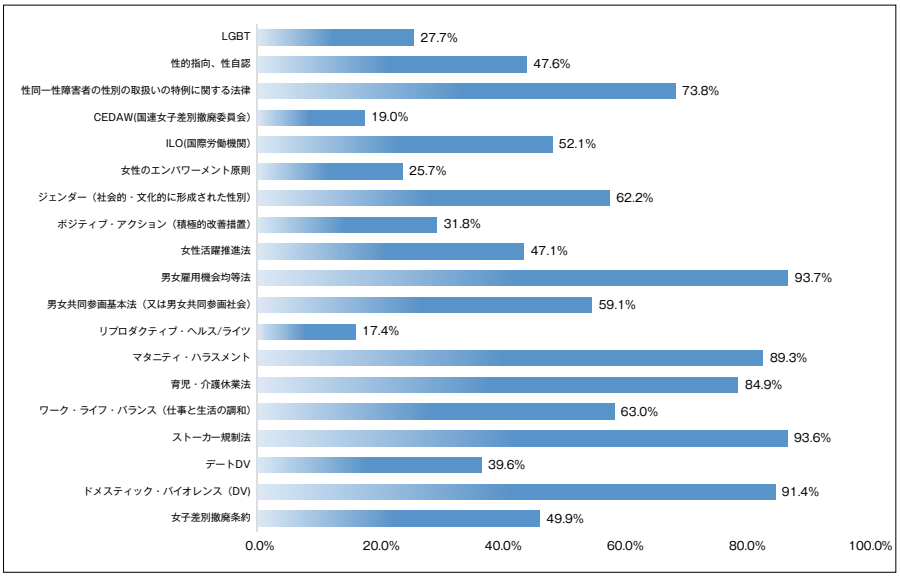



※文京区男女平等参画に関する区民調査（平成27年）より作成。

## 用語の認知度

「用語の認知度」調査において、国や他の自治体と比べ国内外の質問が多いことが特徴的である。女子差別撤廃条約について文京区では平成4年の調査以来毎回、調査の対象としているが、他区では国内法だけを設問としている自治体が多い中、今後の国際化や多様な社会を見据え、男女平等においても世界の潮流を知ることは極めて重要と考えるためである。

図表10　文京区における用語の認知度（聞いたことがあると答えた方の割合）




※文京区男女平等参画に関する区民調査（平成27年）より作成。

# 男女平等とダイバーシティ

平成28年4月1日、組織改正により男女平等センターの所管が総務課ダイバーシティ推進担当へと変更された。昨今、注目されている「ダイバーシティ」とは「多様性」という意味を含んでいる。「多様な視点」「多様な考え」「多様な組織」「多様な働き方」「多様な性」など活用される機会は様々にある。

元来、男女平等の推進において「男女」という概念は「生物学的な性（セックス）」、「社会的な性（ジェンダー）」の双方を包括して推進されてきたものであり、時代背景を多様に受け入れながら目指すべき「平等」に取り組んできた。一人一人が多様であり、大切な存在であることは、社会的権利である「人権」にとって当たり前のことであり、「男女平等」はその重要な要素の一つである。

ダイバーシティ推進担当では、オリンピックなどの国際大会を機に国内外のジェンダー施策も更に周知するとともに、多くの方々に関心を持っていただき、男女平等の視点から様々な課題や事案を関係機関と連携しながら取り組むことのできる組織体制の構築を目指し、区のジェンダー平等の推進におけるサーバントリーダー（目標達成のための支援者）として更なる発展に取り組んでいく。

# 文京区男女平等参画推進条例

平成二十五年九月二十七日

条例第三十九号

改正　平成二七年三月三日条例第一七号

目次

前文
第一章　総則（第一条―第七条）
第二章　基本的施策（第八条―第十三条）
第三章　文京区男女平等参画推進会議等（第十四条・第十五条）
第四章　雑則（第十六条）
付則

文京区は、多くの文化人が活躍してきた「文の京」であり、「青鞜（とう）」発祥の地として女性の権利拡充運動が展開されてきた歴史的地である。こうした中、文京区は、個人の尊重と法の下の平等がうたわれている日本国憲法及び男女平等の実現に向けた男女共同参画社会基本法の理念に基づき様々な施策に取り組んできた。

しかしながら、性別による固定的な役割分担の意識やそれに基づく社会的慣行等は今なお存在しており、生き方や働き方の多様化が進む中、さらなる継続的な取組が必要である。

男女が、性別に関わりなく、それぞれの個性と能力を十分に発揮し、互いの違いや多様な生き方を尊重する社会を次世代につなぐために、区民一人一人が互いの人権を尊重し、いきいきと暮らせる男女平等参画社会の実現を目指して、この条例を制定する。

## 第一章　総則

（目的）

第一条　この条例は、男女平等参画の推進に関し、基本理念を定め、区、区民及び事業者の責務を明らかにするとともに、区の施策の基本的事項を定めることにより、男女平等参画に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図り、もって男女平等参画社会を実現することを目的とする。

（用語の定義）

第二条　この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

一　男女平等参画　男女が、その個性と能力を発揮し、性別に関わりなく個人として尊重され、対等な立場で社会のあらゆる活動に参画する機会が確保されることをいう。

二　区民　区内に住む人、働く人及び学ぶ人をいう。

三　事業者　区内において事業活動を行う法人その他の団体又は個人をいう。

四　配偶者からの暴力等　配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（平成十三年法律第三十一号）第一条第一項に規定する配偶者からの暴力（同法第二十八条の二に規定する関係にある相手からの暴力を含む。）、ストーカー行為等の規制等に関する法律（平成十二年法律第八十一号）第二条に規定するつきまとい等又は交際相手からの身体的な暴力、精神的な暴力若しくは性的な暴力をいう。

五　セクシュアル・ハラスメント　性的な言動により相手方を不快にさせ、その者の生活環境を害すること又は性的な言動に対する相手方の対応により、その者に不利益を与えることをいう。

六　積極的改善措置　男女共同参画社会基本法（平成十一年法律第七十八号）第二条第二号に規定する積極的改善措置をいう。

（基本理念）

第三条　区は、次に掲げる事項を基本として、男女平等参画を推進する。

一　性別による差別的な取扱いや暴力を根絶し、男女が、個人として尊重されること。

二　男女が、性別による固定的な役割分担の意識に捉われることなく、その個性と能力を十分に発揮し、自らの意思と責任により多様な生き方を選択できること。

三　男女が、性別に関わりなく、社会の平等な構成員として、あらゆる分野における活動方針の立案及び決定に平等に参画する機会が確保されること。

四　学校教育、生涯学習その他のあらゆる教育の場において、男女平等参画社会を支える意識の形成に向けた取組が行われること。

五　男女が、相互の協力と社会の支援の下に、子の養育、家族の介護その他の家庭生活における活動と職場や地域における活動の調和のとれた生活を営むことができること。

六　男女が、妊娠、出産等に関して互いに理解を深め、尊重し合い、共に生涯にわたり健康な生活を営むことができること。

七　国際社会及び国内における男女平等参画に係る取組を積極的に理解すること。

（区の責務）

第四条　区は、前条に規定する基本理念に基づき、男女平等参画を推進する施策を総合的かつ計画的に実施するために必要な措置を講ずるものとする。

２　区は、男女平等参画を推進するに当たり、区民、事業者、国及び他の地方公共団体その他関係機関等と連携し、及び協力するものとする。

（区民の責務）
第五条　区民は、男女平等参画について理解を深め、職場、学校、地域、家庭その他の社会のあらゆる分野の活動において男女平等参画を推進するよう努めるものとする。
２　区民は、区が実施する男女平等参画を推進する施策に協力するよう努めるものとする。
（事業者の責務）
第六条　事業者は、男女平等参画について理解を深め、その事業活動において男女平等参画を推進し、男女が家庭生活における活動と職場や地域における活動の調和のとれた生活を営むことができるよう努めるものとする。
２　事業者は、区が実施する男女平等参画を推進する施策に協力するよう努めるものとする。
（禁止事項等）
第七条　何人も、配偶者からの暴力等、セクシュアル・ハラスメント、性別に起因する差別的な取扱い（性的指向又は性的自認に起因する差別的な取扱いを含む。）その他の性別に起因する人権侵害を行ってはならない。
２　何人も、情報の流通に当たっては、前項に規定する性別に起因する人権侵害又は固定的な役割分担の意識を助長し、又は是認させる表現を用いないよう配慮しなければならない。

第二章　基本的施策

（計画の策定）
第八条　区は、男女平等参画に関する施策を総合的かつ計画的に推進するための基本的な計画（以下「推進計画」という。）を策定し、これを公表するものとする。
２　推進計画の策定に当たっては、あらかじめ第十四条第一項に規定する文京区男女平等参画推進会議の意見を聴くものとする。
３　区は、毎年一回、推進計画に基づく男女平等参画に関する施策の実施状況を公表するものとする。
（広報及び啓発並びに教育に対する支援）
第九条　区は、区民及び事業者が男女平等参画の推進に関し理解を深めるよう、広報及び啓発を行うものとする。
２　区は、男女平等参画社会を支える意識の形成に向けた取組が行われるよう、学校教育、生涯学習その他のあらゆる教育に携わる者を支援するものとする。
３　第一項に規定する広報及び啓発並びに前項に規定する支援を行うため、区は、必要な調査研究並びに情報の収集及び提供に努めるものとする。
（家庭生活と社会活動の調和）
第十条　区は、区民が性別に関わりなく、子の養育、家族の介護その他の家庭生活における活動と職場や地域における活動の調和のとれた生活を営みながら、多様な生き方を選択し、実現できるよう努めるものとする。
（積極的改善措置）
第十一条　区は、男女の固定的な役割分担の意識が残ると認める場合又は男女の参画する機会に不均衡があると認める場合にあっては、積極的改善措置を講ずるよう努めるものとする。
（災害対応における配慮）
第十二条　区は、災害等への対応（災害等の発生に備える対策を含む。）においては、男女双方の視点に配慮するものとする。
（拠点施設）
第十三条　区は、文京区男女平等センター条例（平成十四年三月文京区条例第一号）第一条に規定する文京区男女平等センターを男女平等参画に関する施策を推進するための拠点施設とする。

第三章　文京区男女平等参画推進会議等

（推進会議）
第十四条　男女平等参画の推進について調査し、又は審議するため、区長の附属機関として、文京区男女平等参画推進会議（以下「推進会議」という。）を置く。
２　推進会議は、区長の諮問に応じ、次に掲げる事項について審議する。
一　男女平等参画に係る人権の尊重及び暴力の根絶に関すること。
二　男女平等参画社会を支える意識の形成に関すること。
三　家庭生活と社会活動の調和の実現に関すること。
四　推進計画に関すること。
五　その他区長が必要があると認めた事項
３　推進会議は、前項に定めるもののほか、男女平等参画の推進に関し必要があると認めた事項について区長に意見を述べることができる。
（苦情申立て）
第十五条　区民及び事業者は、区に対し、区が関与する男女平等参画に関する施策に係る苦情を申し立てることができる。
２　区は、前項の規定による苦情の申立てがあった場合は、必要に応じ推進会議の意見を聴いて、処理するものとする。
３　区は、第一項に規定する苦情の処理に当たっては、当該苦情を申し立てた者に係る情報を保護するとともに、公平かつ適切に行うものとする。

第四章　雑則

（委任）
第十六条　この条例の施行について必要な事項は、区長が別に定める。

付　則

この条例は、平成二十五年十一月一日から施行する。

付　則（平成二七年三月三日条例第一七号）

この条例は、公布の日から施行する。

# 文京区男女平等参画推進条例の概要

**条例の名称**

区では、計画や審議会の名称において「共同参画」や「協働」のような平等を実現する手段ではなく、目指す先である「平等」を使用している。

この条例は理念を示すものであることから、計画等と同じ名称としたものである。

**条例の特徴**

1「文の京」である区の特徴を反映し、学校教育、生涯学習その他あらゆる教育の場において、男女平等参画社会を支える意識形成への取組が行われることを基本としている。

2 東日本大震災を教訓とし、災害等への対応に、男女双方の視点に配慮することを盛り込んでいる。

## 基本理念（第３条）

**【1】暴力の根絶と人権の尊重**

性別による差別的な取扱いや暴力を根絶し、男女が、個人として尊重されること。

**【2】固定的役割分担意識の解消と多様な生き方の選択**

男女が、性別による固定的な役割分担の意識に捉われることなく、その個性と能力を十分に発揮し、自らの意思と責任により多様な生き方を選択できること。

**【3】立案・決定への参画機会の確保**

男女が、性別に関わりなく、社会の平等な構成員として、あらゆる分野における活動方針の立案及び決定に平等に参画する機会が確保されること。

**【4】教育の場における平等参画意識の形成**

学校教育、生涯学習その他のあらゆる教育の場において、男女平等参画社会を支える意識の形成に向けた取組が行われること。

**【5】家庭生活と社会活動の調和**

男女が、相互の協力と社会の支援の下に、子の養育、家族の介護その他の家庭生活における活動と職場や地域における活動の調和のとれた生活を営むことができること。

**【6】妊娠・出産等に関する相互尊重と健康な生活**

男女が、妊娠、出産等に関して互いに理解を深め、尊重し合い、共に生涯にわたり健康な生活を営むことができること。

**【7】国際社会と国内の取組の理解**

国際社会及び国内における男女平等参画に係る取組を積極的に理解すること。

## 区・区民・事業者の責務（第４～６条）

**区の責務**

●基本理念に基づき、男女平等参画を推進する施策を総合的かつ計画的に実施するために必要な措置を講じる。

●男女平等参画を推進するに当たり、区民、事業者、国及び他の地方公共団体その他関係機関等と連携し、協力する。

**区民の皆さんが取り組むこと**

●男女平等参画について理解を深め、職場、学校、地域、家庭その他の社会のあらゆる分野の活動において男女平等参画を推進するよう努める。

●区が実施する男女平等参画を推進する施策に協力するよう努める。

**事業者の皆さんが取り組むこと**

●男女平等参画について理解を深め、その事業活動において男女平等参画を推進し、男女が家庭生活における活動と職場や地域における活動の調和のとれた生活を営むことができるよう努める。

●区が実施する男女平等参画を推進する施策に協力するよう努める。

## 禁止事項等（第7条）

**禁止**

◆配偶者からの暴力等①

◆セクシュアル・ハラスメント②

◆性別に起因する差別的な取扱い

性的指向又は性自認③に起因する差別的な取扱いを含む。

◆その他の性別に起因する人権侵害

**配慮**

◆情報の流通における、性別に起因する人権侵害や固定的な役割分担の意識の助長、是認させる表現

## 基本的施策（第8～13条）

**計画の策定**

男女平等参画に関する施策を総合的かつ計画的に推進するための計画を策定し、公表する。

**広報及び啓発並びに教育に対する支援**

学校教育、生涯学習等において、男女平等参画の意識の形成に取り組んでいく。

**家庭生活と社会活動の調和**

多様な生き方の選択と、家庭生活、社会活動（職場・地域）の調和への実現に努める。

**積極的改善措置④**

男女の参画機会不均衡等への積極的改善措置を講じる。

**災害対応における配慮**

東日本大震災を教訓とし、災害等への対応において、男女双方の視点に配慮する。

**拠点施設**

文京区男女平等センターを、男女平等施策を推進するための拠点施設と定める。

## 推進会議（第14条）

■区長の附属機関としての、「文京区男女平等参画推進会議」を設置

■区長の諮問に応じ、審議する。

・男女平等参画に係る人権の尊重及び暴力の根絶に関すること。

・男女平等参画社会を支える意識の形成に関すること。

・家庭生活と社会活動の調和の実現に関すること。

・推進計画に関すること。

・その他区長が必要があると認めた事項

■区長への意見陳述ができる。

## 苦情申立て（第15条）

●申し立てできること…区が関与する男女平等参画に関する施策に係る苦情

●申し立てできる人　…区民（在住・在勤・在学）、区内事業者

●処理方法

・必要に応じ推進会議の意見を聴いて処理する。

・苦情申立て者の情報を保護、公平かつ適切に行う。

1　プライバシーは保護する。推進会議の意見を聴く際は、原則として学識経験者のみで行う。（利害関係人を除く。）

2　弁護士等、専門家の意見を聴く。

●結果は、申立て者に通知する。

（注）

①配偶者からの暴力等…配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律に規定する配偶者からの暴力、ストーカー行為等の規制等に関する法律に規定するつきまとい等や、交際相手からの暴力で、身体的、精神的、性的な暴力をいう。

②セクシュアル・ハラスメント…性的な言動により相手方を不快にさせ、その者の生活環境を害すること又は性的な言動に対する相手方の対応により、その者に不利益を与えることをいう。

③性的指向又は性自認…性的指向：人の恋愛・性愛が、いずれの性別の人を対象にするかを表す。性自認：自分がどの性別であるかの認識のこと（性同一性障害の概念を含む）。

④積極的改善措置･･･社会のあらゆる分野における活動に参画する機会に係る男女間の格差を改善するため、必要な範囲において男女のいずれか一方に対し、その機会を積極的に提供すること。

# 文京区男女平等センター施設概要

文京区男女平等センターは、昭和61年に住宅・都市整備公団（現UR都市機構）が建設した8階建て共同ビルの1階部分を婦人センターとして取得し、昭和61年9月に開設した施設である。

設計に当たっては、区と女性団体が打ち合わせを重ね、女性の社会参加、交流、学習の拠点として、研修室（A、B、C、D）、和室、実習室、会議室、保育室、資料コーナー、ワーク室、相談室を配置した。

建物の構造、規模

・鉄骨鉄筋コンクリート造　陸屋根
　8階建て1階部分

・敷地面積
　3,790.01㎡（男女平等センター部分806.28㎡）

・建築面積
　3,016.16㎡（男女平等センター部分1,336.3㎡）

・土地取得費
　548,270,400円

・建物取得費
　518,768,000円

# 資　料　編

# 資料目次

講演会・トーク＆シネマ（コンサート）…… 資－1
婦人センターまつり・女性センターまつり・
男女平等センターまつり …… 資－2
婦人週間講演会・女性週間講演会・男女共同参画週間記念講演会 …… 資－5
プラスワンセミナー …… 資－6
区政を知る懇談会 …… 資－11
こどもまつり・子どもフェスティバル・
ファミリーフェスティバル・ワクワクこどもフェスタ …… 資－13
センターシネマ・DVD 鑑賞 & 懇談会…… 資－14
女性センターコンサート・男女平等センターコンサート …… 資－14
利用者懇談会 …… 資－15
未来の女性科学者育成事業（女子中学生のための科学への招待席）…… 資－17
父と子の料理教室　お父さんと一緒にチャレンジクッキング …… 資－17
登録団体企画事業助成 …… 資－18
配偶者暴力の防止等啓発事業 …… 資－18
登録団体活動報告会 …… 資－18
婦人センターだより・女性センターだより・
男女平等センターだより PARTNER …… 資－19
婦人講演会 …… 資－28
講座 …… 資－28
年表 …… 資－31

# 講演会・トーク＆シネマ（コンサート）

| 年度 | 月日 | 内容 | 講師 |
|---|---|---|---|
| 昭和63年度<br>（1988） | 12/13 | 記念講演（文京区婦人団体連絡会設立総会記念講演）<br>「女として母として」～婦人と社会参加～ | 村松英子<br>（鳥取女子短期大学講師） |
| 平成3年度<br>（1991） | 5/14 | 自主記念講演「熱弁・雄弁・駄弁」 | 永　六輔（作家） |
| | 3/21 | 地位向上のため女性は何をなすべきか | 下村康正<br>（文京区教育委員会委員長） |
| 平成4年度<br>（1992） | 6/13 | 私の演じた女の生き方 | 鈴木光枝（女優） |
| 平成6年度<br>（1994） | 6/11 | 変わる家族像 | 外山滋比古<br>（お茶の水女子大学名誉教授） |
| 平成7年度<br>（1995） | 3/16 | 都民女性の戦後50年　～これからの50年にむけて～ | 藤原房子（ジャーナリスト） |
| 平成8年度<br>（1996） | 3/6 | 世相に見る女と男のいい関係 | 渥美雅子（弁護士） |
| 平成10年度<br>（1998） | 1/9 | 歴史的にみた女たちの迷いと発見　～新たな連帯を求めて～ | 吉見周子（日本大学講師） |
| 平成11年度<br>（1999） | 1/19 | “男尊女尊”の社会をめざして　～ヨーロッパの家庭と職場～ | 三井マリ子（女性政策研究家） |
| 平成12年度<br>（2000） | 3/1 | 女の立場・男の立場　～時代の流れと結婚の変化～ | 佐藤洋子<br>（ウィメンズプラザ館長） |
| 平成13年度<br>（2001） | 3/16 | 講演とシャンソン　～今を自分らしく生きる～ | 戸川昌子（歌手・作家） |
| 平成14年度<br>（2002） | 11/30 | 平塚らいてうからのメッセージ<br>～21世紀の男女平等を考える～ | 米田佐代子<br>（元山梨県立女子短期大学教授） |
| 平成15年度<br>（2003） | 2/6 | 歴史を動かした女と男たち | 高橋千剱破（作家） |
| 平成16年度<br>（2004） | 2/5 | 私の歩んできた道 | 森　まゆみ（作家） |
| 平成17年度<br>（2005） | 3/11 | 男女平等を目指して20年！ そしてこれから･･･ | 坂東眞理子<br>（昭和女子大学副学長） |
| 平成19年度<br>（2007） | 3/29 | 文京区女性団体連絡会20周年記念・男女平等センタートーク＆シネマ<br>シネマ「老親」 フィナーレティーパーティ（懇親会） | 槙坪夛鶴子（映画監督） |
| 平成20年度<br>（2008） | 3/14 | 盲導犬アンディとともに　天野　亨コンサート | 天野　亨（テノール歌手） |
| 平成21年度<br>（2009） | 3/13 | 与謝野晶子の生き方とその家族像<br>～西欧体験を経たのちに～ | 松平盟子（歌人） |
| 平成22年度<br>（2010） | 3/12➡<br>6/4開催 | トーク＆シネマ「ユキエ」と「レオニー」そして私<br>～映画のなかの国境を越えた女たち～<br>※東日本大震災発生のため延期 | 松井久子（映画監督） |
| 平成23年度<br>（2011） | 3/31 | みんなちがって、みんないい<br>～金子みすゞのうれしいまなざし～ | 矢崎節夫<br>（金子みすゞ記念館館長） |
| 平成24年度<br>（2012） | 3/24 | 黒坂黒太郎トーク＆コカリナコンサート | 黒坂黒太郎（コカリナ奏者） |
| 平成25年度<br>（2013） | 3/8 | 鈴の音･･･お話の世界 | 鈴木砂知子<br>（NPO法人全日本語りネットワーク理事） |
| 平成26年度<br>（2014） | 3/7 | UN Women開設記念講演会<br>グローバル視点から考える世界の女性、日本の女性の今 | 大崎麻子<br>（関西学院大学客員教授） |
| 平成27年度<br>（2015） | 3/19 | トーク＆シネマ<br>小澤監督が語る「家族と子どもの幸せについて」<br>シネマ「微熱」他 | 小澤雅人（映画監督）<br>杉山　春（ルポライター） |

# 婦人センターまつり・女性センターまつり・男女平等センターまつり

| | 年度 | 回 | 月日 | まつりテーマ / 講演会テーマ / 講師 | 音楽会 / 演奏者 / 出演者 / 他 | シネマ |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 婦人センターまつり | 昭和 61 年度<br>（1986） | 1 | 9/12<br>9/13 | 婦人センター開館記念 | | 9/12<br>「エチオピアから天使がやってきた」 |
| | 昭和 62 年度<br>（1987） | 2 | 9/18<br>9/19 | きのう　きょう　あしたへ<br>「よりよき仲間づくりを」<br>9/19　基調講演「私の過ごした 80 年」<br>植山つる（淑徳大学名誉教授） | | 9/19 「蒼い季節風」 |
| | 昭和 63 年度<br>（1988） | 3 | 9/16<br>9/17 | きのう　きょう　あしたへ<br>「世界に目をひらこう仲間たち」<br>9/17　基調講演「21 世紀へ向かって私たちはいま」<br>縫田曄子（初代国立婦人教育会館館長） | | 9/16 「想い出のアン」<br>'84 モントリオール<br>国際映画祭出品作品 |
| | 平成元年度<br>（1989） | 4 | 9/8<br>9/9 | きのう　きょう　あしたへ<br>「ともに創ろう語ろうひろげよう」<br>9/9　基調講演「私の仕事」木下順二（劇作家） | | 9/8<br>「親バカちゃんりん」<br>子育て奮戦記 |
| | 平成２年度<br>（1990） | 5 | 9/21<br>9/22 | きのう　きょう　あしたへ<br>「私たちでつくる　やさしい環境」<br>9/22　基調講演「やさしい環境ソフトな人生」<br>－ほんとうの豊かさを考える－<br>暉峻淑子（埼玉大学教授） | 9/21「ルーマニア民族楽器と舞踊」<br>日本ルーマニア友好協会文京婦人クラブ<br>9/22　ハンドベル　演奏：和泉短大生 | |
| 女性センターまつり | 平成３年度<br>（1991） | 6 | 9/6<br>9/7 | きのう　きょう　あしたへ<br>「住みよい環境　こころの交流」<br>9/7　基調講演「いつも“今”がしあわせ」<br>山崎陽子（童話作家） | 9/6　雅楽の調べ　文京ジュニア雅楽クラブ<br>「シャンソンを聞きながら」<br>9/7「ツィターの世界」　演奏 : 河野直人 | 9/6・7<br>「八月の鯨」 |
| | 平成４年度<br>（1992） | 7 | 9/11<br>9/12 | きのう　きょう　あしたへ<br>「ひとりの自覚が地球を救う」<br>9/12　基調講演「老いても障害をもっても美しく」<br>～北欧・西欧・米国そして日本を訪ねて～<br>大熊由紀子（朝日新聞論説委員）<br>9/11　語らいの広場<br>「パネルディスカッション」<br>コーディネーター 本間　慎（東京農工大教授） | 9/12「中国琵琶の世界」<br>演奏：王　暁東 | 9/11・12<br>「こんにちは地球家族」<br>- マザー・テレサと国際養子 - |
| | 平成５年度<br>（1993） | 8 | 9/17<br>9/18 | きのう　きょう　あしたへ<br>「輝こう あなたも わたしも」<br>～知識をひろげてステップアップ～<br>9/17　基調講演「美しく輝くために」<br>佐藤陽子（ヴァイオリニスト）<br>9/18　語らいの広場<br>「それぞれが輝くためには」<br>石川牧子（日本テレビアナウンサー） | 9/17「フラダンス」<br>カヘレラニ・フラダンス・スクール<br>9/18「アルパ演奏」　演奏：蓮沼慶子 | 9/17･18<br>「心の旅」<br>（アメリカ映画） |
| | 平成６年度<br>（1994） | 9 | 9/16<br>9/17 | きのう　きょう　あしたへ<br>「家族ってなあに ･･･　～わたしから　地球へ～」<br>9/16　基調講演「新しい国際社会と家族の課題」<br>～女性の役割～<br>猪口邦子（上智大学教授　国際政治学）<br>9/17　語らいの広場<br>「見えてますか？　家庭の中の男女平等」 | 9/16「カンツォーネ」<br>歌：牛田幸恵　伴奏：麻生真紀<br>9/17「マリンバ演奏」<br>演奏：久保友子　伴奏：岩村かおる | 9/17<br>「クレーマー・クレーマー」<br>（アメリカ映画） |
| | 平成７年度<br>（1995） | 10 | 9/29<br>9/30 | きのう　きょう　あしたへ<br>「たいせつなのは今　～わたしの一歩が風を変える～」<br>9/29　基調講演「人生らくがき帖」<br>はらたいら（漫画家）<br>9/30　語らいの広場　創作劇「お茶の間トーク」 | 9/29「ワインとヴァイオリン」<br>演奏：円まるこ<br>9/30 アジアの古典楽器演奏<br>二胡　演奏：張勇（中国）<br>トウルング演奏：グエン・ビン・ジン（ベトナム） | 9/29・30<br>「愛情物語」<br>（アメリカ映画） |
| | 平成８年度<br>（1996） | 11 | 9/28<br>9/29 | きのう　きょう　あしたへ<br>「わたしが主役　女も男もキラキラと」<br>9/28　基調講演「わたしが主役　女も男もキラキラと」～ 21 世紀、女と男の新時代～<br>下村満子（ジャーナリスト・<br>女性のためのアジア平和国民基金理事）<br>9/28　語らいの広場「人生の中で見つけたものは」<br>長谷川悠紀（こもれび会長）他 | 9/28「ワインとラテン音楽」<br>歌：くみあおい　演奏：菊地雅洋<br>9/29「カンテレ演奏」（フィンランド古楽器）<br>演奏：はざた雅子 | 9/28・29<br>「女人、四十。」<br>（香港映画）<br>ベルリン国際映画祭主演女優賞受賞作品 |

| | 年度 | 回 | 月日 | まつりテーマ / 講演会テーマ / 講師 | 音楽会 / 演奏者 / 出演者 / 他 | シネマ |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 女性センターまつり | 平成９年度<br>（1997） | 12 | 9/27<br>9/28 | きのう　きょう　あしたへ<br>「女（ひと）と男（ひと）ともにめざす新しい道」<br>9/27　基調講演「高齢化社会と家族、社会」<br>～生老病死を支えあえる地域とは～<br>向井承子（ノンフィクション作家）<br>9/28　語らいの広場「非行と子どもの人権」<br>坪井節子（弁護士） | 9/27 夕べのつどい<br>「インド舞踊」民族舞踊愛好家グループ<br>「ライア演奏」（ヨーロッパ古典楽器）<br>演奏：皇　恭子、高木芙二子、大田明子 | 9/27・28<br>「マイライフ」<br>（アメリカ映画） |
| | 平成 10 年度<br>（1998） | 13 | 9/26<br>9/27 | きのう　きょう　あしたへ<br>「女（わたし）と男（あなた）語ろう　希望の 21 世紀」<br>9/26　基調講演「女と男 ～岡本かの子と一平のふしぎな関係～」<br>島田燁子（文京女子大学学長） | 9/26 夕べのつどい<br>「ワインを片手に情熱的なフラメンコを」<br>フラメンコ友の会、イレーヌ・木曽、丸山富江、他<br>9/27「楊琴演奏」（中国伝統民族楽器）<br>演奏：鄭宇 | 9/26･27<br>「天使にラブソングを2」<br>（アメリカ映画） |
| | 平成 11 年度<br>（1999） | 14 | 9/18<br>9/19 | きのう　きょう　あしたへ<br>「学ぶ　育てる　創る」<br>9/18　基調講演 「学ぶ・育てる・創る」<br>石森史郎（シナリオライター）<br>9/19　語らいの広場<br>「文京の御三家」創作劇＆トーク | 9/18 夕べのつどい<br>ワインを片手に優雅なひとときを！<br>「カンツォーネを楽しみましょう」<br>歌：長谷川侊二　　伴奏：上北　進<br>9/19「南米アンデスを訪ねて」～フォルクローレの魅力～（サンポーニャ・ケーナ・タルカボンボ・チャランゴ等の民族楽器）<br>出演：アイレス | 9/18<br>「スタンド・バイ・ミー」<br>（アメリカ映画） |
| | 平成 12 年度<br>（2000） | 15 | 9/30<br>10/1 | きのう　きょう　あしたへ<br>「創ろう！　人にやさしい希望の世紀」<br>10/1　基調講演「新しい国際社会と日本の女性」<br>猪口邦子（上智大学教授）<br>9/30　語らいの広場<br>「介護保険を知ろう」木内　清（大塚みどりの郷施設長）<br>浜　和子（白山在宅支援センター長） | 9/30 夕べのつどい<br>「ワインと素敵な歌とお話」<br>歌：加賀清孝　伴奏：山田香織<br>10/1「ネパールの楽器シタール」<br>演奏：スシュマ・オマタ | 9/30<br>「トッツィー」<br>（アメリカ映画） |
| | 平成 13 年度<br>（2001） | 16 | 9/28<br>9/29 | きのう　きょう　あしたへ<br>「21 世紀の夢　ともに手を組む女（ひと）と男（ひと）」<br>9/28　基調講演「狂言の世界」女狂言師として<br>和泉淳子（和泉流狂言師）　三宅藤九郎（狂言師十世）<br>（和泉祥子）<br>9/29　語らいの広場「親・オヤ・子育て」<br>松嵜くみ子（臨床心理士） | 9/28　夕べのつどい「ワインと素敵な歌とお話」<br>歌：川田正子　伴奏：遠藤直子<br>9/29　ディジュリドゥ「オーストラリア民族楽」<br>演奏：鈴木エージ、成田ゆう | 9/28<br>「宋家の三姉妹」<br>（中国映画） |
| 男女平等センターまつり | 平成 14 年度<br>（2002） | 17 | 9/28<br>9/29 | きのう　きょう　あしたへ<br>「女（ひと）と男（ひと）肩をならべていきいきと」<br>9/28 「あなたとわたし　今日も生き生き」<br>～お話と簡単なトレーニング～<br>高橋紀子（福祉レクリエーションワーカー）<br>9/29 「今　子どもたちに伝えたい　命の大切さ」<br>～教育の現場から～<br>小松良子（江戸川区立　篠崎第三小学校養護教諭） | 9/28 「ポピュラーソングをお楽しみください」<br>歌：たいらいさお<br>9/29 「モンゴルの民族楽器」ホビス（民族楽器）ヤッタカ（琴）ショトルゴ（三味線）<br>演奏：佐々木ハスゲレル | |
| | 平成 15 年度<br>（2003） | 18 | 9/26<br>9/27 | きのう　きょう　あしたへ<br>「平等は新しい風と光のなかで」<br>9/26　基調講演「映像が女性で輝くとき」<br>高野悦子（岩波ホール総支配人） | 9/26　チェルノブイリ平和コンサート<br>「ロシアの民族楽器ハンドゥーラ」<br>演奏：ナターシャ・グジー<br>9/27　トークと弾き語り 「シャンソンをあなたに」<br>歌：岸本悟明（シャンソン歌手） | |
| | 平成 16 年度<br>（2004） | 19 | 9/17<br>9/18 | きのう　きょう　あしたへ<br>「平等の大地のうえに命輝け！」<br>9/18　基調講演「女（ひと）と男（ひと）<br>未来のこども達に出来ること」<br>田辺鶴英（女流講談師） | 9/17 「ビルマ（現ミャンマー）の歴史を語る歌」<br>演奏：マ・ザベェ　歌：タンタイ<br>踊り：サンサンティ、足立マ・チョチョアイ<br>9/18 「愛する日本、愛する中国よ」<br>歌：呉　越華　伴奏：長尾博子<br>司会：奏燕 | |
| | 平成 17 年度<br>（2005） | 20 | 9/9<br>9/10 | きのう　きょう　あしたへ<br>「はばたけ未来へ!!　築こう平等　平和のまちに」<br>9/17　トーク＆シャンソンコンサート（20 周年記念）<br>「作家として歌手として歩むマイステージ」<br>戸川昌子（作家・歌手）　　ピアノ伴奏：岸本悟明 | 9/10「ルーマニア民族楽器」<br>～パンフルートの演奏～<br>演奏：ニコラエ　ボイクリッツ | 9/9<br>「ホーム・スイートホーム」<br>（日本映画） |
| | 平成 18 年度<br>（2006） | 21 | 9/15<br>9/16 | きのう　きょう　あしたへ<br>「輝くあなたがあしたを築く　平等社会へレッツチャレンジ！」<br>9/16　歴史に生きる女性 「北条政子の生き方」<br>野村育世（日本中世史・女性史研究家） | 9/15 「アフリカ民族楽器（コンゴの打楽器）の演奏」<br>出演：LOKITO（ロキト）<br>9/16　ワインのつどい「ピアノ弾き語り」<br>出演：照屋実穂 | 9/15<br>「サンダカン八番娼館望郷」 |

| | 年度 | 回 | 月日 | まつりテーマ / 講演会テーマ / 講師 | 音楽会 / 演奏者 / 出演者 / 他 | シネマ |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 男女平等センターまつり | 平成 19 年度<br>（2007） | 22 | 9/7<br>9/8 | きのう　きょう　あしたへ<br>「私こそ平和の担い手、平等社会をここから発信！」<br>9/8 「三代の文京区長が語る　昔・今・これから」<br>遠藤正則（元区長）<br>煙山　力（前区長）<br>成澤廣修（現区長） | 9/7　中国雲南省「フルス」&「バウ」の演奏と映像によるコラボレーション<br>演奏：孫健<br>世界の歌<br>出演：東京ミュージック＆尚美ヴォーカル・アンサンブル<br>9/8　ワインの夕べ「ギター弾き語り」<br>シンガーソングライター：吉田陽宏 | 9/7<br>「ひまわり」<br>（イタリア映画） |
| | 平成 20 年度<br>（2008） | 23 | 9/5<br>9/6 | きのう　きょう　あしたへ<br>「家庭と仕事　笑顔の生まれる　平等社会！」<br>9/6「篤姫　わたくしこと一命にかけ」<br>原口　泉（鹿児島大学教授） | 9/5　ジャズコンサート「昭和モダンガールズ」<br>出演：坂田　稔& SJO<br>9/6　南米ボリビアの楽器と踊り<br>出演：ロス・アスピランテス | 9/5<br>「バルトの楽園」 |
| | 平成 21 年度<br>（2009） | 24 | 9/5<br>9/6 | きのう　きょう　あしたへ<br>「男女平等　未来にゆめを　私の生きかた･暮らしかた !!」<br>9/5 「花のいのちはみじかくて」<br>～放浪記と林芙美子～<br>高橋千劔破（作家・文芸評論家・日本ペンクラブ常務理事） | 9/5　インドネシア・ジャワのガムランと舞踊<br>出演：ガムラン・アンサンブル「WASABI」<br>9/6「マンドリンとギターの調べ」<br>出演：コムラード　マンドリンアンサンブル | 9/6<br>「かあちゃん」 |
| | 平成 22 年度<br>（2010） | 25 | 9/3<br>9/4 | きのう　きょう　あしたへ<br>「あなたとわたし　自立と協働　明日への一歩」<br>9/4 「イク（育）メントーク　子育てって楽しいカモ」<br>パネリスト：成澤廣修（文京区長）<br>青野慶久（サイボウズ㈱代表取締役社長）<br>コーディネーター：吉田大樹（NPO 法人ファザーリングジャパン理事） | 9/3「中国・二胡演奏会」<br>出演：中西桐子<br>9/4「心を癒す　ゴスペルコンサート」<br>出演：Hanna Bunya（文屋範奈） | 9/3<br>「ココ・アヴァン・シャネル」 |
| | 平成 23 年度<br>（2011） | 26 | 10/28<br>10/29 | きのう　きょう　あしたへ<br>「男女平等　今こそ「絆」」<br>10/29 「男女平等今こそ「絆」& ミニライブ」<br>田嶋陽子（元法政大学教授） | 10/28 「クラシックとタンゴの出会い」<br>出演：クインテスペランツァ<br>10/29 「薩摩琵琶演奏」<br>出演：川嶋信子 | 10/28<br>「フラガール」 |
| | 平成 24 年度<br>（2012） | 27 | 10/20<br>10/21 | きのう　きょう　あしたへ<br>「もう一歩 !!　みんなの力で明るい未来」<br>10/21 「男のスカートはなぜ流行らない」<br>山田五郎　（編集者・評論家） | 10/20　ミニライブ<br>「東大アカペラ・ラボーチェ」<br>10/21　ミニライブ<br>「東邦音楽大学サクソフォーンアンサンブル」 | 10/20<br>「マンマ・ミーア！」 |
| | 平成 25 年度<br>（2013） | 28 | 10/26<br>10/27 | きのう　きょう　あしたへ<br>「認め合いから始まる　男女平等！」<br>10/27 「575 年の伝統・男女手を携えて未来へ」<br>和泉元彌　（狂言師） | 10/26　まつりコンサート「ウクレレ演奏会」<br>出演：Shu-San | 10/26<br>「めがね」 |
| | 平成 26 年度<br>（2014） | 29 | 10/24<br>10/25 | きのう　きょう　あしたへ<br>「男女平等 !!　希望の未来へ」<br>10/25 「女性が輝く社会をつくるために<br>～フランスの男女平等から学ぶ～」<br>ドラ・トーザン　（国際ジャーナリスト） | 10/24 「ヴァイオリンコンサート」<br>出演：長尾春花（ヴァイオリン）　實川　風（ピアノ） | 10/24<br>「幸せのレシピ」 |
| | 平成 27 年度<br>（2015） | 30 | 10/24<br>10/25 | きのう　きょう　あしたへ<br>「一人ひとり　平和の発信この地から」<br>10/25 「笑って考える　家庭のこと、仕事のこと、未来のこと」<br>瀬地山　角　（東京大学大学院総合文化研究科教授） | 10/24 「まつりコンサート」<br>出演:海野幹雄（チェロ）　海野春絵（ピアノ）<br>白井　篤（ヴァイオリン） | |
| | 平成 28 年度<br>（2016） | 31 | 10/22<br>10/23 | きのう　きょう　あしたへ<br>「歩みつづけて今ここに　私たちの男女平等！」<br>10/22 「やわらのジェンダー学<br>～柔道史からみる男女平等の歩み～」<br>溝口紀子（静岡文化芸術大学　文化政策学部教授） | 10/23 「マリンバコンサート」<br>出演：PeCon（ペコン） | |

| 年度 | 月日 | 内容 | 出演者 |
|---|---|---|---|
| 平成 28 年度 | 6/4 | 男女平等センター 30 周年記念トーク＆コンサート<br>「クラシック音楽にも男女平等を !!<br>～女性の作曲家たちのかくれた名曲を聴く～」 | 小林　緑（国立音楽大学名誉教授）<br>吉川真澄（ソプラノ）<br>上野由恵（フルート）<br>山本直輝（チェロ）<br>鷲宮美幸（ピアノ） |

# 婦人週間講演会・女性週間講演会・男女共同参画週間記念講演会

| | 年度 | 内容 | 講師 |
|---|---|---|---|
| 婦人週間講演会 | 昭和 61 年度（1986） | 男女の固定的役割分担意識を見直そう | 袖井孝子 |
| | 昭和 62 年度（1987） | 男女共同参加型社会を目指して | 山本和代 |
| | 昭和 63 年度（1988） | わたしたちのあした | 宝井琴桜 |
| | 平成元年度（1989） | 女を変える、男を変える | 山下泰子 |
| | 平成 2 年度（1990） | これからの女と男のやさしい関係 | 金城清子 |
| 女性週間講演会 | 平成 3 年度（1991） | 私のシネマライフ | 高野悦子 |
| | 平成 4 年度（1992） | 家族・新時代 | 円　より子 |
| | 平成 5 年度（1993） | 新しい国際社会と女性の役割 | 猪口邦子 |
| | 平成 6 年度（1994） | 女性学ノススメ | 上野千鶴子 |
| | 平成 7 年度（1995） | 男女共同参画社会と北京会議 | 坂東眞理子 |
| | 平成 8 年度（1996） | 男女共同参画社会へ向けて「北京女性会議の成果を踏まえて」 | 有馬真喜子 |
| | 平成 9 年度（1997） | 社会が変わる　女が変える　～男女共同参画社会への課題～ | 岡澤憲芙 |
| | 平成 10 年度（1998） | 女と男のパートナーシップ | 吉永みち子 |
| | 平成 11 年度（1999） | 女性政策新時代 | 上野千鶴子 |
| | 平成 12 年度（2000） | 私らしく生きるために<br>～「男の我慢」「女の不満」に終止符を打とう～ | 大日向雅美 |
| 男女共同参画週間記念講演会 | 平成 13 年度（2001） | どう変わる　女と男の生き方　－みんなの想い あしたへとどけ－ | 吉見周子、大下勝巳　他 |
| | 平成 14 年度（2002） | 現代版　女の一生 | 清水ちなみ |
| | 平成 15 年度（2003） | 女も男も自分を変えて楽しく生きる　～5つの秘訣～ | 佐々木かをり |
| | 平成 16 年度（2004） | 「女らしさ、男らしさ」から「私らしさ、あなたらしさへ」 | 瀬地山　角 |
| | 平成 17 年度（2005） | どこまで変わった？　みんなの意識 | 藤野美都子、山下泰子、志村直愛 |
| | 平成 19 年度（2007） | 講演とシネマ　「ベアテの贈りもの」<br>講演：贈りものを生かそう | 赤松良子 |
| | 平成 20 年度（2008） | 講演とミニライブ「女と男のよりよい関係」 | 山本コウタロー |
| | 平成 21 年度（2009） | 講演とミニライブ「私の生きてきた道　生きる道」 | 田代美代子 |
| | 平成 22 年度（2010） | ～女の自立・男の自立～<br>こうして見つけよう女と男の「生き方」を！ | 木元教子 |
| | 平成 23 年度（2011） | 「元始、女性は太陽であった」<br>～新しい女たち男たちのメッセージは今～ | 米田佐代子 |
| | 平成 24 年度（2012） | 「いま、声をあげよう。女の視点から 2012」<br>被災地支援を通じて女性のパワーについて | 落合恵子 |
| | 平成 25 年度（2013） | 今、私たちにできること<br>～女優業のこと、家庭のこと、そして親善大使のこと～ | 紺野美沙子 |
| | 平成 26 年度（2014） | ジェンダーフリーでそしてエイジフリーで | 渥美雅子 |
| | 平成 27 年度（2015） | 男女がともにやさしく老いるには<br>～看護を通して見える人と社会～ | 宮子あずさ |
| | 平成 28 年度（2016） | いきいきと！　くらしも仕事も地域でも | 堀内光子、小林千恵、光畑由佳、和田　悠 |

# プラスワンセミナー

| 年度 | | 回 | 月日 | 内容 | 講師 |
|---|---|---|---|---|---|
| 平成8年度（1996） | プラスワンセミナー | 第１回 | 6/29 | 「婦選は鍵なり」ビデオ＆トーク | 上野かおる |
| | | 第２回 | 7/9 | | |
| | | 第３回 | 9/5 | ～どうなっているの日本の政治～<br>〔その１〕わかりにくい選挙制度 | 佐竹　寛（中央大学教授） |
| | | 第４回 | 10/19 | 〔その２〕みえない政党・派閥 | 佐竹　寛（中央大学教授） |
| | | 第５回 | 11/25 | 〔その３〕新しい選挙制度は、何を変えたか<br>～小選挙区、比例代表制の功罪～ | 佐竹　寛（中央大学教授） |
| | | 第６回 | 1/24 | 女性と政治参加　諸外国の状況から | 植野妙実子（神奈川大学助教授） |
| | | 第７回 | 2/14 | 文京区議会女性議員との懇談会 | 女性議員７名 |
| | | 第８回 | 3/4 | 平等・平和 | 植野妙実子（神奈川大学助教授） |
| 平成9年度（1997） | プラスワンセミナー | 第１回 | 7/7 | ジェンダーってなーに | 入江直子（神奈川大学助教授） |
| | | 第２回 | 7/25 | 「現代家庭考」ビデオ＆トーク | |
| | | 第３回 | 9/3 | 新しいライフスタイルと人権のあり方 | 植野妙実子（神奈川大学助教授） |
| | | 第４回 | 10/9 | 生命倫理　～産むこと、死ぬことをめぐる自己決定権～ | 藤野美都子 |
| | | 第５回 | 11/6 | 高齢化社会　～高齢世代と現役世代のための社会保障～ | |
| | | 第６回 | 12/19 | 環境アセスメント法について | 福岡英明（高岡大学） |
| | | 第７回 | 1/16 | 情報公開　～最近の状況について～ | 福岡英明（高岡大学） |
| | | 第８回 | 2/6 | 人権保障と裁判のあり方 | 植野妙実子（神奈川大学助教授） |
| | 世界の女性シリーズ | 第１回 | 9/10 | ナイトセミナー<br>バングラデシュの女性たち | 下沢　嶽（シャプラニール＝市民による海外協力の会） |
| | | 第２回 | 9/22 | アメリカ合衆国の女性たち | 栗原涼子（相模女子大学講師） |
| | | 第３回 | 11/28 | 南アフリカ共和国<br>～新しい国づくりの中の女性たち～ | 津山直子（日本国際ボランティアセンター南アフリカ事務所代表） |
| | | 第４回 | 3/12 | ノルウェーの女性たち<br>～国民が選んだ道を支える人権思想～ | 中田慶子（府中市議会議員） |
| 平成10年度（1998） | プラスワンセミナー | 第１回 | 6/10 | 私のエンパワーメント<br>～身近な法律・家族法～　相続税について　パート１ | 表　てる子（弁護士） |
| | | 第２回 | 6/24 | ～身近な法律・家族法～　相続税について　パート２ | 表　てる子（弁護士） |
| | | 第３回 | 7/10 | ～婚姻・親族～　夫婦・親子の法律　パート１ | 表　てる子（弁護士） |
| | | 第４回 | 7/22 | ～婚姻・親族～　夫婦・親子の法律　パート２ | 表　てる子（弁護士） |
| | | 第５回 | 10/6 | ～介護保険制度について～<br>介護保険制度のあらまし | 竹澤正美<br>（文京区介護保険準備担当課長） |
| | | 第６回 | 10/22 | 介護保険制度の問題点 | 篠崎次男（立命館大学教授） |
| | | 第７回 | 11/11 | 施設からみた介護保険制度 | 木内　清（大塚みどりの郷施設長） |
| | | 第８回 | 12/3 | かかりつけ医からみた介護保険制度 | 鈴木裕二（医師） |
| | | 第９回 | 1/19 | ～あなたのライフデザインは？～<br>今　私がやりたいことは？ | 宮崎冴子（東京経営短期大学助教授） |
| | | 第 10 回 | 1/28 | 今　私にできることは？ | 宮崎冴子（東京経営短期大学助教授） |
| | | 第 11 回 | 3/24 | すてきに生きる！　トーク IN トーク | 宮崎冴子（東京経営短期大学助教授） |
| | | 第 12 回 | 3/30 | 私を活かしたいきいき快適ライフ | 宮崎冴子（東京経営短期大学助教授） |
| | 世界の女性シリーズ | 第１回 | 7/9 | ナイトセミナー<br>インドの女性たち | 鳥居千代香<br>（帝京女子短期大学助教授） |
| | | 第２回 | 9/17 | 韓国の女性団体・女性運動 | 朴　今玉<br>（お茶の水女子大学外国人客員研究員、韓国女性記者クラブ会長） |
| | | 第３回 | 10/27 | 中国の女性たち　～平等のうらとおもて～ | 秋山洋子（駿河台大学助教授） |
| | | 第４回 | 11/13 | イスラム世界の女性と私たち<br>～文化横断的なフェミニズムのアプローチについて①～ | 岡　真理（東京外語大学非常勤講師） |
| | | 第５回 | 11/27 | イスラム世界の女性と私たち<br>～文化横断的なフェミニズムのアプローチについて②～ | 岡　真理（東京外語大学非常勤講師） |

| 年度 | | 回 | 月日 | 内容 | 講師 |
|---|---|---|---|---|---|
| 平成11年度（1999） | プラスワンセミナー | 第１回 | 6/25 | ～家族～<br>叱る、それとも叱らない<br>～低下する若者のマナーとその背景を考える～ | 高木俊彦（非行臨床ケースワーカー） |
| | | 第２回 | 7/24 | 今　家族が危ない | 平井　公（朝日新聞社会部記者） |
| | | 第３回 | 9/2 | 文京区の介護保険どうなるの？ | 稲垣　隆<br>（文京区介護保険準備担当課主査） |
| | | 第４回 | 10/29 | 子どもの心の危機と親子の絆 | 山田和恵（カウンセラー） |
| | | 第５回 | 11/8 | ～どうなるの日本の政治～<br>今　日本の政治は　～国会の審議は不明瞭～ | 佐竹　寛（中央大学名誉教授） |
| | | 第６回 | 11/22 | 21 世紀の日本の政治<br>～未来先取り憲法と明治型日本の政治～ | 佐竹　寛（中央大学名誉教授） |
| | | 第７回 | 12/6 | 市民による具体的政治改革とは<br>～何をどう直したらよいのか市民の立場～ | 佐竹　寛（中央大学名誉教授） |
| | | 第８回 | 12/13 | 人権と日本の政治　～市民の意識をどう変えるか～ | 佐竹　寛（中央大学名誉教授） |
| | | 第９回 | 1/26 | ～高齢者～<br>国際高齢者年と女性たち | 上坪　陽<br>（国際高齢者年 NGO 会議議長） |
| | | 第 10 回 | 2/9 | 高齢者の健康 | 鳥羽研二 |
| | | 第 11 回 | 3/13 | 主婦の変遷と高齢社会 | 瀬地山　角 |
| | | 第 12 回 | 3/24 | こうなる文京区の介護保険 | 竹澤正美<br>（文京区介護保険準備担当課長） |
| | 世界の女性シリーズ | 第１回 | 7/14 | カンボジアの女性と私たち | 榊　千恵 |
| | | 第２回 | 9/8 | フランスの女性と私たちⅠ | 梶本玲子（フランス女性ジャーナリスト協会会員） |
| | | 第３回 | 10/6 | フランスの女性と私たちⅡ | 梶本玲子（フランス女性ジャーナリスト協会会員） |
| | | 第４回 | 3/2 | ブラジルの社会と女性 | 三田千代子（上智大学外国語学部教授） |
| 平成12年度（2000） | プラスワンセミナー | 第１回 | 8/25 | ～政治～<br>地方分権と私たち | 田口裕之<br>（文京区企画部政策担当課長） |
| | | 第２回 | 9/6 | 混迷する日本の民主主義　～政治に民主主義はあるか～ | 佐竹　寛（中央大学名誉教授） |
| | | 第３回 | 9/13 | 市民参加による政治改革　～総選挙の日本の行方と私たち～ | 佐竹　寛（中央大学名誉教授） |
| | | 第４回 | 10/31 | 女性と政治　～参加から参画へ～ | 久保公子<br>（（財）市川房枝記念会事務局長） |
| | | 第１回 | 11/8 | ～家族～<br>女性と年金制度　～年金制度にみる女性の立場～ | 下村美恵子（厚生省「女性と年金検討委員会」委員） |
| | | 第２回 | 12/1 | 女性と税制度　～女性の立場で税制度を考える～ | 山崎久民（税理士） |
| | | 第３回 | 12/4 | なんとかしようよ！　女の生き方<br>～“おんぶにだっこ”の家族関係～ | 渡辺美恵 |
| | | 第４回 | 12/12 | 文京区の女性政策と女性行動計画<br>～提言しよう！　私たちの欲しい政策～ | 藤田恵子（文京区女性青少年課） |
| | | 第５回 | 2/28 | スタートした介護計画 | 天野マキ（東洋大学社会学部教授） |
| | | 第６回 | 3/21 | 介護保険と福祉サービス | 稲垣　隆（文京区介護支援課主査） |
| | | 第１回 | 3/3 | ～環境～<br>身近な化学物質の健康影響<br>～シックハウス・化学物質過敏症～ | 北條祥子（尚絅女学院短期大学教授） |
| | | 第２回 | 3/21 | 身近な化学物質の健康影響<br>～ダイオキシン・環境ホルモン～ | 小島正美 |
| | 世界の女性シリーズ | 第１回 | 7/13 | ネパールの女性たち<br>～自立への道　農村女性のかがやき～ | 定松栄一<br>（シャプラニール＝市民による海外協力の会　前カトマンズ事務所長） |
| | | 第２回 | 12/6 | ヒラリー・クリントン<br>～素顔のファーストレディーとその周辺～ | 鳥居千代香<br>（帝京女子短期大学助教授） |
| | | 第３回 | 2/6 | スウェーデンの女性たち<br>～スウェーデン女性の逞しさはどこから～ | 柳沢重也<br>（信州大学、上田女子短期大学講師、東京スウェーデン文化協会顧問） |
| | | 第４回 | 2/14 | 英国の女性たち<br>～家族の「物語」と実態～ | 酒井順子<br>（フェリス女学院大学非常勤講師） |

| 年度 | | 回 | 月日 | 内容 | 講師 |
|---|---|---|---|---|---|
| 平成13年度（2001） | プラスワンセミナー | 第１回 | 6/12 | ～政治・経済～　どうする日本の政治<br>～改革を求めた市民の動き、いま政治が変わる～ | 佐竹　寛（中央大学名誉教授） |
| | | 第２回 | 6/22 | この不況どうなるのか？ | 吉田敬一（東洋大学経済学部教授） |
| | | 第３回 | 9/12 | どうする日本の政治　聖域なき構造改革とは？<br>～参院選の結果をふまえて～ | 佐竹　寛（中央大学名誉教授） |
| | | 第１回 | 11/5 | ～女性～<br>男女共同参画センターと女性センター | 舘　かおる（お茶の水女子大学ジェンダー研究センター所長） |
| | | 第２回 | 11/27 | 男女平等参画社会をめざして<br>～文京区男女平等参画推進とこれからの課題～ | 藤野美都子（福島県立医科大学教授） |
| | | 第３回 | 12/4 | 求められる家族の関係　～子育てを通しての育ち～ | 籠野陽子 |
| | | 第４回 | 12/11 | ドメスティック・バイオレンスをめぐって<br>～パートナーからの暴力を考える～ | 戒能民江<br>（お茶の水女子大学生活科学部教授） |
| | | 第１回 | 2/20 | ～環境～　私たちの食物の安全性は？ | 小島正美 |
| | | 第２回 | 2/27 | 環境ホルモンと子どもの未来は | 小島正美 |
| | 世界の女性シリーズ | 第１回 | 7/12 | スペインの女性たち　～元気で陽気な女性たち～ | 森下純子（国際交流団体職員） |
| | | 第２回 | 12/6 | ベトナムの女性たち　～歴史が育てた自主性～ | 井川一久（元朝日新聞サイゴン支局長） |
| | | 第３回 | 3/12 | 国連からみた世界の女性 | 黒河内久美（元駐フィンランド大使） |
| 平成14年度（2002） | プラスワンセミナー | 第１回 | 6/24 | ～男女平等シリーズ～<br>どうする日本の政治　～政治不信と政治の行方～ | 佐竹　寛（中央大学名誉教授） |
| | | 第２回 | 8/2 | 身近な法律・家族法　～夫婦・親子を中心として～ | 表　てる子（弁護士） |
| | | 第３回 | 9/3 | 身近な法律・家族法　～相続・遺言を中心として～ | 表　てる子（弁護士） |
| | | 第４回 | 9/12 | 男女平等ですか？　～文京区における男女平等参画とは～ | 金田正美（文京区男女平等青少年課長） |
| | | 第５回 | 12/2 | DV 防止法から１年　～社会の変化と女性の自立について～ | 月野美帆子（読売新聞生活情報部記者） |
| | | 第６回 | 12/16 | 暴力をやめたい　～ DV からの脱出～ | 山口のり子（DV 加害行動変容プログラムファシリテーター） |
| | | 第７回 | 2/14 | 夫婦別姓　～あなたは支持派・反対派？～ | 森本美紀（朝日新聞東京本社学芸部員） |
| | 世界の女性シリーズ | 第１回 | 3/20 | ハンガリーの女性たち | ヒダシ・ユディット<br>（神田外国語大学客員教授） |
| | | 第２回 | 3/28 | アフガニスタンの女性たち | 藤枝修子（お茶の水女子大学アフガニスタン担当特任教授） |
| 平成15年度（2003） | プラスワンセミナー | 第１回 | 7/26 | ～男女平等シリーズ～<br>江戸時代に見るジェンダー「女と男の異空間」 | 宮本由紀子（駒澤大学講師） |
| | | 第２回 | 8/23 | 江戸時代に見るジェンダー「古文書に見る結婚と離婚」 | 森　安彦（中央大学教授） |
| | | 第３回 | 11/1 | 江戸時代に見るジェンダー「女大学考」 | 菅野則子（帝京大学教授） |
| | | 第１回 | 2/19 | ～女性と経済シリーズ～<br>女性のキャリアデザイン | 青島祐子（城西女子短期大学助教授） |
| | | 第２回 | 3/4 | 知っておきたい税金と年金　～あなたのライフプランは？～ | 山崎久民（税理士） |
| | | 第３回 | 3/30 | 自分らしいライフデザイン<br>～あなたのバランスシートは？～ | 薮本亜里<br>（ファイナンスクリニック代表） |
| | 世界の女性シリーズ | 第１回 | 10/10 | スウェーデンの女性たち | 小川信子（日本女子大学名誉教授） |
| | | 第２回 | 11/28 | ミャンマー（ビルマ）の女性はいま | 足立チョチョアイ<br>（ビルマ女性連盟日本代表） |
| | | 第３回 | 12/18 | ノルウェー・デンマークに見る女性の地位向上 | 井口民子（未来館事務局長） |
| 平成16年度（2004） | プラスワンセミナー | 第１回 | 10/29 | ～男女平等シリーズ～　やさしく学ぼう女性の権利 | 川真田嘉壽子（立正大学法学部教授） |
| | | 第２回 | 11/29 | 知ってますか？　家族法 | 今井雅子（東洋大学法学部教授） |
| | | 第３回 | 3/9 | ジェンダーのイロハ | 河野貴代美（お茶の水女子大学教授） |
| | | 第４回 | 3/18 | いきすぎですか　男女平等は？ | 橋本ヒロ子（十文字学園女子大学<br>社会情報学部長） |
| | 世界の女性シリーズ | 第１回 | 6/25 | ザンビア共和国を識る | Ruth Kombalome<br>（金城学院大学講師） |
| | | 第２回 | 12/7 | ヴェネズエラの女性たち | 北脇ジャネット |

| 年度 | | 回 | 月日 | 内容 | 講師 |
|---|---|---|---|---|---|
| 平成17年度（2005） | プラスワンセミナー | 第１回 | 10/22 | ～女性の自立支援シリーズⅠ～<br>あなたのやる気を形に。可能性を見つけてみませんか？ | 奥谷京子（WWW/ ジャパン（女性のための世界銀行日本支部）代表） |
| | | 第２回 | 2/7 | ～男女平等シリーズⅠ～<br>身近な視点からの男女平等 | 志村直愛<br>（東北芸術工科大学非常勤講師） |
| | | 第３回 | 2/22 | ～男女平等シリーズⅡ～<br>今　再び考える　男女平等参画社会とは | 堀口悦子（明治大学情報コミュニケーション学部教授） |
| | | 第４回 | 3/17 | ～女性の自立支援シリーズⅡ～<br>あなたのやる気を形に。可能性を見つけてみませんか？<br>～生涯にわたるキャリア形成～ | 小澤佳代子（NPO法人WING理事長、（有）モアフレンズ取締役） |
| | 世界の女性シリーズ | 第１回 | 11/22 | バングラデシュの女性たちは今 | 村山真弓（日本貿易振興機構アジア経済研究所　主任研究員） |
| | | 第２回 | 12/15 | 北欧の女性たちは今　ノルウェー・スウェーデン・オランダ | 煙山　力（文京区長） |
| | | 第３回 | 1/16 | イタリアの女性たちの家庭と仕事 | クリスティーナ・イオリ・内川<br>（イタリア弁護士資格保有） |
| 平成18年度（2006） | 世界の女性シリーズ | 第１回 | 6/10 | ルーマニアの女性たちは今 | 猪谷晶子（ルーマニア協会監事） |
| | | 第２回 | 6/24 | ニュージーランドの女性たちは今 | ジェニファー・ウィルソン<br>（ニュージーランド大使館） |
| | プラスワンセミナー | 第３回 | 10/14 | ～女性の人権シリーズ～<br>不戦への一本の道　～女性の人権と国連の取り組み～ | 渡部通子（NPO 国連支援交流協会） |
| | | 第４回 | 10/21 | ～女性の人権シリーズ～<br>助けて！‥と叫ぶ女性たち　～女性の家ヘルプから学ぶこと～ | 大津恵子（女性に対する暴力に関する専門調査会委員） |
| | | 第５回 | 12/7 | ～女性の自立シリーズ～<br>ジェンダーから見た日本女性の歴史 | 大島美津子（元専修大学文学部教授、日本近代史研究家） |
| | | 第６回 | 1/27 | ～女性の自立シリーズ～　身近なジェンダーに気づく | 石崎節子（国際女性の地位協会理事） |
| 平成19年度（2007） | 世界の女性シリーズ | 第１回 | 5/24 | フランスの女たちは今 | 榊原智子（読売新聞生活情報部記者） |
| | | 第２回 | 6/15 | ドイツの女たちは今 | バーバラ・ホルトス<br>（文学博士、社会科学部研究部）<br>A・ゲルマー（文学博士、ジェンダー研究・歴史学研究） |
| | プラスワンセミナー | 第３回 | 10/9 | ～女性の自立シリーズ～<br>これからの妻の生き方、夫の生き方 | 蓼沼康子<br>（城西短期大学総合学科教授） |
| | | 第４回 | 12/7 | ～女性の自立シリーズ～　都市と農村の女性の連帯を求めて | 山崎久民（（株）WAN 研究所代表） |
| | | 第５回 | 11/16 | ～女性の人権シリーズ～<br>女の立場・男の立場　＊女性の暴力反対週間によせて | 諸橋泰樹（フェリス女学院大学教授） |
| | | 第６回 | 11/30 | ～女性の人権シリーズ～　メディアと女性の人権 | 諸橋泰樹（フェリス女学院大学教授） |
| 平成20年度（2008） | 世界の女性シリーズ | 第１回 | 5/23 | アラブの女性たちは今 | 平松昌子（国連 NGO 国内婦人委員会副委員長） |
| | | 第２回 | 7/15 | インドネシアの女性たちは今 | フィトリアーニ・黒田<br>（ロイヤルシルク財団代表） |
| | プラスワンセミナー | 第３回 | 10/26 | ～女性の健康シリーズ～　女性がかかりやすいガン | 土橋一慶（千川産婦人科医院院長） |
| | | 第４回 | 11/22 | ～女性の自立シリーズ～　ワーク・ライフ・バランスⅠ | 西山恵美子（国立女性教育会館客員研究員） |
| | | 第５回 | 11/30 | ～女性の自立シリーズ～<br>ワーク・ライフ・バランスⅡ | 安岡厚子（NPO 法人「サポートハウス年輪」理事長） |
| | | 第６回 | 2/14 | ～女性の健康シリーズ～　中高年からの心と体のケア | 一宮和夫（一宮クリニック院長） |
| 平成21年度（2009） | プラスワンセミナー | 第１回 | 6/24 | ～女性の人権と自立～「安藤パパと子育てトーク」<br>一人ひとりのワーク・ライフ・バランスを探そう | 安藤哲也（NPO 法人ファザーリングジャパン代表理事） |
| | | 第２回 | 7/4 | ～女性の人権と自立～<br>身近な人を地域で支える | ゆのまえ知子<br>（お茶の水女子大学非常勤講師） |
| | | 第３回 | 9/26 | ～子育て支援～<br>こんな時どうしたらいいの | 永井由利子<br>（東京成徳大学子ども学部准教授） |
| | | 第４回 | 10/6 | ～健康問題～<br>認知症サポーターになりましょう！ | 五十嵐美知子、小野澤優子<br>（文京区介護保険課） |
| | | 第５回 | 2/4 | ～健康問題～　何でも聞いてみよう歯周病予防のこつ！ | 高橋義一（小石川歯科医師会前会長） |
| | | 第６回 | 3/27 | ～女性の人権と自立～　どうしたら変わる　身のまわりの平等 | 山下泰子（文京学院大学名誉教授） |

| 年度 | | 回 | 月日 | 内容 | 講師 |
|---|---|---|---|---|---|
| 平成22年度（2010） | プラスワンセミナー | 第１回 | 5/18 | ～子育て支援～　親子でリズム遊び | 大島由紀子（ダンス指導員） |
| | | 第２回 | 6/20 | ～子育て支援～<br>なんでもきいてみよう子どものアレルギー | 細部千晴（日本小児科学会専門医、文京区医師会子育て支援委員） |
| | | 第３回 | 11/16 | ～男女平等シリーズ～<br>小さなことを大切にする＝それは幸せにつながる | 森　義仁（お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科准教授） |
| | | 第４回 | 12/4 | ～男女平等シリーズ～　女性の生き方「自分の原点！振り返り生まれ直し生き直し」 | 神谷整子（みづき助産院院長） |
| | | 第５回 | 2/26 | ～男女平等シリーズ～　ジェンダーの視点で拓く「親学」 | 和田　悠（日本学術振興会特別研究員） |
| | | 第６回 | 3/26 | ～男女平等シリーズ～　からだとこころで感じる差別<br>※東日本大震災発生のため延期 | 内海﨑貴子（川村女子大学教授） |
| 平成23年度（2011） | プラスワンセミナー | 第１回 | 5/28 | ～男女平等シリーズ～<br>一人ひとりがいきいきと暮らせる社会「文京区」をめざして | 堀内光子（文京区男女平等参画推進会議会長）<br>佐藤成臣（文京区男女平等参画推進会議委員） |
| | | 第２回 | 7/9 | からだとこころで感じる差別<br>～性別による差別を疑似体験しましょう！～ | 内海﨑貴子（川村女子大学教授） |
| | | 第３回 | 8/6 | 日本社会再生の鍵は…女性の活躍　～男女平等をすすめるために～ | 橋本ヒロ子（十文字学園女子大学副学長） |
| | | 第４回 | 9/10 | 昔むかしジェンダーがあったとさ　～おとぎ話の中に表現されたDV～ | 奥山和弘（静岡県立吉原高等学校校長） |
| | | 第５回 | 2/28 | 放射線への不安をなくしましょう　～放射線の基礎知識から～ | 新谷喜久夫（第２種放射線取扱主任者） |
| | | 第６回 | 3/13 | ひと花咲かせるための女の心得帳<br>～元気な女がみんなを幸せにする～ | 渡辺美恵<br>（NPO法人生活企画ジェフリー理事長） |
| 平成24年度（2012） | プラスワンセミナー | 第１回 | 6/29 | ～男女平等、人権、ワーク・ライフ・バランスシリーズ～<br>２回連続講座　あなたが輝く女性講座<br>パート１　子育て中でも自分が輝く時間がほしい | 加藤千恵<br>（東京女学館大学国際教養学部教授） |
| | | 第２回 | 7/13 | パート２　家事、育児も夫と対等でいたい | 加藤千恵（東京女学館大学国際教養学部教授） |
| | | 第３回 | 9/1 | 女性の生き方、女性の自立　アメリカでの４５年の仕事と家庭の体験談 | 小畑悦子<br>（アリゾナ州立大学名誉教授） |
| | | 第４回 | 11/17 | DVのない社会を目指して | 戒能民江（お茶の水女子大学名誉教授） |
| | | 第５回 | 2/16 | 中高年男性のワーク・ライフ・バランス<br>～幸せの老い支度に向けて～ | 土堤内昭雄<br>（ニッセイ基礎研究所主任研究員） |
| | | 第６回 | 3/16 | ワーク・ライフ・バランス　男は父親になって変わる<br>～パパ料理で成長する10のステップ～ | 滝村雅晴（パパ料理研究家） |
| 平成25年度（2013） | プラスワンセミナー | 第１回 | 5/25 | ～男女平等、人権、ワーク・ライフ・バランスシリーズ～<br>これからの男性の育児参加とワーク・ライフ・バランス | 石井クンツ昌子<br>（お茶の水女子大学大学院教授） |
| | | 第２回 | 6/22 | 子育てをしながらキャリアを積んで輝く生き方 | 鈴木蘭美（エーザイ株式会社執行委員） |
| | | 第３回 | 9/10 | なりたい自分のゴールを目指して | 坂本眞理子（就業支援キャリアカウンセラー） |
| | | 第４回 | 11/14 | DVってなあ～に<br>～大切な人を守るコミュニケーション～ | 田村伴子（東京都配偶者暴力対策ネットワーク会議委員） |
| | | 第５回 | 2/22 | 女性の編集で新しい風 | 鈴木　忍（月間「俳句」編集長） |
| | | 第６回 | 3/22 | いきいきと美しく老いる | 松本侑壬子（映画評論家） |
| 平成26年度（2014） | プラスワンセミナー | 第１回 | 6/28 | ～男女平等、ワーク・ライフ・バランス、人権シリーズ～<br>男女双方の視点から「災害時の助け合い　～つらい思いをしたくない、させたくない～」 | 丹羽雅代（東日本大震災女性支援ネットワーク世話人） |
| | | 第２回 | 9/12 | なぜ意思決定の場における男女平等が求められるのか？<br>～日本と世界、現状と課題～ | 衛藤幹子（法政大学法学部教授） |
| | | 第３回 | 11/21 | 身近な人からの性暴力とDV　～被害の実態と支援～ | 高橋久美子（シェルターけやき代表） |
| | | 第４回 | 12/12 | 女性の人権としてのリプロダクティブ・ヘルス／ライツ | 大橋由香子（編集者、ライター） |
| | | 第５回 | 2/13 | 職場の女性差別　セクハラ、パワハラ、マタハラの実態 | 南部美智代（連合副事務局長） |
| | | 第６回 | 3/28 | 学校における性の平等教育　現状と課題 | 鶴田敦子（日本家庭科教育学会前会長） |
| 平成27年度（2015） | プラスワンセミナー | 第１回 | 5/30 | ～男女平等、ワーク・ライフ・バランス、人権シリーズ～<br>家庭生活と社会活動の調和　～マタハラの現状と課題～ | 宮下浩子（マタニティハラスメント対策ネットワーク運営メンバー） |
| | | 第２回 | 7/3 | 家庭の男女共同参画　～スウェーデン、フランス、日本、アメリカの比較から～ | 舩橋惠子（静岡大学名誉教授） |
| | | 第３回 | 9/26 | 人生の逆境にも笑顔を絶やさず働き続けるとは | 浜口千代子（ひまわり会副理事長） |
| | | 第４回 | 12/11 | 日本の男女平等法制を学ぶ<br>～文京区男女平等参画推進条例との関係から～ | 松島雪江（日本大学法学部准教授） |
| | | 第５回 | 2/6 | 女性の健康　～スポーツを通して考える～ | 石田良恵（女子美術大学名誉教授） |
| | | 第６回 | 3/8 | 働く女性の貧困 | 小林美希（労働経済ジャーナリスト） |

## 区政を知る懇談会

| 年度 | 月日 | 内容 | 講師 |
|---|---|---|---|
| 平成５年度（1993） | 12/10 | 第１回「女性行政について」 | 根岸創造（文京区厚生部女性青少年課長） |
| | 2/8 | 第２回「国民年金について」 | 宮脇友子（文京区厚生部国民年金課係長） |
| 平成６年度（1994） | 7/15 | 第３回「国民健康保険について －現状・将来展望」 | 平浜正義（文京区厚生部国民健康保険課長） |
| | 2/23 | 第４回「文京区の福祉について」<br>高齢者福祉行政と施設の現状等について | 本多潤二（文京区福祉部高齢者施設計画担当課長） |
| 平成７年度（1995） | 10/23 | 10 周年記念事業と共催<br>第５回「在宅福祉について」 | 坂　光邦（文京区福祉部高齢者福祉課長） |
| | 2/6 | 10 周年記念事業と共催<br>第６回「文京区都市マスタープランについて」 | 小松壽博（文京区都市計画部計画調整課長） |
| 平成８年度（1996） | 12/13 | 文京区防災センター　わたしたちの街の震災対策は、どうなっているのでしょうか | 瀧　康弘（文京区総務部防災課長） |
| 平成９年度（1997） | 6/30 | ～私たちの街の震災対策を学びましょう～<br>東京都水道局水運用センター及び文京区防災用備蓄倉庫（真砂小学校内）他見学 | 佐藤敬一（東京都水道局）<br>瀧　康弘（文京区総務部防災課長） |
| | 10/31 | 文京区の公園行政について | 桜田通雄（文京区土木部公園緑地課長） |
| | 2/17 | 介護保険法のあらまし | 斎藤啓子（文京区福祉部高齢者福祉課長） |
| 平成 10 年度（1998） | 6/30 | 情報公開制度のあらまし | 進藤英雄（文京区企画部広報課長） |
| | 11/13 | 保健所の食品衛生の仕事と家庭での食中毒の予防 | 兼子矩尚（文京区小石川保健所食品衛生主査） |
| | 2/8 | 特別区制度改革の現状と清掃事業の区移管を中心として | 徳田　隆（文京区企画部制度改革担当課長）<br>岡崎義隆（文京区区民部リサイクル推進担当課長） |
| 平成 11 年度（1999） | 7/22 | 女性問題について区長と語る | 煙山　力（文京区長） |
| | 11/9 | 女性問題について議員と語る | 文京区議会議員 12 名 |
| | 2/23 | 間近にせまった特別区制度改革！<br>～ごみ収集事業の区移管を中心に～ | 徳田　隆<br>（文京区資源環境部リサイクル・清掃対策室長） |
| 平成 12 年度（2000） | 7/17 | 女性センターで区長と語る<br>～男女でつくる文京区政について～ | 煙山　力（文京区長） |
| | 1/25 | 女性問題について議員と語る | 文京区議会議員 10 名 |
| 平成 13 年度（2001） | 7/5 | 女性センターで区長と語る<br>～男女でつくる文京区政について～ | 煙山　力（文京区長） |
| | 1/30 | 男女平等参画社会について議員と語る | 文京区議会議員 12 名 |
| 平成 14 年度（2002） | 6/20 | 対談「男女平等センターの新たな出発」 | 煙山　力（文京区長）<br>大川米子（文京区女性団体連絡会会長） |
| 平成 15 年度（2003） | 6/20 | 区長と語る「男女でつくる文京区政について」 | 煙山　力（文京区長） |
| | 2/9 | 区民憲章ってなぁーに | 久住智治（文京区企画政策部新公共経営担当課長） |
| 平成 16 年度（2004） | 8/5 | 区長と語りあってみませんか？<br>「女性が生き生きと暮らす社会をつくるために文京区として目指すものは」 | 煙山　力（文京区長） |
| | 12/17 | 文京区の女性管理職と語る | 斎藤啓子（文京区介護保険部長）<br>本多由紀子（文京区国保年金課長）<br>佐藤正子（文京区教育委員会学務課長） |

| 年度 | 月日 | 内容 | 講師 |
|---|---|---|---|
| 平成 17 年度（2005） | 7/15 | 今、文京区の防災ってどーなってるの？ | 文京区防災安全課 |
| | 8/23 | 親の知らない子の悩み　～学校現場から～ | 本間憲男（文京区立湯島小学校校長） |
| 平成 18 年度（2006） | 7/7 | どーなるの？　介護保険 | 斎藤啓子（文京区介護保険部長） |
| | 2/26 | 生活習慣病について | 佐藤寿志子<br>（文京区本郷保健サービスセンター所長） |
| 平成 19 年度（2007） | 2/9 | 女性区議が語る | 文京区議会女性議員 11 名<br>文京区長<br>文京区議会副議長<br>東京都議会議員 |
| | 3/19 | 後期高齢者医療制度について | 樋口　桂（文京区介護保険部国保年金課長） |
| 平成 20 年度（2008） | 7/5 | 男女平等について男性区議おおいに語る | 文京区議会男性議員 18 名<br>文京区長 |
| | 2/9 | あしたのエコでは遅すぎる | 酒向幸江<br>（文京区資源環境部環境対策課環境担当主査） |
| 平成 21 年度（2009） | 5/28 | 区長と語る　～男女平等について～ | 成澤廣修（文京区長） |
| | 12/2 | 廃棄物埋立処分場見学会（新海面処分場） | 都の視察船「新東京丸」乗船 |
| 平成 22 年度（2010） | 10/16 | 女性管理職は語る | 上野晶子（文京区総務部副参事・文京アカデミー派遣）<br>小池陽子（文京区男女協働・子ども家庭支援センター担当課長）<br>鈴木裕佳（文京区教育委員会教育改革担当課長）<br>須藤直子（文京区契約管財課長）<br>高橋秀代（文京区介護保険課長） |
| | 1/27 | 文京区の介護保険制度の現状と今後は・・・ | 高橋秀代（文京区介護保険課長） |
| 平成 23 年度（2011） | 6/23 | いざというときに！　みんなで学ぶ防災対策<br>～災害時の対応について～ | 松永直樹（文京区防災課長） |
| | 9/6 | 新人区議は語る | 文京区議会議員８名 |
| 平成 24 年度（2012） | 5/24 | 新たになった介護保険 | 大野貴史（文京区介護保険課長） |
| | 1/31 | 乳がん・子宮がん検診のすすめ | 志賀美知代（文京区健康推進課長） |
| 平成 25 年度（2013） | 9/27 | 今知りたい…待機児童の実態と対策 | 新名幸男（文京区保育課長） |
| | 1/29 | 文京区男女平等参画推進条例・・・始動 | 鈴木秀洋（文京区男女協働・子ども家庭支援センター担当課長） |
| 平成 26 年度（2014） | 9/30 | 今知りたい…高齢者あんしん相談センターについて | 鈴木裕佳（文京区高齢福祉課長） |
| | 2/6 | 今知りたい…危機管理課の仕事について | 土田ひろみ（文京区危機管理課長） |
| 平成 27 年度（2015） | 11/6 | 今知りたい…マイナンバー制度について | 井内雅妃（文京区政策研究担当課長） |

## こどもまつり・子どもフェスティバル・ファミリーフェスティバル・ワクワクこどもフェスタ

| | 年度 | 月日 | 内容 | 講師 |
|---|---|---|---|---|
| こどもまつり | 平成５年度<br>（1993） | 5/5 | アニメ<br>民謡　ひまわり子ども民謡会 | 国立音楽大学生２名 |
| | 平成６年度<br>（1994） | 5/5 | 日本舞踊<br>満田さんと遊ぼう（ゲームと体操）<br>後藤綾子先生を囲んで | 日本舞踊普及会<br>満田直子<br>元講談社児童相談員 |
| | 平成７年度<br>（1995） | 5/13 | ヴァイオリン演奏<br>・童謡　・お話　・切り絵など | 演奏　まどかまる子 |
| | 平成８年度<br>（1996） | 5/6 | クラリネットのふしぎな音楽会<br>・作って遊んで食べましょう　・お茶会など | 演奏　橋爪恵一 |
| 子どもフェスティバル | 平成９年度<br>（1997） | 5/5 | 子どものための音楽会<br>・ミニ四駆　・作って遊ぼう　・らくがきコーナー　・お茶席等 | 演奏　久野恵子、今井千恵子 |
| | 平成 10 年度<br>（1998） | 5/5 | マンガで遊ぼう<br>・ポップアップペーパークラフト　・ペンシルバルーン　・お茶席等 | 漫画家　いがらしゆみこと仲間たち |
| | 平成 11 年度<br>（1999） | 5/5 | リズムを感じて歌って遊ぼう<br>・エイサー（沖縄）　・中野七頭舞（岩手）<br>・どんどこ会（汐見小児童）　・カーリング　・折り紙<br>・ペンシルバルーン　・ジェンダーチェック　・お茶席等 | 指導　星野宣子 |
| | 平成 12 年度<br>（2000） | 5/5 | 親子コンサート（フルート・ピアノ・ヴァイオリン）<br>・リズム体操　・ビデオ＆トーク（ワイワイガヤガヤおしゃべりコーナー）<br>・絵手紙　・折り紙　・ペンシルバルーン　・ジェンダーチェック<br>・お茶席等 | 演奏　野田順子　他 |
| | 平成 13 年度<br>（2001） | 5/6 | ファミリーで楽しいひとときを<br>・パネルシアター（お話・歌）　・おはなしの世界<br>・読み聞かせ（区立図書館の協力）　・折り紙　・花遊び<br>・ペンシルバルーン　・ジェンダーチェック　・カーリング<br>・あかちゃんリズム体操 | パネルシアターさんた |
| | 平成 14 年度<br>（2002） | 5/6 | ファミリーで楽しいひとときを　リズムで遊ぼう<br>・遊びの広場　・折り紙　・せっけんで遊ぶ　・ファミリーでお茶を<br>・ファミリーでジャム作り　・ジェンダーチェック<br>・あかちゃんリズム体操 | 青山弘昭　他（TO-DO） |
| ファミリーフェスティバル | 平成 15 年度<br>（2003） | 8/2 | 家族で楽しむ夏休み<br>・親子で手品 | 黒澤昭夫　他<br>（文京区マジック友の会会員） |
| | 平成 16 年度<br>（2004） | 8/7 | 家族で過ごすシネマ鑑賞デー（16mm 映画３本上映）<br>「ムーミン消えないおばけ」<br>「イーハトーブの赤い屋根」<br>「自転車こどもたちで試してみる（北海道一周自転車旅行）」 | |
| | 平成 17 年度<br>（2005） | 7/9 | 親子・家族で楽しむ大江戸ダンス・どんどこ踊り | 指ヶ谷小学校他の児童<br>汐見小学校の児童 |
| | 平成 18 年度<br>（2006） | 7/29 | ファミリーフェスティバル　－親子・家族で楽しむ－<br>・妖精たちの踊り　・親子ストレッチ　・手品もすごいゾ<br>・動くゴジラが作れるヨ | グレース・シェリー新体操クラブ<br>音羽マジッククラブ<br>折り紙教室（向日葵） |
| ワクワクこどもフェスタ | 平成 19 年度<br>（2007） | 7/28 | ～親子で楽しい夏休み～<br>・南中ソーラン、よさこいソーラン　・み～んなでボクササイズ<br>・親子でコーラス　・作ってあそぼ！ | けやきッズ<br>長谷川義賢（スポーツインストラクター）<br>誠之小学校 PTA コーラス<br>文京エコライフ緑の会 |
| | 平成 20 年度<br>（2008） | 7/26 | ～親子で楽しい夏休み～<br>・金管五重奏　・アニメ吹き替えライブ<br>・お笑いにほん語塾　・コーラス　・手作りコーナー | SONIIK プラス<br>キスチョコ＝ choco<br>尚美学園声優学科有志<br>誠之小学校合唱団・PTA コーラス部 |
| | 平成 21 年度<br>（2009） | 7/25 | ～キャンプ・ネポスキャラバンがやってくる～<br>親子で楽しめる参加型のショー<br>・創造の絵本　・水きり絵<br>・手作りコーナー（ハンカチタオルでつくるあひるの親子） | キャンプ・ネポス<br>小川政子 |
| | 平成 22 年度<br>（2010） | 7/24 | ～親子で楽しい夏休み～<br>・こどもフラ　・なつかしあそび（ベーゴマ、けん玉、お手玉、おはじき）<br>・ピーポくんがきます　・ピエロのペンシルバルーン | 本富士警察署<br>井田幸子（ケイキ・フラ） |
| | 平成 23 年度<br>（2011） | 7/23 | ～親子で楽しい夏休み～<br>・こどもフラ　・コンサート | 井田幸子（ケイキ・フラ）<br>フレーベル少年合唱団 |

## センターシネマ・DVD鑑賞＆懇談会

| | 年度 | 月日 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 婦人センターシネマ | 平成３年度<br>（1991） | 3/18 | 「ドライビング・ミスデイジー」 |
| | 平成４年度<br>（1992） | 6/29<br>2/20・22 | 「遠い夜明け」<br>「いまを生きる」 |
| | 平成５年度<br>（1993） | 6/29・30<br>3/18・19 | 「芙蓉鎮」<br>「乳泉村の子」 |
| | 平成６年度<br>（1994） | 7/1・2<br>2/25 | 「招かれざる客」<br>「道」10 周年記念事業と共催 |
| | 平成７年度<br>（1995） | 8/4・5<br>12/8･9<br>3/1・2 | 「黒い雨」<br>映画「戦争と青春」と講演「命と平和の尊さを」（早乙女勝元）（12/8 のみ）<br>「風と共に去りぬ」３回上映 10 周年記念事業と共催 |
| | 平成８年度<br>（1996） | 7/19・20<br>2/21・22 | 「若草物語」２回上映<br>「レベッカ」２回上映 |
| 女性センターシネマ | 平成９年度<br>（1997） | 7/11・12<br>2/13・14 | 「四万十川」<br>「コルチャック先生」 |
| | 平成 10 年度<br>（1998） | 7/17・18<br>2/25・26 | 「微笑を抱きしめて」（文京区女性団体連絡会 10 周年記念事業）<br>「リバー・ランズ・スルー・イット」 |
| | 平成 11 年度<br>（1999） | 6/18･19 | 「わが愛の道」 |
| | 平成 12 年度<br>（2000） | 6/7 | 「魔女の宅急便」<br>「わが心の銀河鉄道　宮澤賢治物語」 |
| | 平成 13 年度<br>（2001） | 2/2 | 「鉄道員（ぽっぽや）」 |
| 男女平等センターシネマ | 平成 14 年度<br>（2002） | 8/3 | 「友情」<br>～白血病の少女とクラスメートの友情物語～ |
| | 平成 15 年度<br>（2003） | 8/2 | 「絵の中のぼくの村」<br>第 46 回ベルリン国際映画祭銀熊賞受賞作品 |
| DVD鑑賞＆懇談会 | 平成 23 年度<br>（2011） | 10/5 | 「夾竹桃の夏」 |
| | 平成 24 年度<br>（2012） | 9/21 | 「スタンドアップ」 |
| | 平成 25 年度<br>（2013） | 9/18 | 「ウェイトレス　～おいしい人生のつくりかた～」 |
| | 平成 26 年度<br>（2014） | 11/14 | 「森の中の淑女たち」 |

## 女性センターコンサート・男女平等センターコンサート

| | 年度 | 月日 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 女性センターコンサート | 平成 10 年度<br>（1998） | 3/20 | シビック・オペラシリーズの主役による「アフタヌーン・コンサートへのお誘い」<br>出演：山縣みゆき、長　祐二、小堀能生 |
| | 平成 11 年度<br>（1999） | 2/5 | 「マンドリンアンサンブル」<br>演奏：片岡道子　他 11 名 |
| | 平成 12 年度<br>（2000） | 2/17 | 「心にしみる津軽三味線」<br>演奏：佐藤通弘 |
| | 平成 13 年度<br>（2001） | 7/19 | 「夏の夜のスタンダードジャズコンサート」<br>演奏：枡山りょう＆スティブル・メイツ |
| 男女平等センターコンサート | 平成 14 年度<br>（2002） | 2/22 | 「雅楽のつどい」<br>演奏：小野雅楽会 |
| | 平成 15 年度<br>（2003） | 2/28 | 「日本の心を歌う」<br>歌：斉藤陽子　伴奏：米倉邦子 |

# 利用者懇談会

| 年度 | 月日 | 内容 | |
|---|---|---|---|
| 昭和 62 年度<br>（1987） | 11/26<br>3/30 | ☆婦人センター運営協議会宮田愛子会長より文京区婦人団体連絡会設立について説明、承認される<br>・センターの使い勝手・事業等への提案・要望について懇談 | |
| 昭和 63 年度<br>（1988） | 5/27<br>3/25 | ☆運営協議会が総務・文化・広報の３部制となる<br>☆文京区婦人団体連絡会設立準備会発足（12/13 設立）<br>・センターまつり実行委員への参加呼びかけ | |
| 平成元年度<br>（1989） | 6/12<br>3/5 | ・センターの使い勝手・事業等への提案・要望について懇談 | |
| 平成２年度<br>（1990） | 7/4<br>3/19 | ・センターまつり実行委員への参加呼びかけ<br>・センターの使い勝手・事業等への提案・要望について懇談 | 夜間<br>（3/19） |
| 平成３年度<br>（1991） | 5/29<br>11/20<br>3/9 | ☆文京区女性団体連絡会　女性センター自主運営開始<br>・センターまつり実行委員への参加呼びかけ<br>・センターの使い勝手・事業等への提案・要望について懇談 | 夜間<br>（11/20） |
| 平成４年度<br>（1992） | 6/4<br>11/25<br>3/17 | ・センターまつり実行委員への参加呼びかけ<br>・センターの使い勝手・事業等への提案・要望について懇談 | |
| 平成５年度<br>（1993） | 5/27<br>7/8<br>10/29<br>3/10 | ・センターまつり実行委員への参加呼びかけ<br>・センターの使い勝手・事業等への提案・要望について懇談<br>・和室・実習室の利用団体と懇談 | 夜間<br>（3/10） |
| 平成６年度<br>（1994） | 5/25<br>10/21<br>3/10 | ・センターまつり実行委員への参加呼びかけ<br>・センターの使い勝手・事業等への提案・要望について懇談 | 夜間<br>（10/21） |
| 平成７年度<br>（1995） | 5/22<br>10/20<br>3/12 | ・今年度の女性センターの運営について<br>・「センターまつり」のビデオ映写<br>・センターの運営・事業につき懇談 | |
| 平成８年度<br>（1996） | 5/28<br>10/18<br>3/19 | ・女性センターまつりについて<br>・センターの使い勝手・事業等への提案・要望について懇談<br>・事業系ゴミの有料化について | 夜間<br>（10/18） |
| 平成９年度<br>（1997） | 5/23<br>10/16<br>3/17 | ・女性センターまつりについて<br>・センターの使い勝手・事業等への提案・要望について懇談 | 夜間<br>（10/16） |
| 平成 10 年度<br>（1998） | 5/28<br>10/16<br>3/17 | ・平成１０年度事業について<br>・女性センターまつりについて<br>・センターの使い勝手・事業等への提案・要望について懇談 | 夜間<br>（10/16） |
| 平成 11 年度<br>（1999） | 5/27<br>10/19<br>3/16 | ・女性センターまつりについて<br>・センターの使い勝手・事業等への提案・要望について懇談<br>・平成 11 年度女性センター事業について | 夜間<br>（10/19） |
| 平成 12 年度<br>（2000） | 6/2<br>10/19<br>3/6 | ・平成 12 年度事業について<br>・女性センターまつりについて<br>・センターの使い勝手・事業等への提案・要望について懇談 | 夜間<br>（10/19） |
| 平成 13 年度<br>（2001） | 6/1<br>10/18<br>3/5 | ・平成 13 年度事業について<br>・センターの使い勝手・事業等への提案・要望について懇談<br>・女性センターの名称・設置目的及び使用料の変更について | 夜間<br>（10/18） |
| 平成 14 年度<br>（2002） | 6/11<br>10/31<br>3/18 | ・センターの使い勝手・事業等への提案・要望について懇談<br>・ビデオ上映「21 世紀はみんなが主役ー男女共同参画社会基本法のあらまし」<br>・ビデオ上映「男と女のイイ関係」 | 夜間<br>（10/31） |

| 年度 | 月日 | 内容 | |
|---|---|---|---|
| 平成 15 年度<br>（2003） | 6/19<br>10/24 | ・センターの使い勝手・事業等への提案・要望について懇談<br>・ビデオ上映「現代家族考」<br>・ビデオ上映「ACTION ！　東京の男女平等参画を進めよう」<br>・センターまつり企画運営委員募集について | 夜間<br>（10/24） |
| 平成 16 年度<br>（2004） | 6/30<br>10/6 | ・ビデオ上映「いま男たちが変わり始める」<br>・センターまつり企画運営委員募集について<br>・センターの使い勝手・事業等への提案・要望について懇談<br>・区政を知る懇談会「区長と語る」において区長より聞きたいテーマについて | 夜間<br>（10/6） |
| 平成 17 年度<br>（2005） | 6/17<br>10/6 | ・ビデオ上映「夫育て　～あなたはどんな風にいきたいですか？～」<br>・「指定管理者制度」について<br>・センターの使い勝手・事業等への提案・要望について懇談<br>・男女平等センター開設 20 周年事業について<br>・ビデオ上映「見えていますか？　家庭の中の男女平等」<br>・男女平等センター開設 20 周年事業の反省について | 夜間<br>（10/6） |
| 平成 18 年度<br>（2006） | 5/13<br>10/3<br>3/16 | ・ビデオ上映<br>・ビデオ上映「ジェンダーってなに？」～自分らしさの発見～<br>・ビデオ上映「元気に再チャレンジ！」～キラキラしている女性たち～ | 午後<br>夜間<br>午後 |
| 平成 19 年度<br>（2007） | 7/7<br>10/26<br>3/7 | ・ビデオ上映「ワーク・ライフ・バランス」<br>・ビデオ上映「働き方を変えて、暮らし方を変えよう」<br>・ビデオ上映「スタートライン」 | 午後<br>夜間<br>午後 |
| 平成 20 年度<br>（2008） | 6/16<br>10/31<br>3/5 | ・ビデオ上映「ワーク・ライフ・バランスを知っていますか？」働くオトコたちの声<br>・ビデオ上映「ワーク・ライフ・バランス」働きがいのある職場と生き生きした暮らし<br>・ビデオ上映「根絶‼　夫からの暴力」 | 午前<br>夜間<br>午後 |
| 平成 21 年度<br>（2009） | 6/5<br>10/15<br>2/9 | ・ビデオ上映「配偶者からの暴力の根絶をめざして」<br>・ビデオ上映「ずっと一緒にいたいから「あなたと私とデートＤＶ」」<br>・ビデオ上映「子どもが危ない！　～“メディア漬け”が子どもを蝕む～」 | 夜間<br>午前<br>午後 |
| 平成 22 年度<br>（2010） | 6/25<br>10/13<br>2/10 | ・ビデオ上映「働き方を変えて、暮らし方を変えよう」<br>・ＤＶＤ上映「ワーク・ライフ・バランスを知っていますか？」<br>・ＤＶＤ上映「彼女たちの挑戦　～女性たちの多様な生き方～」 | 午前<br>夜間<br>午後 |
| 平成 23 年度<br>（2011） | 6/15<br>10/21<br>2/13 | ・ビデオ上映「女性が太陽になるとき　～男女共同参画を進めるために～」<br>・ビデオ上映「もっと素敵にハーモニー」<br>・ビデオ上映「東京の男女平等参画を進めよう！」<br>・３月 12 日～ 31 日利用者アンケート | 夜間<br>午前<br>午後 |
| 平成 24 年度<br>（2012） | 6/18<br>10/3<br>2/12 | ・ＤＶＤ上映「あなたの彼氏彼女は大丈夫？」<br>・ＤＶＤ上映「子供が消える日」<br>・ビデオ上映「気づくことがはじめの一歩」<br>・３月１日～ 31 日利用者アンケート | 夜間<br>午前<br>午後 |
| 平成 25 年度<br>（2013） | 6/6<br>11/8<br>2/3 | ・インターネット予約システムについて説明<br>・ＤＶＤ上映「人と人とのよりよい関係をつくるために　～交際相手とのすてきな関係をつくっていくには～」<br>・ビデオ上映「今、男たちが変わり始める」<br>・２月１日～ 28 日利用者アンケート | 夜間<br>午前<br>午後 |
| 平成 26 年度<br>（2014） | 6/17<br>11/6<br>2/4 | ・幻灯上映「兄の結婚」<br>・まつり写真上映（パワーポイント）「第 29 回男女平等センターまつり報告」<br>・ＤＶＤ上映「ハイチの女性・女児に対する暴力・内なる敵」<br>・２月１日～ 28 日利用者アンケート | 夜間<br>午前<br>午後 |
| 平成 27 年度<br>（2015） | 6/11<br>11/10 | ・パワーポイント上映「男女平等センターの紹介」<br>・ＤＶＤ上映「ＤＶに関する内容」<br>・活動報告会の開催について提案<br>・２月１日～ 29 日利用者アンケート | 夜間<br>午後 |

## 未来の女性科学者育成事業（女子中学生のための科学への招待席）

| 年度 | 月日 | 内容 | 講師 |
|---|---|---|---|
| 平成 24 年度<br>（2012） | 7/28 | 「もう一度、理科実験しませんか？」<br>・水は丸くなる<br>・野菜や果物の中にあるもの | 森義仁（お茶の水女子大学理学部准教授）<br>お茶の水女子大学環境科学倶楽部 |
| | 8/25 | 「理科を学んだ先輩のお話を聞いたり、交流会をしませんか？」 | 森義仁（お茶の水女子大学理学部准教授）<br>お茶の水女子大学 OG |
| 平成 25 年度<br>（2013） | 7/20 | ・CD で虹を作る<br>・うがい薬の色をビタミン C で消す<br>・ゆかりの紫液の変色 | 森義仁（お茶の水女子大学理学部准教授）<br>お茶の水女子大学環境科学倶楽部 |
| | 12/22 | ・簡単な装置で氷の結晶を作る<br>・樟脳で化学渋滞を作る<br>・手回し発電機で発光ダイオードを点灯させる | 森義仁（お茶の水女子大学理学部准教授）<br>お茶の水女子大学環境科学倶楽部 |
| 平成 26 年度<br>（2014） | 7/20 | 見えにくいエネルギーの可視化<br>・樟脳ボートの実験<br>・塩水振動<br>・墨流しの実験 | 森義仁（お茶の水女子大学理学部教授）<br>お茶の水女子大学環境科学倶楽部 |
| | 12/23 | ・樟脳ボートの交通渋滞<br>・化学反応による色の繰り返し変化 | 森義仁（お茶の水女子大学理学部教授）<br>お茶の水女子大学環境科学倶楽部 |
| 平成 27 年度<br>（2015） | 7/25 | ・手作り分光器で光を分ける<br>・シャボン膜でストローを飛ばす<br>・樟脳でプラ板を動かす<br>・ビーズで分子模型 | 森義仁（お茶の水女子大学理学部教授）<br>お茶の水女子大学環境科学倶楽部 |
| | 12/21 | ・シャボン膜でストローを飛ばす<br>・樟脳でプラ板を動かす<br>・ビーズで分子模型 | 森義仁（お茶の水女子大学理学部教授）<br>お茶の水女子大学環境科学倶楽部 |
| 平成 28 年度<br>（2016） | 7/24 | ・ピンホールカメラを作ろう<br>・アラビア語を知ろう<br>・ビーズで分子模型 | 森義仁（お茶の水女子大学理学部教授）<br>お茶の水女子大学環境科学倶楽部 |

## 父と子の料理教室　お父さんと一緒にチャレンジクッキング

| 年度 | 月日 | 内容 | 講師 |
|---|---|---|---|
| 平成 24 年度<br>（2012） | 8/4・5 | ・冷やし中華と杏仁豆腐<br>・ぶっかけソーメンとリンゴ羹 | 赤堀博美（赤堀料理学園校長） |
| 平成 25 年度<br>（2013） | 8/3・4 | ・クリスピーピザ<br>・桃の牛乳寒天 | 滝村雅晴（パパ料理研究家） |
| 平成 26 年度<br>（2014） | 8/2・3 | ・鍋炊きごはんと親子丼<br>・桃の牛乳寒天 | 滝村雅晴（パパ料理研究家） |
| 平成 27 年度<br>（2015） | 8/1・2 | ・タコライス　・ハッシュドポテト<br>・はちみつマリナード | 石井泰乃（料理研究家） |
| 平成 28 年度<br>（2016） | 8/6・7 | ・ひまわりのオープンオムレツ　・タラモサラダ<br>・はちみつマリナード | 石井泰乃（料理研究家） |

## 登録団体企画事業助成

| 年度 | 月日 | 内容 | 講師 |
|---|---|---|---|
| 平成 24 年度<br>（2012） | 2/9 | 女性の経験を「地域の防災・減災・復興」に活かす<br>～男女共同参画とポスト 3.11 社会～<br>北京 JAC 文京 | 堂本暁子（元千葉県知事） |
| 平成 25 年度<br>（2013） | 9/7 | ムーミンとノラの国の素顔<br>～フィンランドとノルウェーの視察研修報告～<br>G.Planning 文京 | 木村民子（和洋女子大学教員） |
| 平成 26 年度<br>（2014） | 2/8 | 真に「女性が輝く社会」のために<br>～私たちが求める男女平等～<br>Ｉ女性会議文京支部 | 杉浦ひとみ（弁護士） |
| 平成 27 年度<br>（2015） | 11/14 | 北京女性会議から 20 年<br>～日本の男女平等を進めるために～ | 橋本ヒロ子（北京 JAC 文京）<br>山下泰子（北京 JAC 文京） |

## 配偶者暴力の防止等啓発事業

| 年度 | 月日 | 内容 | 講師 |
|---|---|---|---|
| 平成 27 年度<br>（2015） | 12/4 | DV 加害者の実態について－その対策を考える－ | 沼崎一郎<br>（東北大学大学院文化研究科教授） |

## 登録団体活動報告会

| 年度 | 月日 | 内容 | 参加団体 |
|---|---|---|---|
| 平成 27 年度<br>（2015） | 2/20 | 男女平等参画推進のための団体活動報告と交流 | 男女平等センター登録団体 31 |

## 婦人センターだより・女性センターだより・男女平等センターだよりPARTNER

| 年度 | 月日 | 号 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 昭和61年度<br>（1986） | 3/25 | 創刊号 | ・婦人センターオープン（S61.9.3）<br>・第１回婦人センターまつり　センター開設記念<br>・「文京ゆかりの婦人展」センター開設<br>・婦人参政権40周年記念<br>・第１回婦人講座「平塚らいてうと日本のフェミニズム」 |
| 昭和62年度<br>（1987） | 8/1 | 第2号 | ・新国内行動計画推進会議（5/7）<br>・講演会（6/5）「男女共同参加型社会の形成を目指して」<br>・「きのう　きょう　あしたへ」（文京区内の婦人団体による地域活動の歩み）<br>・「東京都女性海外視察団に参加して」姫野せつ子 |
| | 3/25 | 第3号 | ・第２回婦人センターまつり（9/18・19）<br>・区政40周年記念講演会　山本和代、宮田愛子<br>・文京区婦人行動計画の見直しについて |
| 昭和63年度<br>（1988） | 8/25 | 第4号 | ・婦人週間40周年記念全国会議（5/17）<br>・講演会「わたしたちのあしたへ」<br>・「医療を考える」２回シリーズ |
| | 2/25 | 第5号 | ・第３回利用者懇談会<br>・第３回婦人センターまつり（9/16・17）<br>・文京区女性団体連絡会設立総会（12/13）<br>・婦人講座「家族の変遷に見る女性の歴史」（1月～３月） |
| 平成元年度<br>（1989） | 8/25 | 第6号 | ・婦人週間記念講演会「女を変える　男を変える」（4/14）<br>・婦人講座「国際社会と私」<br>・婦人講座「おんなの昭和史」（3/1）<br>・利用者懇談会Ｑ＆Ａ |
| | 2/25 | 第7号 | ・第４回婦人センターまつり（9/8・9）<br>・女性講演会「歴史にみる女性の生き方」（10/17）<br>・女性講座「市川房枝」<br>・女性センターの自主管理運営について<br>・「マチスモ（男性優位社会）の克服を目ざす　キューバ・ブラジルの女性たち」田中和子 |
| 平成２年度<br>（1990） | 8/25 | 第8号 | ・第42回婦人週間記念講演会「これからの女と男のやさしい関係」（4/10）<br>・文京区に関する世論調査の結果から（平成元年11月）<br>・女性講座<br>・赤十字救急法講習会　全４回 |
| | 2/25 | 第9号 | ・第５回婦人センターまつり（9/21・22）<br>・女性講演会「平和なる命の日々」<br>・女性講座「女性の権利は」全４回<br>・女性センターの自主管理運営概要決まる |
| 平成３年度<br>（1991） | 8/25 | 第10号 | ☆「婦人センターだより」を「女性センターだより」と改称<br>・あいさつ　遠藤正則文京区長　宮田愛子文京区女性団体連絡会会長<br>・第43回婦人週間記念講演会「私のシネマライフ」<br>・先駆者たちの肖像展（5/16～20）<br>・女性セミナー「主婦からの自立」全５回（5/24～） |
| | 2/25 | 第11号 | ・第６回女性センターまつり（9/6・7）<br>・リサイクル学習会<br>・女性講演会「女が転機を乗り越える時」<br>・全国婦人会館協議会全国大会に参加して<br>・PARTNER創刊 |
| 平成４年度<br>（1992） | 8/25 | 第12号 | ・こどもまつり（5/5）<br>・講演会「私の演じた女の生き方」<br>・女性センター「職場の自己表現トレーニング」 |
| | 2/25 | 第13号 | ・第７回女性センターまつり（9/6・7）<br>・女性講演会「女と男のあした」と音楽のつどい（11/15）<br>・女性セミナー「女性の人権」をめぐって |

| 年度 | 月日 | 号 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 平成５年度<br>（1993） | 8/25 | 第14号 | ・第８回女性センターまつり<br>・学習会「いっしょに考えよう夫婦の法律」<br>・手作りのこどもまつり<br>・成分献血<br>・「心をおくろう」（投稿） |
| | 11/30 | 第15号 | ・第８回女性センターまつり（9/17・18）<br>・輝こうあなたもわたしも　～男女共生社会づくりをするために～ |
| | 2/25 | 第16号 | ・区政を知る懇談会「女性行政について」「国民年金について」<br>・女性センター開館10周年に向けて |
| 平成６年度<br>（1994） | 8/25 | 第17号 | ・特集「国際家族年を迎えて」（4/21）<br>・講演会「変わる家族像」（6/11）<br>・大野登美子文京区女性団体連絡会新会長 挨拶<br>・こどもまつり（5/5） |
| | 11/25 | 第18号 | ・講演会「新しい国際社会と家族の課題　～女性の役割」<br>・第９回女性センターまつり（9/17・18）「家族ってなあに　～私から地球へ」 |
| | 3/30 | 第19号 | ・「女性センター設立10周年によせて」遠藤正則文京区長<br>・講演会「北京世界女性会議にむけて」<br>・区政を知る懇談会「文京区の福祉について」<br>・海外派遣者「女性の目で見た世界」 |
| 平成７年度<br>（1995） | 7/31 | 第20号 | ・文京区女性センター開設10周年を迎えて　大野登美子文京区女性団体連絡会会長<br>・10周年記念講演「男女共生参画社会と北京会議」 |
| | 11/27 | 第21号 | ・第10回女性センターまつり「大切なのは今　私の一歩が風を変える」<br>・男女共生セミナー「上手に自己表現するには」 |
| | 3/30 | 第22号 | ・シネマ「風と共に去りぬ」上映<br>・区政を知る懇談会「文京区都市マスタープランについて」 |
| 平成８年度<br>（1996） | 8/15 | 第23号 | ・プラスワンセミナー　ビデオ＆トーク「婦選は鍵なり」<br>・ファミリーフェスティバル<br>・ワールドスポット「フランス編」 |
| | 11/29 | 第24号 | ・第11回女性センターまつり「私が主役 女も男もキラキラと」<br>・シネマ「女人、四十。」<br>・プラスワンセミナー「どうなっているの日本の政治」<br>・文京区女性政策コーナー「講演と海外派遣者報告会」 |
| | 3/28 | 第25号 | ・講演会「女と男のいい関係」渥美雅子<br>・プラスワンセミナー「女性と政治参加」<br>・文京区議会女性議員との懇談会<br>・文京区女性政策コーナー「婦人週間・講演と映画の会」 |
| 平成９年度<br>（1997） | 7/31 | 第26号 | ・プラスワンセミナー「ジェンダーってな～に？　社会習慣の中の性差別を考えてみませんか？」<br>・区政を知る懇談会「私たちの街の震災対策」<br>・リサイクル見学会「缶、ペットボトル処理工場他」 |
| | 11/29 | 第27号 | ・第12回女性センターまつり「女と男 ともにめざす新しい道」<br>・プラスワンナイトセミナー「バングラデシュの女性たち」「アメリカ合衆国の女性たち」<br>・講演会「高齢社会と家族、社会」向井承子<br>・シネマ「マイライフ」<br>・文京区女性政策コーナー「講演と海外派遣報告会」 |
| | 3/30 | 第28号 | ・プラスワンセミナー「女性の参画・エンパワーメント」<br>・プラスワンナイトセミナー「世界の女性たちは今」南アフリカ、ノルウェーの女性たち<br>・区政を知る懇談会「介護保険制度のあらまし」<br>・講演会「講談で語る女と男の役割くずし」宝井琴桜 |
| 平成10年度<br>（1998） | 7/31 | 第29号 | ・プラスワンセミナー「身近な法律･家族法、相続について」「世界の女性たち･インド」<br>・区政を知る懇談会「情報公開をご存知ですか？」<br>・文京区女性政策コーナー「文京区男女共同参画推進会議」の設置 |

| 年度 | 月日 | 号 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 平成10年度<br>（1998） | 11/30 | 第30号 | ・第13回女性センターまつり「女と男、語ろう希望の２１世紀」<br>・講演会「女と男、岡本かの子と一平の不思議な関係」島田燁子<br>・プラスワンナイトセミナー「韓国の女性たち」 |
| | 3/31 | 第31号 | ・プラスワンセミナー「さわやかにライフデザインを！」<br>・区政を知る懇談会「特別区制度の改革は？」 |
| 平成11年度<br>（1999） | 7/31 | 第32号 | ・区政を知る懇談会「煙山 力文京区長を迎えて」<br>・プラスワンセミナー「家族」<br>・明日へともに「男女雇用均等法とは？」「セクシュアルハラスメント」 |
| | 11/30 | 第33号 | ・第14回女性センターまつり<br>・講演会「学ぶ・育てる・創る」石森史郎<br>・「まつりメイン展示」から「生かそう私たちのエンパワーメント」<br>・創作劇「文京の御三家」上演<br>・区政を知る懇談会「女性問題について区議と語る」<br>・プラスワンセミナー「どうなる日本の政治」 |
| | 3/31 | 第34号 | ・プラスワンナイトセミナー「フランスの女性たち」「ブラジルの女性たち」<br>・日本女性会議'99　はままつに参加<br>・講演会「男尊女尊の社会をめざして」三井マリ子<br>・「国際高齢者年と女性たち」<br>・シネマ「ドメスティック・バイオレンス」<br>・コンサート　片岡マンドリン・アンサンブル<br>・文京区女性政策コーナー「女性週間記念講演と映画の会」大日向雅美 |
| 平成12年度<br>（2000） | 8/18 | 第35号 | ・特集「女性2000年会議」ニューヨーク国連本部<br>・21世紀に向けて「男女平等・開発・平和」「児童虐待」について<br>・プラスワンセミナー 世界の女性たちは今「ネパールの女性」<br>・シネマ「わが心の銀河鉄道」<br>・文京区女性政策コーナー「女性行動計画改定」について |
| | 12/7 | 第36号 | ・第15回女性センターまつり「創ろう！　人にやさしい 希望の世紀」<br>・講演会「新しい国際社会と日本の女性」猪口邦子<br>・プラスワンセミナー「どうなる日本の政治」「女性と年金制度」 |
| | 3/31 | 第37号 | ・講演会「女の立場・男の立場」佐藤洋子<br>・区政を知る懇談会「女性問題について区議と語る」<br>・プラスワンセミナー　家族シリーズ　環境シリーズ<br>・プラスワンセミナー「英国の女性たち」「スウェーデンの女性たち」<br>・コンサート「津軽三味線」<br>・ズームアップ「各国の女性進出」 |
| 平成13年度<br>（2001） | 8/31 | 第38号 | ・プラスワンセミナー　政治・経済シリーズ<br>・プラスワンセミナー「スペインの女性たち」<br>・文京区からのお知らせ「文京区男女平等参画推進計画」策定<br>・コンサート「夏の夜のスタンダードジャズコンサート」 |
| | 12/10 | 第39号 | ・第16回女性センターまつり「２１世紀の夢 ともに手を組む 女と男」<br>・講演会「狂言の世界」～女性狂言師として～ |
| | 3/31 | 第40号 | ・講演・シャンソン「今を自分らしく」戸川昌子<br>・区政を知る懇談会「男女平等社会について」議員と語る<br>・プラスワンセミナー「男女共同参画施策と女性センター」「ドメスティックバイオレンスをめぐって」「国連からみた世界の女性」<br>・国際女性デーをご存知ですか？<br>・女性センターが男女平等センターに生まれ変わります<br>・明日へともに「男女共同参画に関する諸外国と日本の基本法則」 |
| 平成14年度<br>（2002） | 9/10 | 第41号 | ☆「女性センターだより」を「男女平等センターだより」と改称<br>・対談「男女平等センターの新たな出発」煙山 力文京区長と大川米子文京区女性団体連絡会会長<br>・プラスワンセミナー「家族法について」<br>・読者投稿欄「男女共同参画とバックラッシュ」<br>・文京区からのお知らせ「男女平等参画社会の実現に向けて　～文京区の取組～」 |

| 年度 | 月日 | 号 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 平成14年度<br>（2002） | 12/25 | 第42号 | ・第17回女性センターまつり「女と男 肩をならべていきいきと」<br>・講演会「新しい女・平塚らいてうからのメッセージ」米田佐代子<br>・プラスワンセミナー「DV防止法から1年」「暴力をやめたい、DVからの脱出」<br>・日本女性会議2002 あおもりに参加 |
| | 3/31 | 第43号 | ・特集 選択的夫婦別姓について<br>・プラスワンセミナー「ハンガリーの女性たち」<br>・コンサート「雅楽」<br>・国際女性デーによせて「アナン国連事務総長のメッセージ」 |
| 平成15年度<br>（2003） | 9/10 | 第44号 | ・区政を知る懇談会「区長と語る、区のチャレンジ支援」<br>・男女共同参画に向けた国の取組 |
| | 1/10 | 第45号 | ・第18回女性センターまつり「平等は新しい風と光の中で」<br>・メイン展示「昭和を生きてきた文京の女性たちからのメッセージ」<br>・講演会「映像が女性で輝く時」高野悦子<br>・プラスワンセミナー「古文書にみる江戸時代の結婚と離婚」「女大学考」「スウェーデンの女性たち」「ミャンマーの女性たち」 |
| | 3/31 | 第46号 | ・プラスワンセミナー　女性と経済シリーズ「女性のキャリアデザイン」他<br>・講演会「歴史を動かした女と男たち」高橋千剱破<br>・国際女性デーによせて<br>・文京区男女平等政策コーナー「事業目標設定・実績評価」<br>・「男女共同参画フォーラム in さいたま」に参加 |
| 平成16年度<br>（2004） | 8/15 | 第47号 | ・2004年シンポジウム国連からのリポート「女性の権利は今」<br>・プラスワンセミナー「ザンビア共和国を識る」<br>・あの町この町みて歩き「北区男女共同参画センター」 |
| | 1/25 | 第48号 | ・第19回女性センターまつり「平等の大地の上に いのち輝け！」<br>・メイン展示「大切ないのち守られていますか？」<br>・プラスワンセミナー「やさしく学ぼう 女性の権利」「知っていますか？　家族法」「ヴェネズエラの女性たち」<br>・日本女性会議2004 まつやまに参加して |
| | 3/31 | 第49号 | ・プラスワンセミナー「なぜ日本社会は男女平等にならないのか？」「ジェンダーのイロハ」<br>・講演会「私が歩んできた道」森まゆみ<br>・国際女性デーによせて<br>・区政を知る懇談会「文京区の女性管理職と語る」<br>・男女平等参画に関する区民意識調査の結果から　シリーズ1 |
| 平成17年度<br>（2005） | 8/25 | 第50号 | ・国際女性の地位協会の「北京＋10」報告会によせて<br>・文京区のNGOフォーラム参加者からの寄稿<br>・区政を知る懇談会「文京区の防災って？」<br>・男女平等参画施策のあゆみ「どこまで変わった？　みんなの意識」<br>・男女平等参画に関する区民意識調査の結果から　シリーズ2 |
| | 1/30 | 第51号 | ・男女平等センター 20周年記念事業<br>・プラスワンセミナー　女性の自立支援シリーズ　世界の女性シリーズ<br>・第20回文京区男女平等センターまつり、他 |
| | 3/30 | 第52号 | ・文京区男女平等センター開設20周年記念講演会<br>「男女平等を目指して20年！」 坂東眞理子<br>・男女平等センターと20年の軌跡<br>・国際女性デーに寄せて<br>・プラスワンセミナー　女性の自立シリーズⅡ<br>・文女連セミナー<br>・男女平等参画に関する区民意識調査の結果から<br>・指定管理者へ |

| 年度 | 月日 | 号 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 平成18年度<br>（2006） | 8/31 | 第53号 | ・文京区男女平等センターはどう変わるのですか？<br>文京区男女協働子育て支援部男女協働・特命担当課課長　上野晶子<br>文京区男女平等センター（文京区女性団体連絡会会長）センター長　大川米子<br>文京区男女平等センター（文京区女性団体連絡会副会長）副センター長　伊藤明子<br>・プラスワンセミナー　世界の女性シリーズⅠ・Ⅱ<br>・区政を知る懇談会　-どーなるの？　介護保険-<br>・ファミリーフェスティバル<br>・文女連コーナー　あの町この町見て歩き<br>・利用者懇談会に参加して<br>・「文京区男女平等参画推進計画」の改定 |
| | 11/30 | 第54号 | ・第21回文京区男女平等センターまつり<br>「輝くあなたがあしたを築く　平等社会へレッツチャレンジ」<br>メインテーマ「女性と人権」<br>講演会「北条政子の生き方」<br>まつり資料コーナー／まつりシネマ／ミニ音楽会／ワインコンサート<br>・プラスワンセミナー　女性と人権Ⅰ・Ⅱ<br>・資料コーナー　新刊図書紹介<br>・日本女性会議2006 しものせき<br>・DV被害者支援カードを作りました |
| | 3/31 | 第55号 | ・国際女性デーによせて<br>・プラスワンセミナー　女性の自立支援シリーズ「ジェンダーから見た日本女性の歴史」「身近なジェンダーに気づく」<br>・区政を知る懇談会<br>・都留市との交流<br>・センターシネマ「無名の人」<br>・資料コーナー　新刊図書紹介<br>・男女雇用機会均等法が変わります<br>・利用者懇談会 |
| 平成19年度<br>（2007） | 8/17 | 第56号 | ・2007男女平等センター事業<br>男女共同参画週間＆文京区女性団体連絡会20周年記念<br>「ベアテの贈りもの」上映＆赤松良子講演<br>・プラスワンセミナー　世界の女性シリーズⅠ・Ⅱ　「日本の女性の仕事・子育てについて」<br>・ワクワクこどもフェスタ<br>・利用者懇談会<br>・DV防止法・児童虐待防止法が改正されました<br>・男女平等センターまつりのご案内 |
| | 12/10 | 第57号 | ・第22回文京区男女平等センターまつり「わたしこそ平和の担い手　平等社会をここから発信！」<br>トーク＆トーク　三代の区長が語る「昔・今・これから」<br>まつりシネマ／ワインコンサート／ミニ音楽会　世界の楽器シリーズ<br>・資料コーナー　本の紹介<br>・プラスワンセミナー　女性の自立シリーズⅠ　女性の人権シリーズⅠ<br>・日本女性会議2007 ひろしま<br>・指定管理者としての評価について<br>・利用者懇談会 |
| | 3/31 | 第58号 | ・「女性区議が語る」<br>①男女平等センターをどのように理解していますか？<br>②男女平等社会をつくるには何が問題ですか？<br>③文京区男女平等参画推進計画についてどう思われますか？<br>・プラスワンセミナー　女性の人権シリーズⅡ　女性の自立シリーズⅡ<br>・国際女性デーに寄せて<br>・区政を知る懇談会「後期高齢者医療制度」について<br>・利用者懇談会（アンケート集計結果）<br>・センターシネマ（トーク＆シネマ）「老親」<br>・資料コーナー<br>・文京区男女協働・特命担当課 |

| 年度 | 月日 | 号 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 平成20年度<br>（2008） | 8/31 | 第59号 | ・2008男女平等センター事業 男女共同参画週間記念<br>「山本コウタロー講演とミニライブ」～ 女（ひと）と男（ひと）のよりよい関係 ～<br>・プラスワンセミナー　世界の女性シリーズⅠ・Ⅱ<br>・区政を知る懇談会「男性区議おおいに語る」<br>・利用者懇談会<br>・ワクワクこどもフェスタ<br>・新任のご挨拶<br>・全国会議に参加して<br>・男女平等センターまつりのご案内 |
| | 12/10 | 第60号 | ・第23回文京区男女平等センターまつり「家庭と仕事　笑顔の生まれる平等社会！」<br>メイン展示「ワーク・ライフ・バランス」<br>基調講演　「篤姫　～わたくしこと一命にかけ～」<br>「センターまつりに参加して」<br>ジャズコンサート♪世界の楽器シリーズ／まつりシネマ／まつり資料コーナー<br>・日本女性会議2008 とやま<br>・プラスワンセミナー<br>・相談室のご案内<br>・書籍紹介 |
| | 3/31 | 第61号 | ・2009男女平等センターコンサート「盲導犬アンディとともに 天野 亨コンサート」<br>・「男女平等参画社会はどこまできたの」<br>・プラスワンセミナー「ワーク・ライフ・バランス」他<br>・国際女性の日に寄せて<br>・区政を知る懇談会「明日のエコでは遅すぎる」<br>・シンポジウム・セミナーに参加して<br>・男女協働・特命担当課<br>・子育てアンケートに関する報告 |
| 平成21年度<br>（2009） | 8/31 | 第62号 | ・2009男女平等センター事業　男女平等参画週間記念<br>「田代美代子　講演とミニライブ」～私の生きて来た道 生きる道～<br>・区政を知る懇談会「区長と語る」<br>・プラスワンセミナー「安藤パパと子育てトーク」「DVとは」<br>・ワクワクこどもフェスタ<br>・「女性と高齢期」<br>・新任のご挨拶<br>・書籍紹介<br>・男女平等センターまつりのご案内 |
| | 12/10 | 第63号 | ・第24回文京区男女平等センターまつり「男女平等　未来に夢を　私の生き方・暮らし方！」<br>メイン展示「男女平等　未来に夢を　これでいいの？　私の生き方・暮らし方！」<br>基調講演「花のいのちはみじかくて」<br>まつり資料コーナー／まつりコンサート／まつりシネマ／来場者アンケート<br>・文京区姉妹都市公式訪問<br>・日本女性会議2009 さかい<br>・プラスワンセミナー<br>・相談室のご案内<br>・本の紹介 |
| | 3/31 | 第64号 | ・男女平等センター講演会「与謝野晶子の生き方とその家族像　～西欧体験を経たのちに～」<br>・世界の男女平等の流れと日本の現状<br>・区政を知る懇談会「廃棄物埋め立て処分場見学会」<br>・プラスワンセミナー「歯周病予防のこつ」<br>・男女平等参画に関する区民意識調査の結果から |

| 年度 | 月日 | 号 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 平成22年度<br>（2010） | 8/31 | 第65号 | ・2010男女平等センター事業　男女共同参画週間記念<br>～女の自立・男の自立～　こうして見つけよう　女と男の「生き方」を！<br>・男女共同参画社会作りに向けての全国会議<br>・プラスワンセミナー「身の回りの平等」「親子でリズム遊び」「子どものアレルギー」<br>・ワクワクこどもフェスタ<br>・相談室のご案内<br>・書籍紹介<br>・男女平等センターまつりのご案内 |
| | 12/15 | 第66号 | ・第25回文京区男女平等センターまつり「あなたとわたし　自立と協働　明日への一歩」<br>メイン展示「男女平等を知ることは明日への一歩」<br>育メントーク「子育てって　楽しいかも」<br>まつりシネマ／ミニ音楽会／まつりコンサート<br>・「女性管理職は語る」<br>・プラスワンセミナー「小さなものに寄せるココロ」「自分の原点！　振り返り」<br>・区からのお知らせ<br>・本の紹介 |
| | 3/31 | 第67号 | ・～男女平等参画社会の実現に向けて～「男女平等参画は子どものときから」<br>・文京区の介護保険制度の現状と今後は<br>・プラスワンセミナー「ジェンダーの視点で拓く「親学」」<br>・国際女性の日に寄せる国連事務総長のメッセージ<br>・区からのお知らせ「改訂された文京区男女平等参画推進計画」 |
| 平成23年度<br>（2011） | 8/31 | 第68号 | ・～「青鞜」創刊100周年記念～「元始、女性は太陽であった」<br>・トーク＆シネマ「ユキエ」と「レオニー」そして私<br>・プラスワンセミナー「一人ひとりがいきいきと　文京区男女平等参画推進計画をよみ解く」「からだとこころで感じる差別」<br>・ワクワクこどもフェスタ<br>・区政を知る懇談会「みんなで学ぶ防災対策」<br>・区からのお知らせ「ワーク・ライフ・バランスに取り組む企業を募集」<br>・男女平等センターまつりのご案内 |
| | 12/20 | 第69号 | ・第26回文京区男女平等センターまつり「男女平等　今こそ「絆」」<br>メイン展示「これでいいの？　女と男・子どもの未来は」<br>まつりシネマ／まつりコンサート／ミニ音楽会／まつりワークショップ<br>・区政を知る懇談会「新人区議は語る」<br>・プラスワンセミナー「日本社会再生の鍵は･･･女性の活躍」「昔むかしジェンダーがあったとさ」<br>・区からのお知らせ<br>・本の紹介 |
| | 3/31 | 第70号 | ・「日本政府に対する再勧告　女性差別撤廃条約のフォローアップをめぐって」<br>・国際女性の日　ＦＡＯが提唱する開発に向けたジェンダーギャップの解消<br>・プラスワンセミナー「放射線への不安をなくしましょう」「ひと花咲かせるための女の心得帳」<br>・区のお知らせ |
| 平成24年度<br>（2012） | 8/31 | 第71号 | ・ワーク・ライフ・バランスと私たちのくらし　－区の推進計画をよみとく<br>・男女共同参画社会作りに向けての全国会議<br>・プラスワンセミナー「あなたが輝く女性学講座」<br>・これからの世代を育てるために<br>・男女共同参画週間記念講演会<br>・センターからのお知らせ |
| | 12/25 | 第72号 | ・第27回文京区男女平等センターまつり「もう一歩!!　みんなの力で明るい未来」<br>山田五郎講演会<br>ワーク・ライフ・バランスと私たちのくらし　－センターまつり展示より<br>まつりシネマ／まつりコンサート／まつりワークショップ<br>・日本女性会議2012 仙台<br>・プラスワンセミナー「女性の生き方！　女性の自立！」「DVのない社会を目指して～ドメスティック・バイオレンスって何？～」<br>・DVD鑑賞＆懇談会<br>・裁判ウォッチング<br>・区からのお知らせ　・新刊紹介　・センターからのお知らせ |

| 年度 | 月日 | 号 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 平成24年度<br>(2012) | 3/31 | 第73号 | ・ワーク・ライフ・バランスと私たちのくらし　－男性にとってのワーク・ライフ・バランスを考える<br>・パパのワークライフ＆ソーシャルバランス<br>・登録団体企画事業助成について<br>・区政を知る懇談会<br>・ワーク・ライフ・バランス東京2013<br>・区からのお知らせ<br>・センターからのお知らせ |
| 平成25年度<br>(2013) | 8/31 | 第74号 | ・新しい明日をめざして　～働くことを通して考える～<br>・男女共同参画週間記念講演会<br>・プラスワンセミナー<br>・男女平等センター事業2012「黒坂黒太郎トーク＆コカリナコンサート」<br>・未来の女性科学者育成事業「女子中学生のための科学への招待席」<br>・区からのお知らせ<br>・全国会議参加報告<br>・センターからのお知らせ |
| | 12/25 | 第75号 | ・第28回文京区男女平等センターまつり「認め合いから始まる男女平等！」<br>センターまつり開催あいさつ<br>和泉元彌講演会<br>新しい明日をめざして　～働くことを通して考える～<br>まつりワークショップ／まつりシネマ／まつりコンサート<br>・登録団体企画事業助成<br>・プラスワンセミナー<br>・日本女性会議2013 あなん<br>・区からのお知らせ<br>・センターからのお知らせ |
| | 3/31 | 第76号 | ・新しい明日をめざして　～女性のライフデザインとキャリア～<br>・インタビュー記事「未来のために、今、自分ができること」<br>・プラスワンセミナー「編集者として生きる」<br>・裁判ウォッチング<br>・区政を知る懇談会<br>・未来の女性科学者育成事業<br>・区からのお知らせ<br>・利用者アンケート結果速報<br>・センターからのお知らせ |
| 平成26年度<br>(2014) | 9/25 | 第77号 | ☆「男女平等センターだより」を「男女平等センターだよりPARTNER」と改称<br>・「UN　Women」日本事務所開設のお知らせ<br>・北京＋20　世界と日本の女性のエンパワーメントをめぐる課題<br>・文京区ワーク・ライフ・バランス推進認定企業紹介　展示会／座談会<br>・ライフパズル展<br>・男女共同参画週間記念講演会<br>・未来の女性科学者育成事業／リコチャレ紹介<br>・プラスワンセミナー<br>・トーク＆コンサート<br>・新着図書<br>・第29回文京区男女平等センターまつり<br>・男女平等参画推進会議報告<br>・相談室案内 |

| 年度 | 月日 | 号 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 平成26年度<br>（2014） | 12/25 | 第78号 | ・第29回文京区男女平等センターまつり「男女平等!!　希望の未来へ」<br>ドラ・トーザン講演会<br>まつりシネマ／まつりコンサート／まつりワークショップ<br>・文京カラーリボンフェスタ<br>・プラスワンセミナー<br>・区政を知る懇談会<br>・2014夏休み親子企画<br>・裁判ウォッチング<br>・DVD鑑賞＆懇談会<br>・日本女性会議2014 札幌 |
| | 3/25 | 第79号 | ・文京区ワーク・ライフ・バランス推進企業認定<br>・文京区男女平等参画セミナー（出前講座）<br>・プラスワンセミナー「身近な人からの性暴力とDV」「女性の人権としてのリプロダクティブ・ヘルス／ライツ」「職場の女性差別」<br>・未来の女性科学者育成事業<br>・区政を知る懇談会<br>・文京区男女平等センター登録団体企画事業助成<br>・利用者アンケート結果速報<br>・相談室案内<br>・新刊本紹介<br>・これからのセンター事業のご案内 |
| 平成27年度<br>（2015） | 9/30 | 第80号 | ・国連とジェンダー平等　北京会議から20年　どこまできたか、そしてこれからの道は（進歩と課題）<br>・UN Women日本事務所開所式のご報告<br>・UN Women開設記念講演会<br>・男女共同参画週間記念講演会<br>・プラスワンセミナー「学校における性の平等教育」「家庭生活と社会活動の調和」「スウェーデン・フランス・日本・アメリカの比較から」<br>・未来の女性科学者育成事業<br>・夏休み親子企画<br>・第30回文京区男女平等センターまつり<br>・今後の予定 |
| | 12/25 | 第81号 | ・DV・児童虐待の現状を考える<br>文京区オレンジリボンキャンペーン／カラーリボンフェスタ<br>配偶者暴力の防止啓発事業講演会<br>・第30回文京区男女平等センターまつり「一人ひとり　平和の発信この地から」<br>・センターまつり講演会<br>・センターまつりワークショップ／まつりコンサート<br>・プラスワンセミナー<br>・裁判ウォッチング<br>・区政を知る懇談会<br>・日本女性会議2015 倉敷 |
| | 3/25 | 第82号 | ・ジェンダー平等を目指して　－その課題と展望―<br>最高裁大法廷判決と選択的夫婦別姓<br>未来につながる職を志して　～子ども食堂について～<br>不妊体験が女性のライフ・キャリアに与える影響と必要なサポート<br>これからの世代に必要な性の学びとは<br>・男女平等参画に関する区民調査を実施しました<br>・国際女性の日／国際女性デーシンポジウム<br>・平成27年度　登録団体活動報告会<br>・プラスワンセミナー<br>・利用者アンケート<br>・新刊本紹介<br>・これからのセンター事業のご案内 |

## 婦人講演会

| | 年度 | 内容 | 講師 |
|---|---|---|---|
| 婦人講演会 | 昭和 62 年度（1987） | 社会形成への参加を目指して | 山本和代 |
| | | まちと私 | 宮田愛子 |
| | 平成元年度（1989） | 歴史にみる女性の生き方 | 永井路子 |
| | 平成 2 年度（1990） | 平安なる命の日々 | 重兼芳子 |
| | 平成 3 年度（1991） | 女が転機を乗り越える時 | 沖藤典子 |
| | 平成 4 年度（1992） | 女と男のあした | 金森トシエ |
| | 平成 5 年度（1993） | 家族と結婚・新しい関係に向けて | 福島瑞穂 |

## 講　座

| | 年度 | 内容 | 講師 |
|---|---|---|---|
| 婦人講座 | 昭和 61 年度（1986） | 女性と高齢化社会 | 島田とみ子 |
| | | 平塚らいてうと日本のフェミニズム | 舘　かおる |
| | 昭和 62 年度（1987） | 家族の変遷にみる女性の歴史 | 服藤早苗 |
| | 昭和 63 年度（1988） | 医療を考える　～女性の知るべきエイズ知識～ | 南谷幹夫 |
| | | 医療を考える　～地域医療の未来～ | 岡田　清 |
| | 平成元年度（1989） | 国際社会と女たち | 山下泰子 |
| | | おんなの昭和史 | 永原和子 |
| | | 市川房枝のあゆみ | 久保公子　他 |
| | 平成 2 年度（1990） | 男女平等教育を創る | 舘　かおる　他 |
| | | 今、女性の権利は | 坂本福子　他 |
| | | 晶子とらいてう | 米田佐代子 |
| 女性セミナー | 平成 3 年度（1991） | 主婦からの自立 | 武田京子 |
| | | 男の料理 | 宮田かほる |
| | | 男女平等教育の現状と課題 | 駒野陽子 |
| | | 子どもの宇宙がみえますか | 坪井節子　他 |
| | | 自己表現トレーニング | 小野寺八重子 |
| | 平成 4 年度（1992） | 職場の自己表現トレーニング | 小野寺八重子 |
| | | 男女平等教育における人権と性 | 安達倭雅子 |
| | | これからの男と女の関係 | 宮　淑子 |
| | | 現代女性の家庭生活と家庭福祉 | 天野マキ |
| | | 女性の人権をめぐって | 林　陽子 |
| | 平成 5 年度（1993） | 上手に自己表現するには　パートⅠ | 倉持和子 |
| | | 素敵にコミュニケーション | 村瀬幸浩 |
| | | 働く女性の心とからだ | 丸本百合子 |
| | | 性教育の転換点 | 村瀬幸浩 |
| | | 女性史に学ぶ | 折井美耶子 |
| | | 上手に自己表現するには　パートⅡ | 倉持和子 |

| | 年度 | 内容 | 講師 |
|---|---|---|---|
| 男女共生セミナー | 平成６年度（1994） | 女性問題のこれから | 駒野陽子 |
| | | 上手に自己表現するには　パートⅠ | 倉持和子 |
| | | 「青鞜」をめぐる女性たち | 池川玲子　他 |
| | | 男女共生は子ども時代から | 坪井節子 |
| | | 上手に自己表現するには　パートⅡ | 倉持和子 |
| | 平成７年度（1995） | 上手に自己表現するには | 倉持和子 |
| | | 男性の生活自立をめざして | 赤堀博美 |
| | | 世界女性会議（北京会議）に向けて | 羽後静子　他 |
| | | 当世結婚事情 | 板本洋子 |
| | | 女性参政権獲得から５０年 | 久保公子　他 |
| | | 男女平等社会をめざして（教職員向け） | 高山英男 |
| | | 家族と法・社会制度 | 石川昭子　他 |
| | | 男女共生時代の仕事とわたし | 藤重由美子　他 |
| | 平成８年度（1996） | 男性の生活自立を応援するサタデーセミナー | 赤堀博美 |
| | | 女性とメディア | 福沢恵子 |
| | | 働きたいあなたへ（再就職を考える・起業ノススメ） | 原田静枝　他 |
| | | 素敵なパートナーシップのためのカップルで学ぶ国際マナー | 長尾紅子 |
| | | あなたのクラスはジェンダーフリー（教職員向け） | 田中統治 |
| | | 女子学生のための就職準備講座 | 福沢恵子 |
| | | こころもからだもいきいきと（女性の健康） | 北村律子　他 |
| | 平成９年度（1997） | 男性の生活自立を応援するサタデーセミナー | 赤堀博美 |
| | | どう働きどう生きる | 塩田咲子 |
| | | 女性問題を読む、上手な情報発信の仕方 | 福沢恵子 |
| | | 女性のからだのしくみと気になる症状 | 堀口雅子 |
| | | ジェンダーフリーな教育をめざして（教職員向け） | 入江直子 |
| | | 女子学生のための就職準備講座 | 福沢恵子 |
| | | もっといきいきマイライフ | 立松節子 |
| | | トーク＆トーク　支えあって家族 | 広岡守穂　他 |
| | 平成 10 年度（1998） | 男性の生活自立を応援するサタデーセミナー | 守永英輔　他 |
| | | 働く女性のナイトセミナー | 今野久子　他 |
| | | ボランティア入門 | 新谷弘子　他 |
| | | 女性のからだと健康 | 堀口雅子 |
| | | ジェンダーフリーな教育のために（教職員向け） | 亀田温子 |
| | | 女子学生の就職を考える講座 | 春木節子　他 |
| | | トーク＆トーク　楽しい子育てはキッチンで | 赤堀千恵美　他 |
| | 平成 11 年度（1999） | 男性の生活自立を応援するサタデーセミナー | 佐藤和夫　他 |
| | | 働く女性のナイトセミナー | 細田咲江 |
| | | 女子学生のための就職準備講座 | 細田咲江 |
| | | 男女共同参画社会基本法 | 大沢真理 |
| | | 女性とメディア | 諸橋泰樹<br>小玉美意子 |
| | | 教育におけるジェンダーフリーの推進について（教職員向け） | 深谷和子 |
| | | 2000 年世界女性会議に向けて | 藤原房子 |
| | | トーク＆トーク　私にとっての家族あなたにとっての家族 | 堀川三郎<br>萩原なつ子 |

| | 年度 | 内容 | 講師 |
|---|---|---|---|
| 男女共生セミナー | 平成 12 年度（2000） | 女子学生のための就職準備講座 | 福沢恵子 |
| | | 行ってきました女性 2000 年会議 | 橋本ヒロ子<br>区民参加者 |
| | | 女性も男性ももっと元気にいきいきと | 小笠原裕子<br>内田恵理子 |
| | | ジェンダーって何？　ジェンダーフリーな教育をめざして | 江原由美子 |
| | 平成 13 年度（2001） | あなたと介護、私も介護　－男性も介護への参画を－ | 小林奈美 |
| | | コミュニティって、難しくない !?　～「社会参画」への一歩～ | 江上　渉 |
| | | 教育課題研修会　－男女平等教育の推進－ | 堀内かおる |
| | | ドメスティック・バイオレンスなんて関係ないよ。えっ !!　ほんと？ | 吉廣紀代子<br>大津恵子 |
| | | 更年期は女性だけのものだよね。えっ !!　ほんと？ | 横山博美 |
| | | ごはんを作ってみよう！　～学校で家庭科のなかった男たちへ～ | 赤堀博美 |
| 男女平等参画セミナー | 平成 14 年度（2002） | 自分で決める！　自分のからだと性 | 芦野由利子 |
| | | 男女共同参画時代の生き方を考える | 神田道子 |
| | | ジェンダーって何？　～ジェンダー論入門～ | 舘　かおる |
| | | 男だって窮屈だ　～男性の視点からのジェンダー論～ | 近藤　弘 |
| | | 働く場と社会保障　～男女平等参画の視点から～ | 藤野美都子<br>中野麻美 |
| | 平成 15 年度（2003） | 仕事と家庭は両立できるか？　～これからの働き方・生き方～ | 玄田有史 |
| | | 何がＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）なのですか？<br>～ＤＶの現状とその根絶のために～ | 池田ひかり |
| | | 地域で活動する！　～まちをつくる ひと・ちから～ | 富永一夫 |
| | | 働く場、いろいろ。 | 上條茉莉子<br>藤木千草 |
| | | 自分らしく生きるための自己発見講座 | 豊田正義 |
| | | ストーカー問題の解決をめざして | 小早川明子 |
| | | メディア・リテラシーを養おう（中・高校生向け） | 諸橋泰樹 |
| | 平成 16 年度（2004） | 男女共同参画社会基本法の精神 | 橋本ヒロ子 |
| | | 1.29 ショック！　～止まらない少子化と男女平等参画～ | 岡沢憲芙 |
| | | 指定管理者として「エセナおおた」にかかわって | 北田久枝 |
| | | 区民を引きつける講座の企画・運営 | 牟田静香 |
| | 平成 17 年度（2005） | お父さんと作ろう！　料理にチャレンジ | 赤堀博美 |
| | | 売れるスキルを身につけよう！ | 上條茉莉子<br>雨宮泉美 |

# 年　表

| 西暦（和暦） | 文京区 | 国連・国・東京都 | 社会の動き |
|---|---|---|---|
| 1975（昭和 50）年 | | 第 1 回世界女性会議（メキシコ）<br>国連総会「国連婦人の 10 年」を宣言 | |
| 1977（昭和 52）年 | | 国内行動計画策定 | |
| 1979（昭和 54）年 | 文京区婦人会議設置（企画広報部企画課） | | |
| 1980（昭和 55）年 | | 第 2 回世界女性会議ー国連婦人の 10 年中間年（コペンハーゲン） | 女性向け就職情報誌創刊 |
| 1982（昭和 57）年 | 文京区婦人行動計画策定<br>文京区婦人会議を文京区婦人行動計画懇談会に変更 | | 500 円硬貨発行 |
| 1984（昭和 59）年 | | 国籍法・戸籍法一部改正（父母両系血統主義採用） | |
| 1985（昭和 60）年 | 婦人対策担当窓口を企画広報部企画課から厚生部管理課に移管 | 第 3 回世界女性会議（ナイロビ）<br>ナイロビ将来戦略採択<br>女子差別撤廃条約批准<br>男女雇用機会均等法制定 | |
| 1986（昭和 61）年 | 婦人青少年課新設<br>文京区婦人センター開設 | | バブル経済始まる<br>地価高騰<br>初の女性党首誕生 |
| 1988（昭和 63）年 | 文京区婦人行動計画（修正）策定<br>文京区婦人団体連絡会設立（110 団体） | | 青函トンネル開業 |
| 1989（平成元）年 | | | 3%消費税実施<br>セクシュアル・ハラスメントが流行語大賞に |
| 1991（平成 3）年 | 「婦人青少年課」を「女性青少年課」に、「文京区婦人センター」を「文京区女性センター」に、「文京区婦人団体連絡会」を「文京区女性団体連絡会」（以下「文女連」という）に改称<br>文女連に文京区女性センターの管理を委託 | 新都庁舎オープン ( 新宿 )<br>育児休業法成立 ( 平成 4 年施行 )<br>国連難民高等弁務官に日本人女性就任 | 初の女性市長（芦屋市）<br>バブル経済崩壊 |
| 1992（平成 4）年 | 文京区婦人行動計画懇談会を文京区女性問題懇談会に改称 | 女性問題担当大臣設置 | |
| 1993（平成 5）年 | 女性海外派遣事業開始（～ 1999）<br>男女共生社会に向けての区民意識調査報告 | 初の女性衆議院議長<br>初の女性文部大臣<br>国連「女性に対する暴力の撤廃に関する宣言」採択 | 北海道南西沖地震発生<br>細川政権発足、55 年体制崩壊 |
| 1994（平成 6）年 | 文京区女性行動計画策定 | 高校の家庭科男女共修実施<br>初の女性最高裁判所判事 | 日本人女性初の宇宙飛行 |
| 1995（平成 7）年 | 文京区女性センター開設 10 年記念講演会「男女共同参画社会と北京会議」開催<br>記念シンポジウム「95 北京第 4 回世界女性会議―21 世紀に向ける女性たちのメッセージ」開催 | 育児・介護休業法成立<br>第 4 回世界女性会議 ( 北京 )<br>北京宣言と行動綱領採択<br>東京ウィメンズプラザ開館 | 阪神・淡路大震災<br>地下鉄サリン事件 |
| 1996（平成 8）年 | | 男女共同参画 2000 年プラン策定 | |
| 1997（平成 9）年 | 文京区女性行動計画改定<br>第 16 回区政世論調査「女性施策について」実施 | 男女雇用機会均等法改正 | 消費税 5%に引き上げ<br>地球温暖化防止京都会議開催 |
| 1998（平成 10）年 | 文京区女性問題懇談会を文京区男女共同参画推進会議に改称<br>文女連設立 10 周年記念式典等開催 | | 長野オリンピック |
| 1999（平成 11）年 | 第 17 回区政世論調査「男女平等意識」「女性の人権」実施 | 男女共同参画社会基本法施行 | |

| 西暦（和暦） | 文京区 | 国連・国・東京都 | 社会の動き |
|---|---|---|---|
| 2000（平成 12）年 | 女性青少年課を厚生部から区民部へ移管 | 東京都男女平等参画基本条例制定<br>児童虐待防止法、ストーカー規制法施行<br>男女共同参画基本計画策定<br>国連女性 2000 年会議 ( ニューヨーク ) | 女性知事誕生（大阪府・熊本県）<br>2000 円札発行 |
| 2001（平成 13）年 | 文京区基本構想策定<br>文京区男女平等参画推進計画策定 | DV 防止法施行 | 米国同時多発テロ発生 |
| 2002（平成 14）年 | 「女性青少年課」を「男女平等青少年課」に、「文京区女性センター」を「文京区男女平等センター」に改称<br>「文京区男女共同参画推進会議」を「文京区男女平等参画推進会議」に改称 | | サッカーWカップ日韓共催<br>日朝首脳会談 |
| 2004（平成 16）年 | 男女平等参画に関する区民意識・生活実態調査実施 | DV 防止法改正 | 新潟県中越地震発生<br>スマトラ島沖地震発生 |
| 2005（平成 17）年 | 文京区男女平等参画白書発行<br>文京区男女平等センター開設 20 年記念講演会等開催 | 第 49 回国連女性の地位委員会「北京+10」ハイレベル会合（ニューヨーク）開催<br>育児・介護休業法改正 | 愛知万博開催 |
| 2006（平成 18）年 | 「男女平等青少年課」を「男女協働・特命担当課」に改称<br>文女連が指定管理者として文京区男女平等センターの管理運営を開始<br>文京区男女平等参画推進計画改定 | 東京都配偶者暴力対策基本計画策定 | 安倍政権発足　女性閣僚 2 人 |
| 2007（平成 19）年 | | 男女平等のための東京都行動計画「チャンス＆サポート東京プラン 2007」策定<br>「仕事と生活の調和 ( ワーク・ライフ・バランス）憲章」策定 | |
| 2008（平成 20）年 | | | 麻生政権発足　女性閣僚 2 人 |
| 2009（平成 21）年 | 「男女協働・特命担当課」を「男女協働・子ども家庭支援センター担当課」に改称<br>文京区男女平等参画に関する区民意識調査実施 | | 鳩山政権発足　女性閣僚 2 人 |
| 2010（平成 22）年 | 文京区基本構想策定<br>成澤廣修文京区長　育休宣言 | 第 3 次男女共同参画基本計画策定<br>国連女性の地位委員会「北京 +15」 | |
| 2011（平成 23）年 | 文京区男女平等参画推進計画改定<br>ワーク・ライフ・バランス推進企業の認定開始 | UN Women 発足 | 東日本大震災<br>野田政権発足　女性閣僚 2 人<br>女子サッカー「なでしこジャパン」世界のトップに |
| 2012（平成 24）年 | | 女性の活躍促進による経済活性化行動計画策定 | 第 2 次安倍政権発足　女性閣僚2人 |
| 2013（平成 25）年 | 文京区男女平等参画推進条例施行 | | |
| 2014（平成 26）年 | | 女性が輝く社会に向けた国際シンポジウム（WAW ！ Tokyo2014) 開催 | 17 歳マララさん（パキスタン）ノーベル平和賞受賞 |
| 2015（平成 27）年 | UN Women 日本事務所 文京区に開設<br>文京区男女平等参画に関する区民意識調査実施 | 国連女性の地位委員会「北京 +20」<br>第 4 次男女共同参画基本計画策定<br>女性活躍推進法施行 | |
| 2016（平成 28）年 | 「男女協働・子ども家庭支援センター担当課男女協働担当」を「総務課ダイバーシティ推進担当」に移管 | | |

## 編集後記

2016年、日本中が地球の反対側リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックに声援を送り感動しているとき、30年記念誌編集委員会は編集の渦中にありました。

今回の記念誌作成にあたっては、10年誌、20年誌とは、趣の異なる内容で作成することを決めました。

まず、紙面は過去20年誌までの縦書きから横書きへ、全頁をカラーで掲載、30年間のポスターもカラーで紹介し、見ることで理解できるものとしました。

内容は、20年誌で編集されたものをもとに、その後の10年の事業と、30周年記念事業として開催したコンサートとシンポジウムを加えたものとしました。

そして、男女平等センターが文京区の男女平等参画推進の拠点として位置づけられていることを理解していただける1冊になるよう、編集委員一同、推敲を重ね、30年誌が誕生しました。

記念誌作成にあたり、これまでの資料に目を通していくなかで、センター開設にご尽力いただいた方々、そして、30年に渡って管理・運営に携わってこられた多くの諸先輩の熱意と功績に接することができました。

また、文京区女性団体連絡会に管理・運営をまかせるという英断をしていただき、その後を温かく見守っていただいた多くの文京区の関係者に深く感謝申し上げます。

当センターが開設30周年を迎えることができたのは、登録団体をはじめとする多くの利用者の皆様、文京区の関係者の皆様、文女連諸先輩のご理解、ご支援の賜物と、心から深い感謝とお礼を申し上げます。

この30年記念誌が「きのう　きょう　あしたへ」と続く、文京区の男女平等参画社会実現の一助となれば幸いです。

30年記念誌編集委員会
委員長　福　永　喜美代

**30年記念誌編集委員**

荒尾　良　伊古田憲子　伊藤　明子　魚躬　佳愛　岡田　伴子
塩見美奈子　田中ひとみ　千代　和子　堤　節子　福永喜美代
吉野　文江　(事務局)澤山一仁　深澤真佐子

**常任委員**

天野　玄　岩井　久江　工藤　玲子　毛塚由美子　高橋たけ代
竹内あけみ　根尾　英子　松尾百合子　三浦　陽子

文京区男女平等センター 30年記念誌
きのう　きょう　あしたへ
平成28年10月発行

発行　文京区女性団体連絡会
文京区男女平等センター
〒113-0033　文京区本郷4-8-3
電話　03-3814-6159

印刷　株式会社一心社印刷所

*30th*